

第二次

宜野湾市教育振興

基本計画



令和3年3月

宜野湾市教育委員会

はじめに

経済や文化活動が国境を越えてグローバルに展開し、高度情報化、価値観の多様化など社会全体が大きく変容する中、一人一人がより豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会づくりに繋がる対応が求められています。

そのために、豊かな人間性と創造性を備えた子どもの育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進することが大切です。また、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら連携を深化・充実させることが不可欠で、これからの学校は社会と連携・協働し、地域とともにあることが重要です。

さらに、人生100年時代に向け、一人一人の可能性を最大限に引き出し、豊かな人生を送ることができるよう、誰もがあらゆる機会に学び続けることができる環境づくりが求められており、生涯学習の重要性も一層増してきております。

このような中、令和2年、「一人一人の子どもたちが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な力を育む」ことを目指し、新学習指導要領が全面実施されました。

本市では、平成27年度に「宜野湾市教育振興基本計画」（以下、第一次計画）を策定し、「学び合い、未来を切り拓く人材の育成」を基本理念として「人を育てる」という座標軸を据え、人材豊かな宜野湾市づくりを推進してきました。

第一次計画が終了したことに伴い、「基本理念」「基本方向」「基本目標」は継承しつつ「基本施策」について見直し、令和3年度から令和7年度までの本市の教育の方向性を示す計画として、第二次宜野湾市教育振興基本計画を策定しました。

本計画に基づき、教育委員会においては、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場において学習することができ、その成果を地域活動へとつなぐことができる子どもを地域全体で育成し、市民一人一人も自らの夢に向かって輝くことのできる教育の実現を目指し、様々な施策を展開いたします。

結びに、本計画を策定するにあたり、貴重なご意見・ご提言を賜りました宜野湾市教育振興基本計画策定委員の皆様はじめ、調査やパブリックコメント等にご協力いただきました多くの皆様に深く感謝し、お礼を申し上げます。

令和3年3月
宜野湾市教育委員会

目 次

第1章 計画の策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	3
2. 計画の概要	4
第2章 宜野湾市の教育を取り巻く現状と課題	7
1. 基礎データ等の整理・分析	9
2. 上位関連計画の整理	16
3. 課題整理	19
第3章 計画の基本的な考え方（総論）	35
1. 計画の基本理念	37
2. 計画の基本方向	38
3. 計画の基本目標	39
4. 施策体系	42
第4章 施策の展開（各論）	43
基本目標1. 確かな学力の向上	45
基本目標2. 豊かな心・健やかな体の育成	52
基本目標3. 地域と連携した教育活動の充実	56
基本目標4. 教職員の指導力の向上	59
基本目標5. 教育環境の充実	62
基本目標6. 生涯をとおした学びの推進	66
基本目標7. 郷土を学びつなぐ環境の充実	71
基本方向を支える環境整備	74
第5章 計画の推進に向けて	75
1. 宜野湾市の教育を市民みんなで推進していくために	77
2. 計画の実効性	78
3. 計画の周知	78

参考資料 79

1. アンケート調査概要 81
2. 団体ヒアリング概要 128
3. 策定の経緯 133
4. 宜野湾市教育振興基本計画策定委員会規則 134
5. 宜野湾市教育振興基本計画策定委員会委員名簿 136

第1章 計画の策定にあたって



第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

地方公共団体は、教育基本法（平成18年法律第120号）第17条第2項に基づき、教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、地域の実情に応じて教育振興基本計画を定めることとなっております。

宜野湾市教育委員会では、「学び」と「つながり」を視点に、人と人、学校と家庭・地域、郷土と国際社会、現在と未来をつなぐ活動を、学びをとおして進めていくことが重要と考え、大人も子どもも共に学び、自ら未来を切り拓いていくことができる人材の育成を目指し、平成27年度に「学び合い、未来を切り拓く人材の育成」を理念とする「宜野湾市教育振興基本計画」を策定し、各施策の推進に取り組んできました。

その間に、国においては、第3期教育振興基本計画（平成30年6月）が策定され、「自立」「協働」「創造」の3つの方向性を第2期計画から引き継ぐとともに、2030年以降の社会の変化を見据えた教育政策の在り方を示しました。

また、沖縄県においては、沖縄県教育振興基本計画（平成24年度～令和3年度）を見直し、「沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】」（平成29年度～令和3年度）が策定されました。

宜野湾市教育委員会は、こうした国や県の状況、「宜野湾市教育振興基本計画」（平成28年度～令和2年度）の成果や課題を踏まえながら、中期的視点に立った本市の教育が目指すべき方向性と今後5年間に取り組む施策について示した「第二次宜野湾市教育振興基本計画」を策定することといたしました。

【参考】

○教育基本法（抜粋）

（教育振興基本計画）

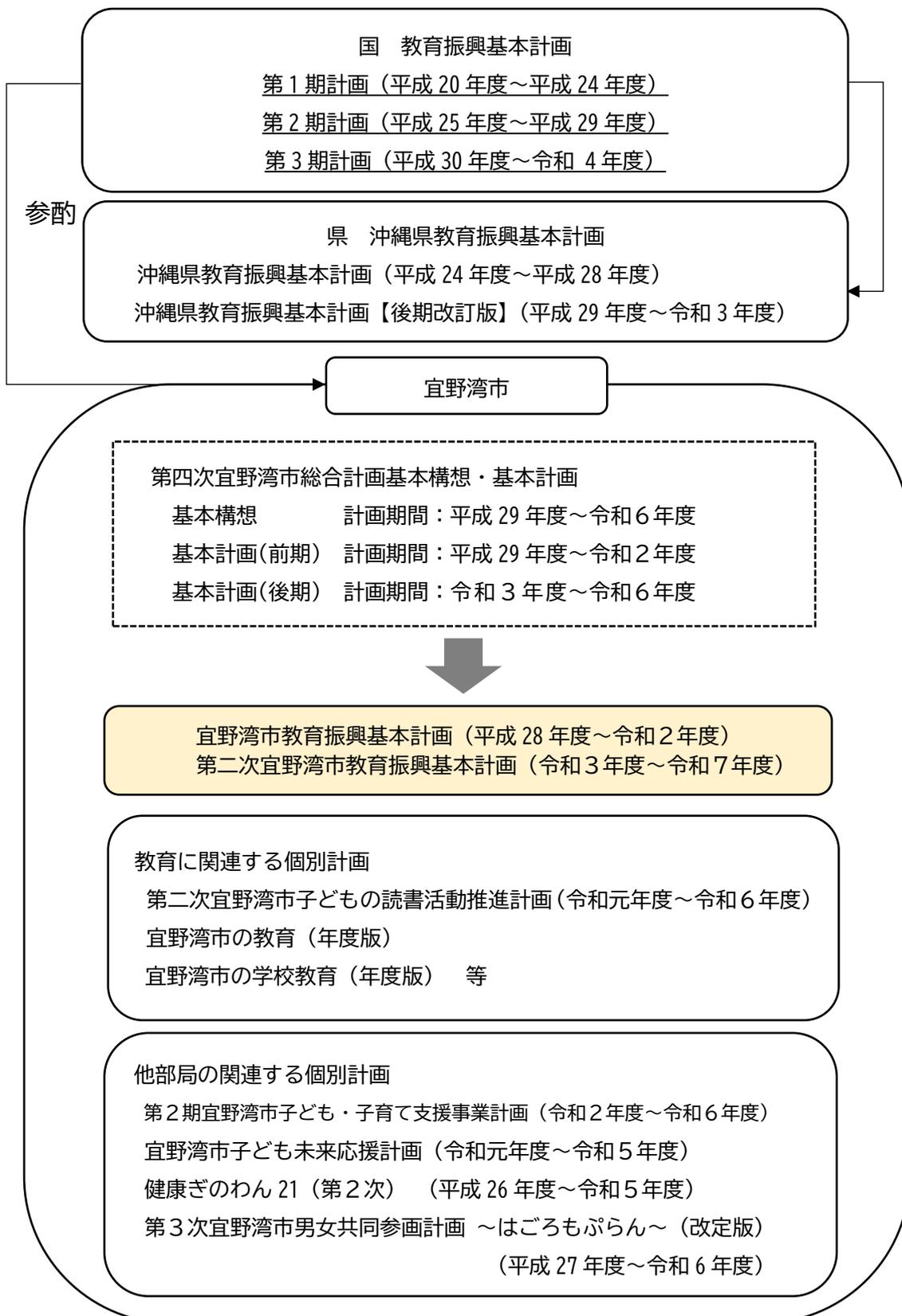
第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

2. 計画の概要

(1) 計画の位置づけ

教育基本法第 17 条第 2 項の規定に基づき国や県の教育振興基本計画を踏まえつつ、第四次宜野湾市総合計画を上位計画として、宜野湾市の教育の振興に関する基本的な方向や講ずべき施策を体系的に示すものです。



(2) 計画期間

令和3年度を初年度とし、令和7年度までの5年間を計画期間とします。

ただし、社会情勢の変化や、計画の進捗状況等により、計画内容と現状とに乖離が見られる場合等には、必要に応じて見直しを行います。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
 第二次宜野湾市教育振興基本計画					
				検証・見直し  次期計画	



第2章 宜野湾市の教育を取り巻く現状と課題



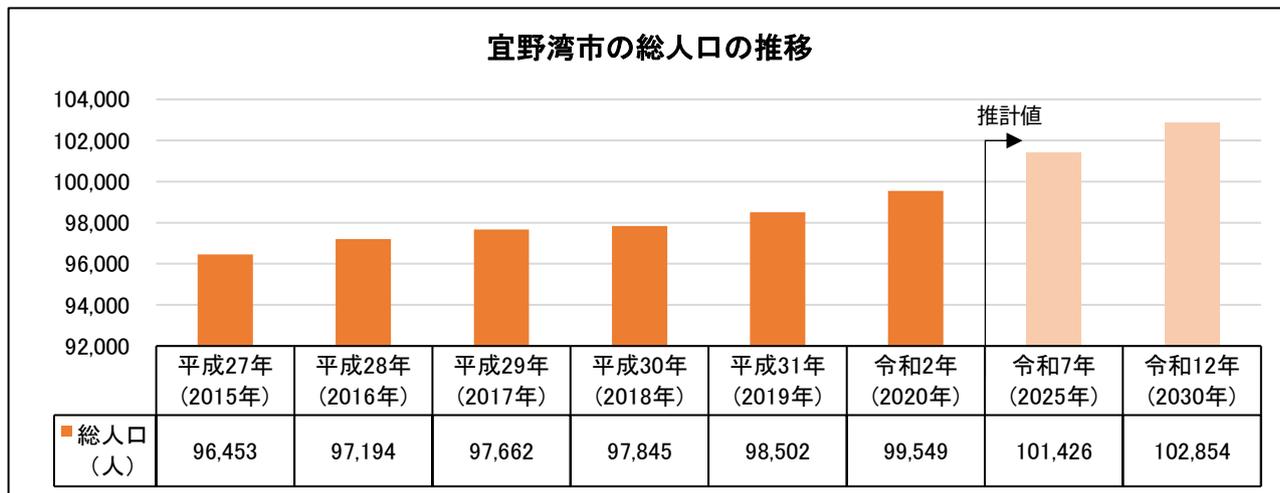
第2章 宜野湾市の教育を取り巻く現状と課題

1. 基礎データ等の整理・分析

(1) 人口・世帯の状況

1) 総人口の推移

令和2年(2020年)の総人口は99,549人で、平成27年(2015年)から年々増加しています。



	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	平成 31 年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 7 年 (2025 年)	令和 12 年 (2030 年)
伸び率	—	0.77%	0.48%	0.19%	0.67%	1.06%	1.89%	1.41%

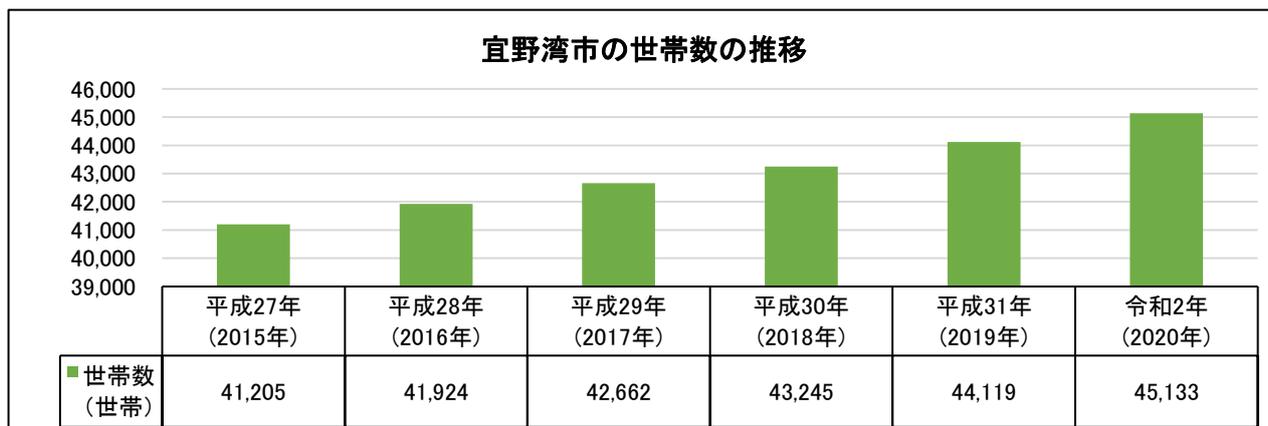
※令和7年(2025年)、令和12年(2030年)は推計値

出典：宜野湾市人口統計（各年3月末日現在）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年推計）

2) 世帯数の推移

令和2年(2020年)の世帯数は45,133世帯で、総人口同様に平成27年(2015年)から年々増加しています。



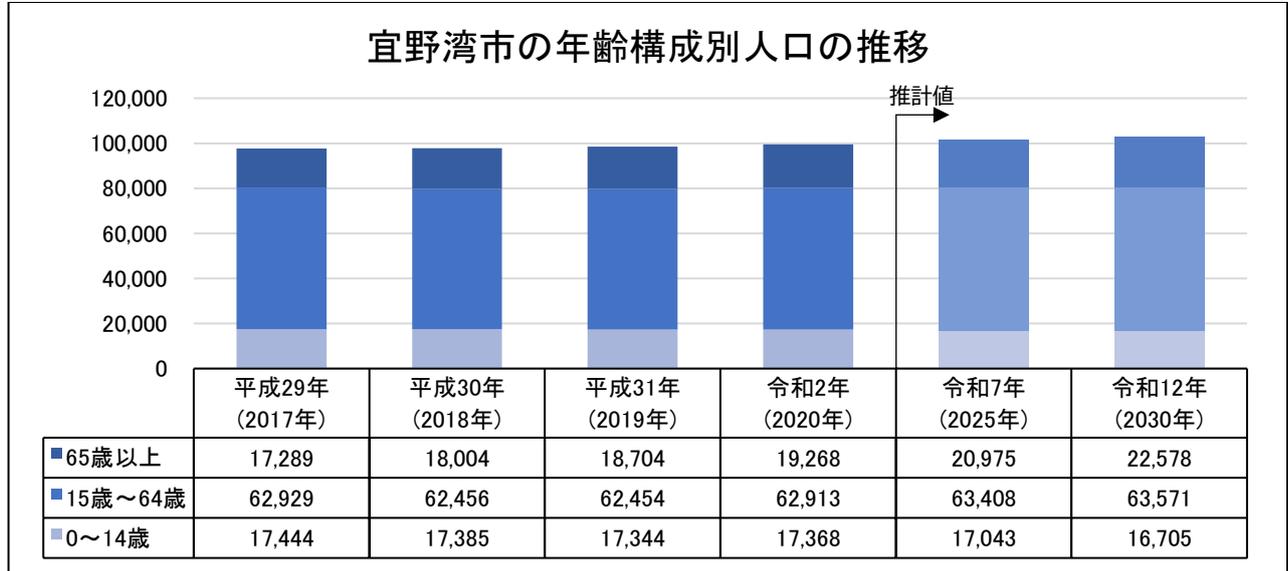
	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	平成 31 年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)
伸び率	—	1.74%	1.76%	1.37%	2.02%	2.30%

※外国人世帯数含む

出典：宜野湾市人口統計（各年3月末日現在）

3) 年齢構成別人口の推移

令和2年(2020年)の年齢構成別人口は、年少人口(0～14歳)が17.4%、生産年齢人口(15～64歳)が63.2%、老年人口(65歳以上)が19.4%となっています。平成29年(2017年)からの推移をみると、老年人口が増加傾向にあります。



※令和7年(2025年)、令和12年(2030年)は推計値

出典：宜野湾市人口統計(各年3月末日現在)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2018年推計)

4) 子どものいる世帯の状況

平成27年(2015年)国勢調査における宜野湾市の一般世帯の状況を見ると、核家族世帯が56%、3世代世帯が3.8%を占めており全国的な傾向である核家族化が進んでいます。単独世帯は35.5%を占め、沖縄県全体の割合より高くなっています。

内容	宜野湾市		沖縄県	
	世帯数	割合	世帯数	割合
一般世帯総数	39,291	—	559,215	—
(核家族世帯)	21,923	56.0%	327,514	58.6%
(3世代世帯)	1,497	3.8%	25,188	4.5%
(単独世帯)	13,951	35.5%	180,974	32.4%
6歳未満世帯員のいる一般世帯	5,141	13.1%	70,982	12.7%
12歳未満世帯員のいる一般世帯	8,027	20.4%	112,944	20.2%
15歳未満世帯員のいる一般世帯	9,432	24.0%	133,688	23.9%
18歳未満世帯員のいる一般世帯	10,962	27.9%	155,174	27.7%
20歳未満世帯員のいる一般世帯	12,139	30.9%	168,694	30.2%

出典：平成27年国勢調査人口等基本集計(総務省統計局)

(2) 幼稚園、学校の状況

1) 市立幼稚園の状況

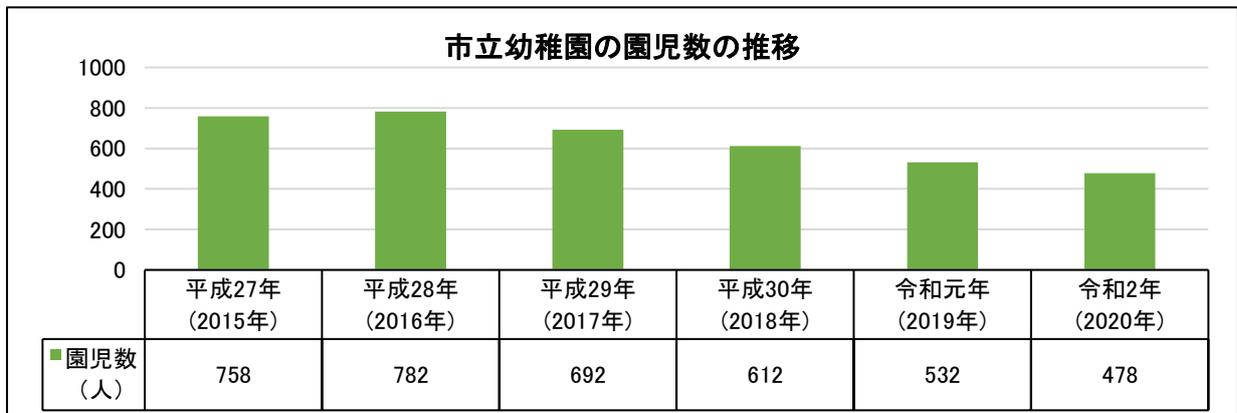
①市立幼稚園の園児数及び学級数

		平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)
普天間 (昭和 45 年)	園児数	66	70	78	49	36	32
	学級数	3	3	3	3	2	2
普天間第二 (昭和 47 年)	園児数	87	73	61	53	48	55
	学級数	3	3	3	3	3	3
大 山 (昭和 43 年)	園児数	94	74	64	55	53	47
	学級数	4	3	3	3	3	3
はごろも (平成 26 年)	園児数	104	113	95	101	80	74
	学級数	4	4	4	4	3	3
大謝名 (昭和 51 年)	園児数	54	68	68	65	42	49
	学級数	3	3	3	4	2	3
嘉 数 (昭和 43 年)	園児数	112	129	97	92	85	71
	学級数	4	5	4	4	3	3
志真志 (昭和 57 年)	園児数	87	99	88	81	83	58
	学級数	3	4	4	3	3	3
長 田 (平成 11 年)	園児数	84	78	69	55	40	44
	学級数	3	3	3	3	2	2
宜野湾 (昭和 46 年)	園児数	70	78	72	61	65	48
	学級数	3	3	3	3	3	2
合 計	園児数	758	782	692	612	532	478
	学級数	30	31	30	30	24	24

資料：宜野湾市教育委員会（各年5月1日現在）

②市立幼稚園の園児数の推移

市立幼稚園の園児数は平成27年(2015年)から平成28年(2016年)にかけて微増したものの、その後減少傾向にあります。

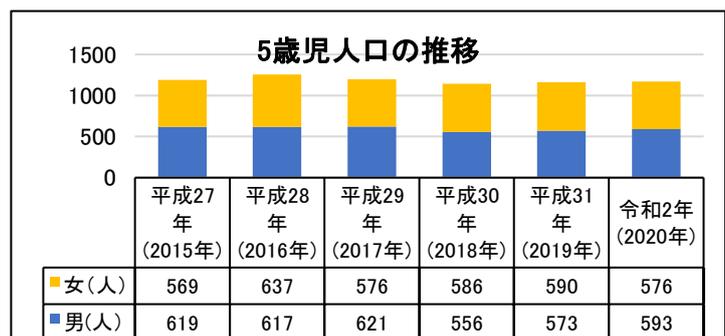


	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)
伸び率	—	3.2%	-11.5%	-11.6%	-13.1%	-10.2%

資料：宜野湾市教育委員会（各年5月1日現在）

【参考】宜野湾市5歳児人口の推移

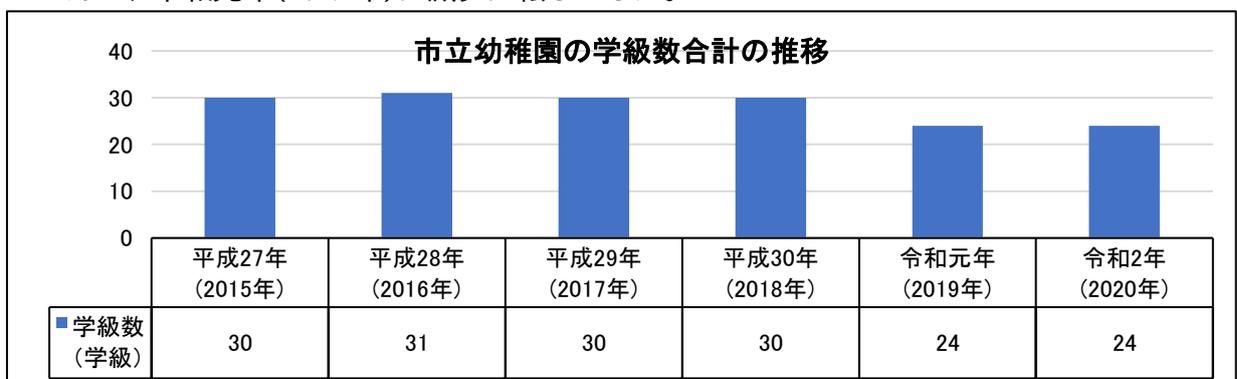
宜野湾市内の5歳児の人口は平成27年(2015年)から令和2年(2020年)にかけての変化はほとんどありません。



資料：宜野湾市人口統計（各年3月末日現在）

③市立幼稚園の学級数の推移

市立幼稚園の学級数は、平成27年(2015年)から平成30年(2018年)まで大きな変化はありませんが、令和元年(2019年)に減少に転じました。



	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)
伸び率	—	3.3%	-3.2%	0.0%	-20.0%	0.0%

資料：宜野湾市教育委員会（各年5月1日現在）

2) 市立小学校、中学校の状況

①市立小学校、中学校の児童生徒数及び学級数

【小学校】

		平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)
普天間小 (明治 39 年)	児童数	653	641	635	630	606	601
	学級数	25 (5)	25 (5)	24 (5)	24 (5)	24 (5)	24 (6)
普天間第二小 (昭和 44 年)	児童数	679	664	644	644	636	630
	学級数	25 (4)	27 (6)	27 (6)	27 (6)	27 (7)	25 (6)
大山小 (昭和 21 年)	児童数	583	614	662	647	633	623
	学級数	21 (4)	23 (5)	27 (7)	25 (5)	25 (7)	27 (9)
はごろも小 (平成 26 年)	児童数	741	806	849	881	921	918
	学級数	28 (4)	28 (4)	32 (5)	35 (7)	37 (8)	37 (8)
大謝名小 (昭和 51 年)	児童数	569	542	549	557	564	587
	学級数	23 (4)	24 (5)	22 (5)	23 (6)	24 (6)	27 (9)
嘉数小 (大正 8 年)	児童数	845	852	861	879	859	877
	学級数	31 (4)	33 (6)	34 (7)	35 (7)	37 (9)	39 (10)
志真志小 (昭和 57 年)	児童数	743	733	757	770	792	794
	学級数	28 (3)	29 (4)	30 (6)	32 (6)	34 (8)	35 (9)
長田小 (平成 11 年)	児童数	605	647	678	697	688	695
	学級数	23 (3)	25 (4)	25 (4)	27 (5)	28 (6)	29 (7)
宜野湾小 (明治 15 年)	児童数	821	824	804	842	831	846
	学級数	28 (3)	30 (4)	31 (5)	32 (6)	33 (7)	35 (9)
合 計	児童数	6,239	6,323	6,439	6,547	6,530	6,571
	学級数	232 (34)	244 (43)	252 (50)	260 (53)	269 (63)	278 (73)

【中学校】

		平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)
普天間中 (昭和 23 年)	生徒数	711	694	662	668	636	609
	学級数	21 (2)	22 (3)	21 (3)	21 (3)	20 (3)	21 (5)
真志喜中 (昭和 54 年)	生徒数	853	847	828	818	866	886
	学級数	25 (2)	27 (3)	27 (4)	30 (8)	31 (8)	30 (7)
嘉数中 (昭和 37 年)	生徒数	736	766	717	731	731	766
	学級数	22 (2)	25 (3)	22 (3)	25 (5)	26 (6)	26 (5)
宜野湾中 (昭和 61 年)	生徒数	692	662	661	635	630	626
	学級数	21 (2)	20 (2)	23 (4)	21 (3)	19 (2)	20 (2)
合 計	生徒数	2,992	2,969	2,868	2,852	2,863	2,887
	学級数	89 (8)	94 (11)	93 (14)	97 (19)	96 (19)	97 (19)

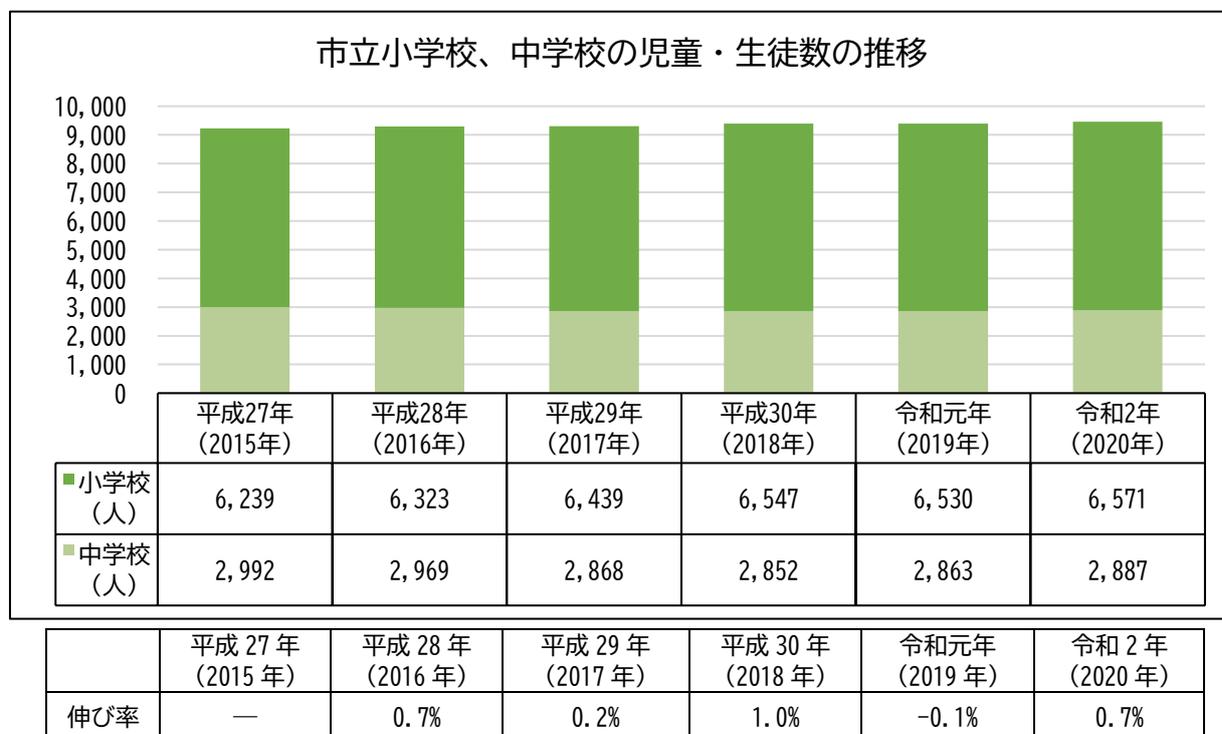
※ () 内は特別支援学級数

資料：宜野湾市教育委員会（各年 5 月 1 日現在）

②市立小学校、中学校の児童・生徒数の推移

市立小学校の児童数は平成 27 年(2015 年)から年々増加し令和元年(2019 年)に微減しますが、令和 2 年(2020 年)には増加しています。また、市立中学校の生徒数は平成 27 年(2015 年)から年々減少し、令和元年(2019 年)から微増しています。

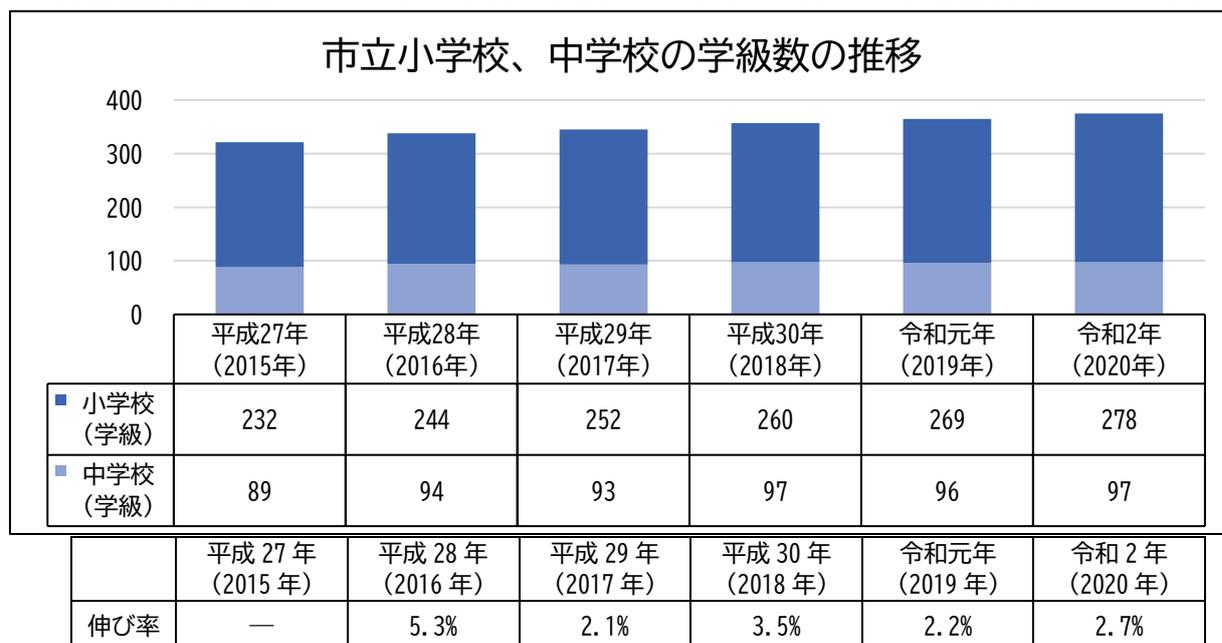
両項目の合計の推移は大きな変化はありません。



資料：宜野湾市教育委員会（各年5月1日現在）

③市立小学校、中学校の学級数の推移（特別支援学級を含む）

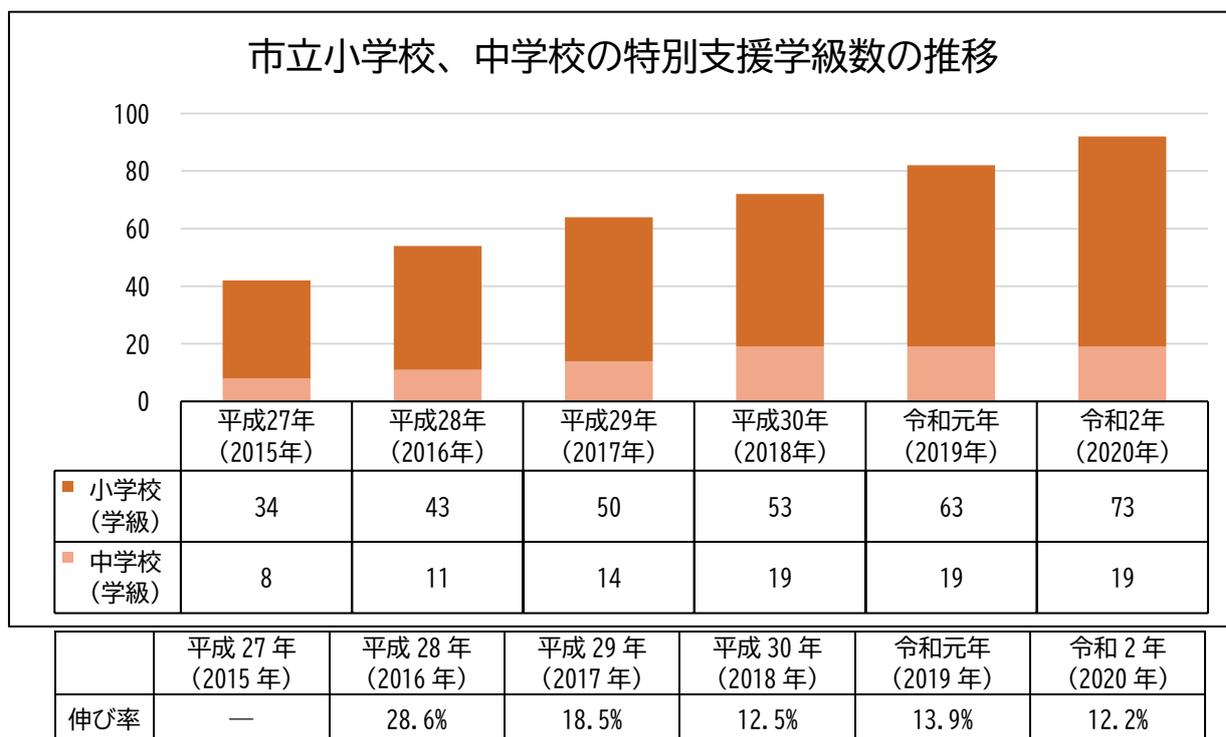
特別支援学級を含む市立の小中学校の学級数の推移は、両項目とも増加傾向にあります。



資料：宜野湾市教育委員会（各年5月1日現在）

④市立小学校、中学校の特別支援学級数の推移

市立の小中学校の特別支援学級数の推移は、両項目とも増加傾向にあります。



資料：宜野湾市教育委員会（各年5月1日現在）

3) 市内の幼稚園、学校の設置状況

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学
市立	9	9	4	—	—
県立	—	—	—	3	—
私立	3	1	1	1	1

参考：令和2年度学校基本調査（令和2年5月1日現在）

2. 上位関連計画の整理

国、県、市の教育に関する施策や取組について整理を行います。

(1) 第3期教育振興基本計画（平成30年策定 文部科学省）

計画期間：平成30年度～令和4年度

第2期教育振興基本計画において掲げた「自立」、「協働」、「創造」の3つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を目指すという理念を引き継ぎつつ、2030年以降の社会の変化を見据えた教育政策の在り方、広く国民の間で教育施策の効果や必要性に対する理解を共有し、社会全体で教育改革を進めるための方策について示しています。

我が国における今後の教育政策の方向性	<p>Ⅲ. 2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項</p> <p>第2期計画の「自立」「協働」「創造」の方向性を継承し、以下の姿を目指す</p> <p>≪個人と社会の目指すべき姿≫</p> <p>(個人) 自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成</p> <p>(社会) 一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会(地域・国・世界)の持続的な成長・発展</p> <p>≪教育政策の重点事項≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「超スマート社会(Society 5.0)」の実現に向けた技術革新が進展するなか「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」、「生産性革命」の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要 ○ 教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組む
今後の教育政策に関する基本的な方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する 2. 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する 3. 生涯学び、活躍できる環境を整える 4. 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する 5. 教育政策推進のための基盤を整備する

(2) 沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】(平成29年策定 沖縄県教育委員会)

計画期間：平成29年度～令和3年度

『沖縄21世紀ビジョン』及び平成24年5月に策定された『沖縄21世紀ビジョン基本計画』に沿い、新たに長期的・総合的観点に立って将来の展望を拓き、効率的かつ効果的な施策展開を図るために、「沖縄県教育振興基本計画」が策定されました。

<p>1 教育の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。 ● 平和で安らぎと活力ある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な県民を育成する。 ● 学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。 ● 幅広い教養と専門的能力を培うとともに、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材を育成する。 												
<p>2 教育施策の体系</p>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-right: 10px;"> 創造性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興 </div> <div style="flex-grow: 1;"> <table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。 </td> <td style="padding: 5px;"> 1 生涯学習の充実 2 学校教育の充実 </td> <td style="padding: 5px;"> (1) 生涯学習推進体制の充実 (2) 県民の学習ニーズに応える学習機会の充実 </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 平和で安らぎと活力ある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な県民を育成する。 </td> <td style="padding: 5px;"> 3 国際社会・情報社会等への対応 4 子どもの貧困対策の推進 </td> <td style="padding: 5px;"> (1) 国際社会に対応した教育の推進 (2) 情報社会に対応した教育の推進 (3) 科学技術の進展に対応した教育の推進 (1) 学校教育による自己肯定感を育む支援と学力の保障 (2) 学校を窓口とした福祉関連機関との連携 (3) 経済的支援 </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。 </td> <td style="padding: 5px;"> 5 青少年の健全育成 6 社会教育の充実 7 文化の継承・発展 8 教育行政の充実 9 スポーツの振興 </td> <td style="padding: 5px;"> (1) 健やかな青少年を育む地域活動・体験活動の充実 (2) ユイマールの心でつなぐ学校・家庭・地域社会の相の連携及び協力 (1) ニーズに応えた活動を支える社会教育基盤の整備・充実 (2) 時代のニーズに応える社会教育活動の充実 (3) 心の触れあいのある家庭教育機能の充実 (1) 文化財の保護と活用 (2) 文化施設の活用と文化芸術活動の推進 (1) 教育施策推進体制の充実 (2) 教育委員会の充実 (3) 教職員等の労働環境の改善・充実 </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 幅広い教養と専門的能力を培うとともに、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材を育成する。 </td> <td style="padding: 5px;"> 10 私立学校教育の振興 11 学士課程教育の充実 12 大学院教育の強化 13 教育研究の推進と基盤の強化 14 社会貢献の推進 </td> <td style="padding: 5px;"> (1) 県民一人一人が参加する生涯スポーツの推進 (2) 県民に夢と希望を与える競技スポーツの推進 (3) 社会体育施設の整備・充実 (1) 私学助成その他の支援 (1) 教育内容の充実 (2) 教育実施体制の充実 (1) 教育内容の充実 (2) 教育実施体制の充実 (1) 教育研究の充実 (2) 教育研究施設・設備の整備の推進 (1) 地域振興に貢献する取組の充実 </td> </tr> </table> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 後期改訂版において新たに設定 </div>	自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。	1 生涯学習の充実 2 学校教育の充実	(1) 生涯学習推進体制の充実 (2) 県民の学習ニーズに応える学習機会の充実	平和で安らぎと活力ある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な県民を育成する。	3 国際社会・情報社会等への対応 4 子どもの貧困対策の推進	(1) 国際社会に対応した教育の推進 (2) 情報社会に対応した教育の推進 (3) 科学技術の進展に対応した教育の推進 (1) 学校教育による自己肯定感を育む支援と学力の保障 (2) 学校を窓口とした福祉関連機関との連携 (3) 経済的支援	学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。	5 青少年の健全育成 6 社会教育の充実 7 文化の継承・発展 8 教育行政の充実 9 スポーツの振興	(1) 健やかな青少年を育む地域活動・体験活動の充実 (2) ユイマールの心でつなぐ学校・家庭・地域社会の相の連携及び協力 (1) ニーズに応えた活動を支える社会教育基盤の整備・充実 (2) 時代のニーズに応える社会教育活動の充実 (3) 心の触れあいのある家庭教育機能の充実 (1) 文化財の保護と活用 (2) 文化施設の活用と文化芸術活動の推進 (1) 教育施策推進体制の充実 (2) 教育委員会の充実 (3) 教職員等の労働環境の改善・充実	幅広い教養と専門的能力を培うとともに、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材を育成する。	10 私立学校教育の振興 11 学士課程教育の充実 12 大学院教育の強化 13 教育研究の推進と基盤の強化 14 社会貢献の推進	(1) 県民一人一人が参加する生涯スポーツの推進 (2) 県民に夢と希望を与える競技スポーツの推進 (3) 社会体育施設の整備・充実 (1) 私学助成その他の支援 (1) 教育内容の充実 (2) 教育実施体制の充実 (1) 教育内容の充実 (2) 教育実施体制の充実 (1) 教育研究の充実 (2) 教育研究施設・設備の整備の推進 (1) 地域振興に貢献する取組の充実
自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。	1 生涯学習の充実 2 学校教育の充実	(1) 生涯学習推進体制の充実 (2) 県民の学習ニーズに応える学習機会の充実											
平和で安らぎと活力ある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な県民を育成する。	3 国際社会・情報社会等への対応 4 子どもの貧困対策の推進	(1) 国際社会に対応した教育の推進 (2) 情報社会に対応した教育の推進 (3) 科学技術の進展に対応した教育の推進 (1) 学校教育による自己肯定感を育む支援と学力の保障 (2) 学校を窓口とした福祉関連機関との連携 (3) 経済的支援											
学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。	5 青少年の健全育成 6 社会教育の充実 7 文化の継承・発展 8 教育行政の充実 9 スポーツの振興	(1) 健やかな青少年を育む地域活動・体験活動の充実 (2) ユイマールの心でつなぐ学校・家庭・地域社会の相の連携及び協力 (1) ニーズに応えた活動を支える社会教育基盤の整備・充実 (2) 時代のニーズに応える社会教育活動の充実 (3) 心の触れあいのある家庭教育機能の充実 (1) 文化財の保護と活用 (2) 文化施設の活用と文化芸術活動の推進 (1) 教育施策推進体制の充実 (2) 教育委員会の充実 (3) 教職員等の労働環境の改善・充実											
幅広い教養と専門的能力を培うとともに、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材を育成する。	10 私立学校教育の振興 11 学士課程教育の充実 12 大学院教育の強化 13 教育研究の推進と基盤の強化 14 社会貢献の推進	(1) 県民一人一人が参加する生涯スポーツの推進 (2) 県民に夢と希望を与える競技スポーツの推進 (3) 社会体育施設の整備・充実 (1) 私学助成その他の支援 (1) 教育内容の充実 (2) 教育実施体制の充実 (1) 教育内容の充実 (2) 教育実施体制の充実 (1) 教育研究の充実 (2) 教育研究施設・設備の整備の推進 (1) 地域振興に貢献する取組の充実											

(3) 第四次宜野湾市総合計画基本構想（平成 29 年策定 宜野湾市企画政策課）

計画期間：平成 29 年度～令和 6 年度

市民の価値観も多様化し、市民の様々なニーズに対応しつつ本市が持続的に発展するために、本市の特性や今後力を入れるべきことをしっかりと捉え、時代の流れや市民意識の変化に応じた今後 8 年間の将来都市像を描き、まちづくりの方針を定め、その方針を達成するためのやるべきことを明らかにするために策定されました。

【教育に関する部分の一部抜粋】

宜野湾市の 特性	<p>子育て環境の充実</p> <p>（前略）放課後児童の居場所づくりや待機児童解消に向けた取り組みを実施しており、子育てしやすい環境整備に取り組んでいます。</p> <p>教育環境の充実</p> <p>本市では、学校教育施設の整備や ICT 活用による授業の実施、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置等、学校における教育・相談・支援体制の充実や、小学校での英語教育の実施、さらには各種研修等により教職員の資質の向上に努めるなど、学校教育の充実に向けた取り組みを総合的に推進しています。</p> <p>今後は、学校だけでなく、家庭・地域社会がそれぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携し、地域全体で教育を行う体制の整備が求められています。</p>
まちづくりの 方向性	<p>未来を担う子ども達の健全な成長を支援する体制の整備を進めます</p> <p>学校教育の充実や、子育て支援・子育て環境の整備は今後力を入れて取り組むべき施策としての市民意向が高くなっています。そうした中、教育現場での ICT 導入や国際交流を通じた人材育成、待機児童解消に向けた取り組み等が実施されてきており、今後も教育体制や子育て支援体制のさらなる充実等、子どもの成長環境の整備に向けた取り組みを進めます。</p>
将来都市像	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"><p>人がつながる未来へつなげる ねたてのまち宜野湾 ～活気にあふれ、豊かで住みよいまちを目指して～</p></div>
基本目標	<p>目標 3：文化を育み、心豊かな人を育てるまち</p> <p>学校教育や社会教育をさらに推進するとともに、歴史ある文化の継承と活用により、市民が生涯学び、いきいきと活動するまちを目指します。</p> <p>具体的には、子どもの学力向上を図るため、学校教育施設の整備、教育現場における ICT の整備及び教職員への各種研修のさらなる充実を図るとともに、生涯学習の機会の創出活動を支援します。また、本市の文化を継承しながら、子どもの頃から芸術・文化に触れる機会を創出し、高齢者と若者等、世代を超えた交流に取り組めます。</p>

3. 課題整理

本市では平成 27 年度に平成 28 年度～令和 2 年度を計画期間とする「宜野湾市教育振興基本計画」（以下、第一次計画）を策定し、その理念、基本方向、基本目標に沿って各教育施策を進めてきました。

第二次宜野湾市教育振興基本計画につきましては、その成果や課題を整理し、教育施策を着実に推進することを大切と考え、理念・基本方向・基本目標を引き継ぎ、今後 5 年間の充実した教育施策を目指していきます。

ここでは、アンケート調査や団体ヒアリング※¹、内部評価等に基づき、第一次計画の基本目標毎に現状や課題を整理します。

※¹ 第二次宜野湾市教育振興基本計画策定のためアンケート調査及び社会教育関係団体等にヒアリングを実施し、結果を本計画書 81 ページ～132 ページへ掲載しています。

基本目標 1. 確かな学力の向上

子どもたちの主体的な学びによる学力の定着や、学びによって得た知識・技能を活用する力を培うこと、また、グローバル化に対応する人材を育成するため、第一次計画においては「幼児教育の充実」、「わかる授業の構築」「特別支援教育の充実」「外国語教育を含めた国際理解教育の充実」「キャリア形成教育の推進」「体験活動や読書活動の推進」に取り組みました。

「幼児教育の充実」については、良質な教育及び保育を提供するとともに、幼稚園が保幼小の「つなぎめ」として連携強化を図り、切れ目のない支援を推進してきました。しかし、幼稚園の在籍児は減少傾向にあり、質の高い幼児教育を提供するとともに、今後は、4 歳児の長期預かり保育の受け入れ、保育時間の延長など保護者のニーズに対応していくことが必要です。

「わかる授業の構築」については、「ぎのわん授業スタンダード」に統一した学習スタイルを推進しました。その結果、全国学力・学習状況調査では、小学校において、国語、算数ともに正答率が全国平均を上回りました。中学校においては、平成 27 年度より全国平均に近づき、一定の成果を上げています。

【小中学校全国学力・学習状況調査正答率推移】

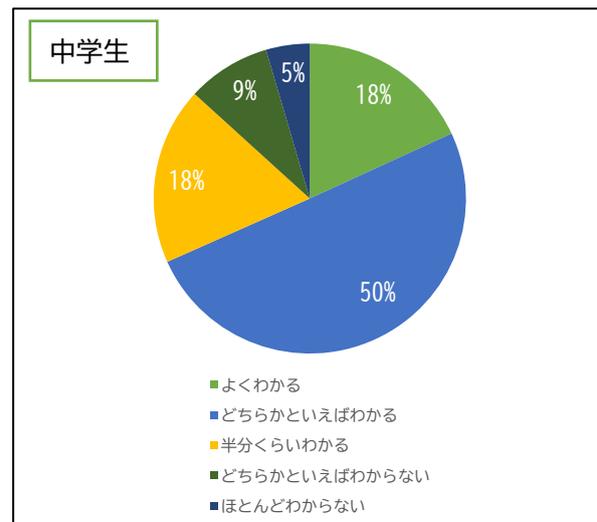
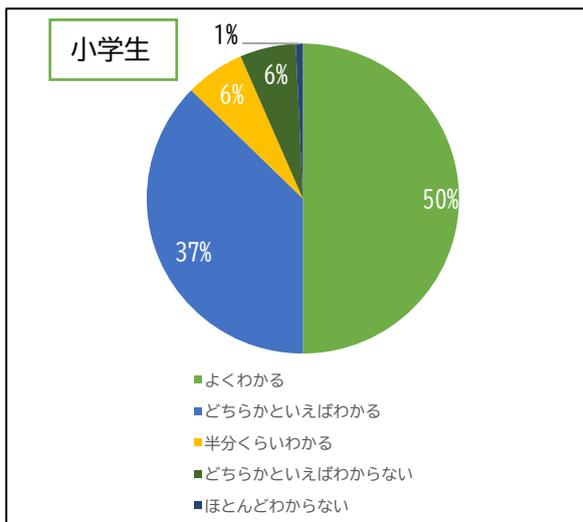
小学校 対象/教科	平成 30 年度				令和元年度	
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語	算数
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	63.8	66.6
沖縄県平均	68	56	66	52	68	68
宜野湾市平均	67	56	68	53	72	68
全国との差	-3.7	+1.3	+4.5	+1.5	+8.2	+1.4

※令和元年度より国語・算数（数学）ともに A・B の区分がなくなりました

中学校 対象/教科	平成 30 年度				令和元年度	
	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	国語	数学
全国平均	76.1	61.2	66.1	46.9	72.8	59.8
沖縄県平均	72	58	59	40	68	53.0
宜野湾市平均	71	57	58	39	68	51.0
全国との差	-5.1	-4.2	-8.1	-7.9	-4.8	-8.8

アンケート調査結果において、「学校の授業はわかりやすいですか。」という質問に対して、小学生は87%が「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と回答しているのに対して、「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と回答した中学生は68%となり、「ほとんどわからない」という小学生が1%に対して、中学生では「ほとんどわからない」と回答している生徒が5%となっています。引き続き、学習に遅れがちな児童生徒への対応等、基礎、基本を確実に習得するための取り組みが必要です。また、本市は各種学力調査の結果から学校間差が大きいことが課題にあげられているため、学校間差を縮める取り組みが必要です。

○学校の授業はわかりやすいですか。

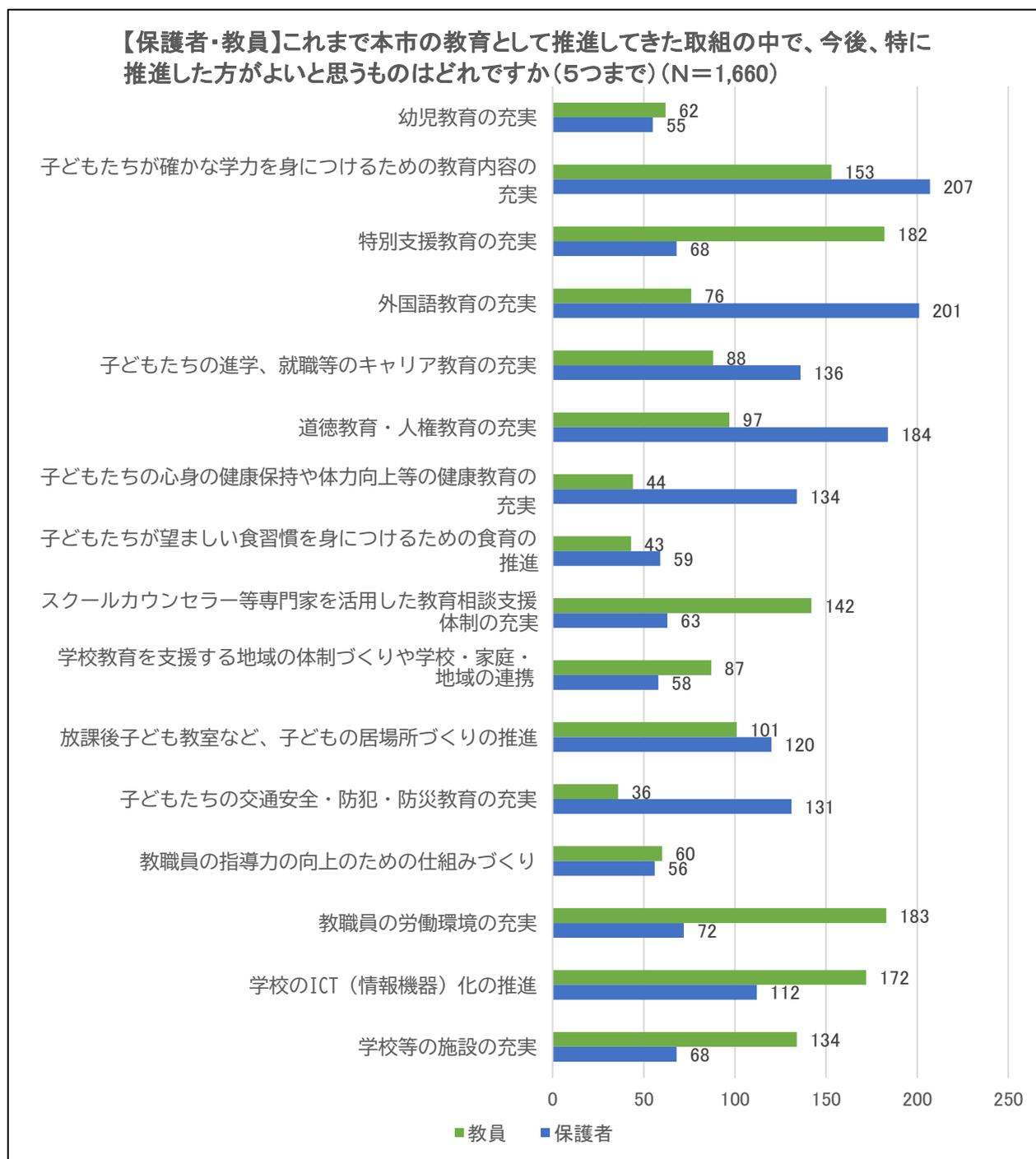


「特別支援教育の充実」については、特別な支援を要する子どもたちへの理解と適切な支援方法の共有を目的とした全教職員対象の研修の実施や、支援計画書の作成等によって、個に適切な支援に繋げることができました。しかし、支援を要する幼児児童生徒は年々増加しており、きめ細かな支援を行うため、特別支援教育支援員の確保に努めると同時に、教職員や支援員のスキルを高めていく必要があります。

また、喀痰吸引や経管栄養等の医療的ケアを必要とする幼児児童生徒の、市立幼稚園、小中学校への在籍希望があり、受け入れに備えて医療的ケアの実施体制整備が必要です。

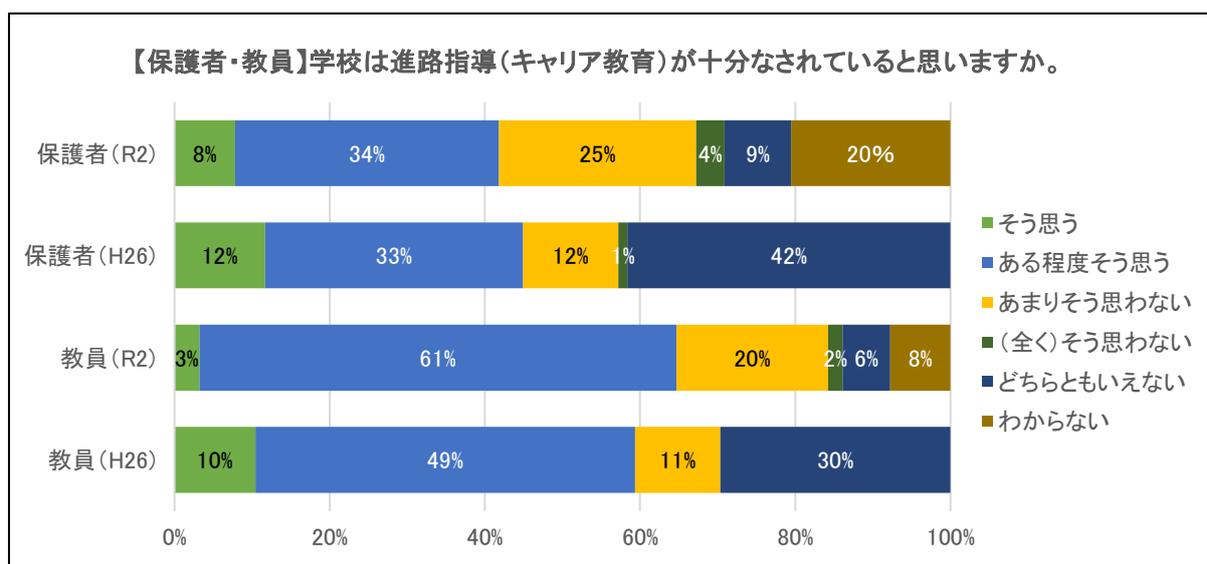
「外国語教育を含めた国際理解教育の充実」については、小学校1年生から4年生までは週1時間の外国語活動、5・6年生は週2時間外国語（英語）を実施し、小中学校一貫した英語教育を推進してきました。アンケート調査では、「これまで本市の教育として推進してきた取

組の中で、今後、特に推進した方がよいと思うものはどれですか」という質問に対して、保護者は「確かな学力を身につけるための教育内容の充実」の次に「外国語教育の充実」と答えた割合が多く、継続して外国語教育に取り組むことが必要です。



「キャリア形成教育の推進」については、小学校では職場見学、中学校ではキャリアスタートウィークを実施したほか、「マナー教室」「職業人講話」などに取り組んできました。また、宜野湾市中学生スクールサミットを開催し、各中学校生徒会活動の活性化に努めてまいりました。

しかし、児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す力が弱いこと、また、令和2年度のアンケート調査の結果では「あなたのお子さんが通っている学校は進路指導（キャリア教育）が十分なされていると思いますか」という質問に対して、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した保護者は42%にとどまっているため、今後はキャリアパスポートの有効的な活用など、さらにキャリア教育を充実させることが必要です。



「体験活動や読書活動の推進」については、小学5年生が集団宿泊学習を通して見聞を広め、基本的な生活習慣や公衆道徳について学ぶとともに、朝の読み聞かせの時間と隙間読書の推奨により、児童生徒の読書時間の確保などに取り組んできました。

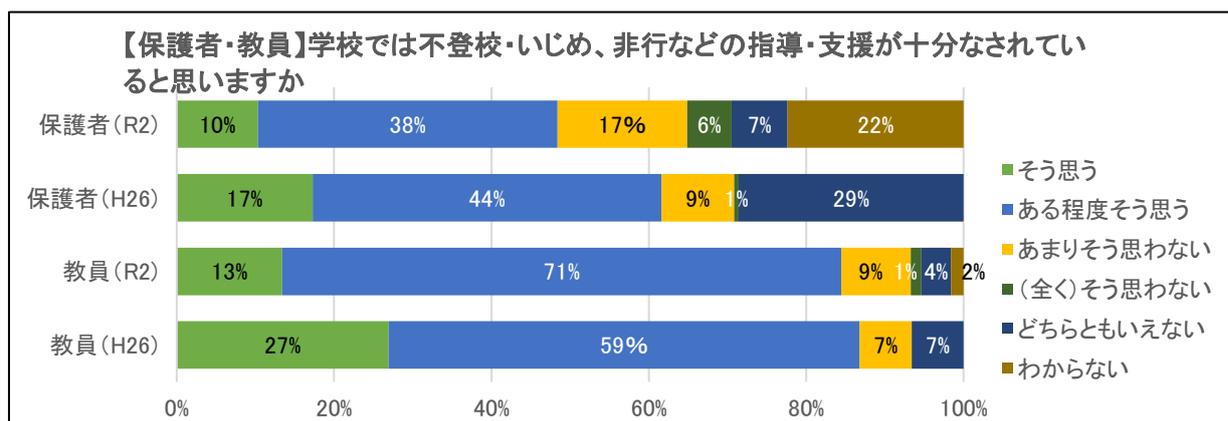
体験活動や読書活動は生きる力を育む大切な取組であるため、より充実した活動に繋げていくことが必要です。

基本目標2. 豊かな心・健やかな体の育成

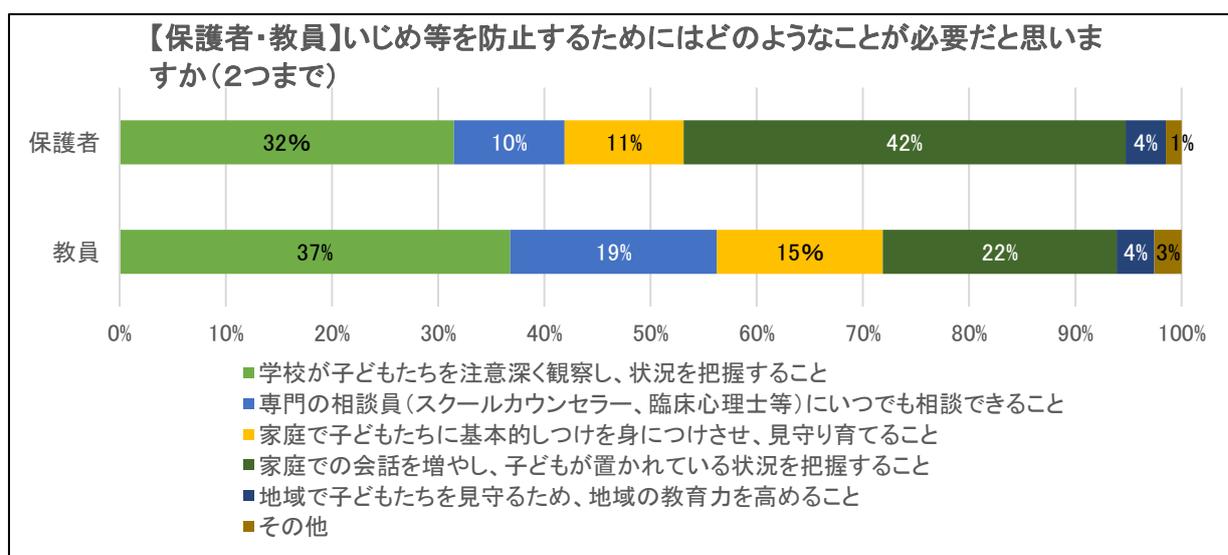
自他の違いを認め、異なる文化や価値観を持った人たちとともに生きるための豊かな心や、たくましく生きるための健やかな体の育成のため、第一次計画においては「人権教育の推進」「道徳教育の推進」「健やかな体づくりの推進」「食育の推進」「教育相談・支援体制の推進」に取り組みました。

「人権教育の推進」については、平成28年度に策定した「宜野湾市いじめ防止基本方針」に沿って各学校で「学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの早期発見、早期対応に取り組んできました。LGBTに係る対応については、児童生徒や保護者の意向を踏まえて個に応じた組織的な支援・相談体制を整えています。

令和2年度のアンケートの調査結果では、「学校では不登校・いじめ・非行などの指導・支援が十分なされていると思いますか」という質問に対し、「そう思う」「ある程度そう思う」と感じている教職員が84%となっているのに対し、保護者は48%にとどまっており、学校の取り組みへの理解、協力が図られるよう取組を推進させることが必要です。



令和2年度のアンケート調査では、「いじめ等を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか」という質問について、教員は「学校が子どもたちを注意深く観察し、状況を把握すること」と回答した人が最も多く、保護者は「家庭での会話を増やし、子どもが置かれている状況を把握すること」と回答している人が最も多い結果となっております。家庭と学校がそれぞれの立場から子どもたちの状況を把握し、連携しながらいじめ等の防止に取り組むことが必要です。

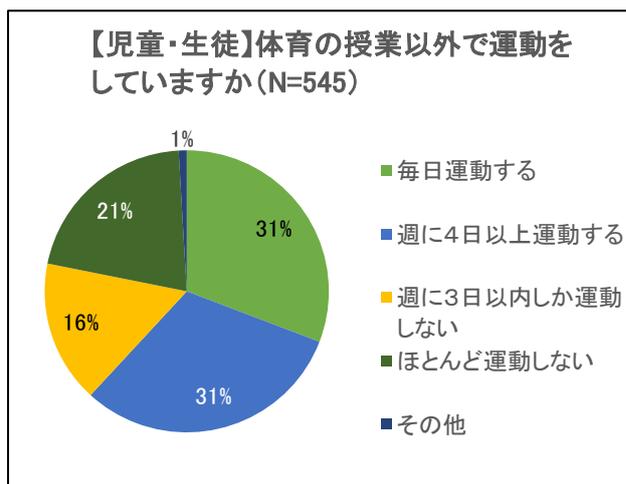


「道徳教育の推進」については、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として教科化されたことにより、「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて、道徳の授業で自分事として捉える発問の工夫、ペアやグループ学習等で自分とは異なる他者との議論や意見交流する場面の設定など、学習形態の工夫に取り組んできました。

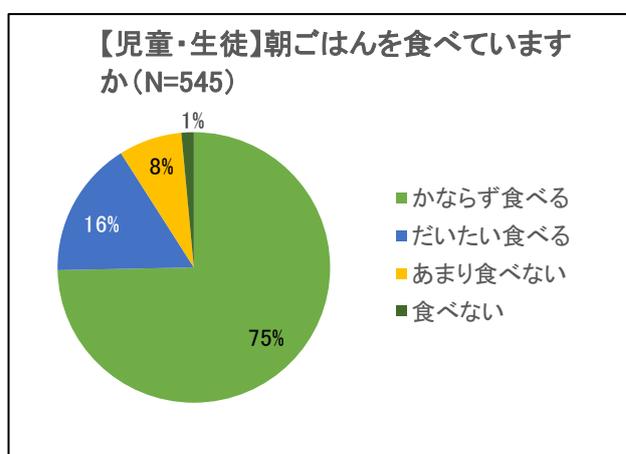
アンケート調査の「これまで本市の教育として推進してきた取組の中で、今後、特に推進した方がよいと思うものはどれですか」という質問に対して、保護者は「確かな学力を身につけるための教育内容の充実」「外国語教育の充実」に次いで「道徳教育・人権教育の充実」と答えた割合が高く、今後も問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、「考え、議論する道徳」を踏まえた心の教育を推進していくことが必要です。

「健やかな体づくりの推進」については、小学4年生での皆泳指導教室の実施や徒歩登校の奨励を行ってきました。また、中学校の部活動について、週2日以上 of 休養日の設定、部活動終了時刻の設定など、適正な部活動の推進に取り組んできました。

児童・生徒へのアンケート調査では「学校の体育の授業以外で運動をしていますか」という質問で 21%の児童・生徒が「ほとんど運動しない」と回答しており、スポーツや健康教育の充実に努める必要があります。



「食育の推進」については、子どもたちの望ましい食生活の定着のため、食育指導、食物アレルギーについての指導を実施するとともに、給食の食材については地産地消を推進してきました。アンケート調査の「朝ごはんを食べていますか」という質問に対して、91%の児童・生徒が「かならず食べる」「だいたい食べる」と回答していますが、「あまり食べない」「食べない」と回答した児童・生徒が9%となっています。朝食の必要性を伝えるなど、望ましい食習慣の定着のため、継続して食育を推進する必要があります。



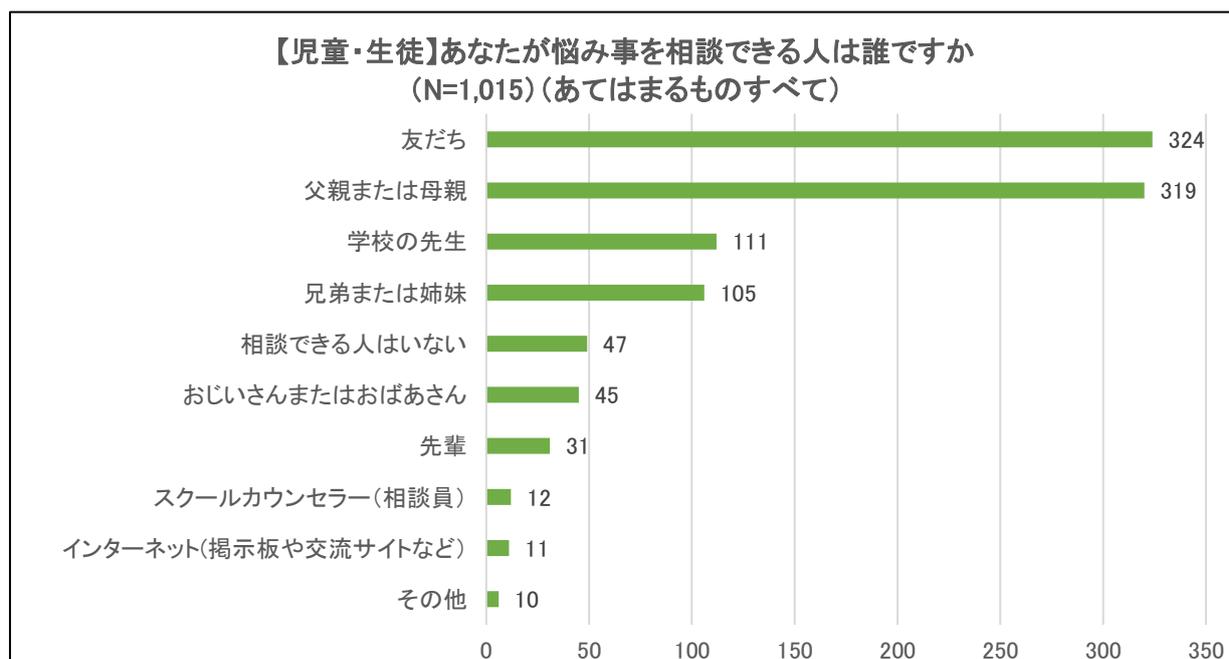
「教育相談・支援体制の推進」については、スクールソーシャルワーカー（SSW）コーディネーターや臨床心理士が学校現場に出向いて学校の支援を行い、学校支援相談会を開催するなど、関係機関等との連携した支援体制の構築を図りました。

しかし、年々、不登校児童生徒の数は増加しているため、対応する職員のスキルアップを図ると同時に学校、家庭、関係機関と連携した支援体制を充実させていく必要があります。

また、アンケート調査の「あなたが悩み事を相談できる人はだれですか」という質問に対して、約5%の児童生徒が「相談できる人はいない」と回答しているため、相談できる場所や人について伝えていく必要があります。

【宜野湾市の不登校児童生徒数の状況】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
小学校	39	62	57	66	81
中学校	164	133	131	143	160
合計	203	195	188	209	241



基本目標3. 地域と連携した教育活動の充実

子どもたちを取り巻く環境は、情報化、ライフスタイルや価値観の多様化に伴いどんどん変化しています。学校はいじめや不登校児童生徒数の増加、特別な支援を要する児童生徒数の増加など多様な課題を抱えているため、地域と連携して学校づくりを行うことが必要です。

第一次計画においては、地域と連携して教育活動を充実させるため、「学校支援地域本部（平成30年度に地域学校協働活動推進事業に事業名変更）を中核とした学校支援の推進」「子どもの居場所づくりの推進」「青少年支援ネットワークの構築」に取り組みました。

今回実施したアンケート調査では、「学校は不登校・いじめ・非行などの指導・支援が十分なされていると思いますか」「学校は進路指導（キャリア教育）が十分なされていると思いますか」などの質問に対して保護者と教員の間意見のずれが見られました。学校においてこれらの課題に対する取り組みを充実させていくことだけでなく、学校・地域・家庭が連携・協働することで目標を共有し、「開かれた教育課程」を実現していくことが必要です。

「学校支援地域本部を中核とした学校支援の推進」については、全小中学校への地域コーディネーターの配置に努め、プールの見守り、ミシン指導、調理実習の補助など多くの人手が必要な授業にボランティアの活用を図りました。事業を円滑に運営する上では、地域コーディネーターを各小中学校に確実に配置し、新規ボランティアの確保に取り組むことが必要です。

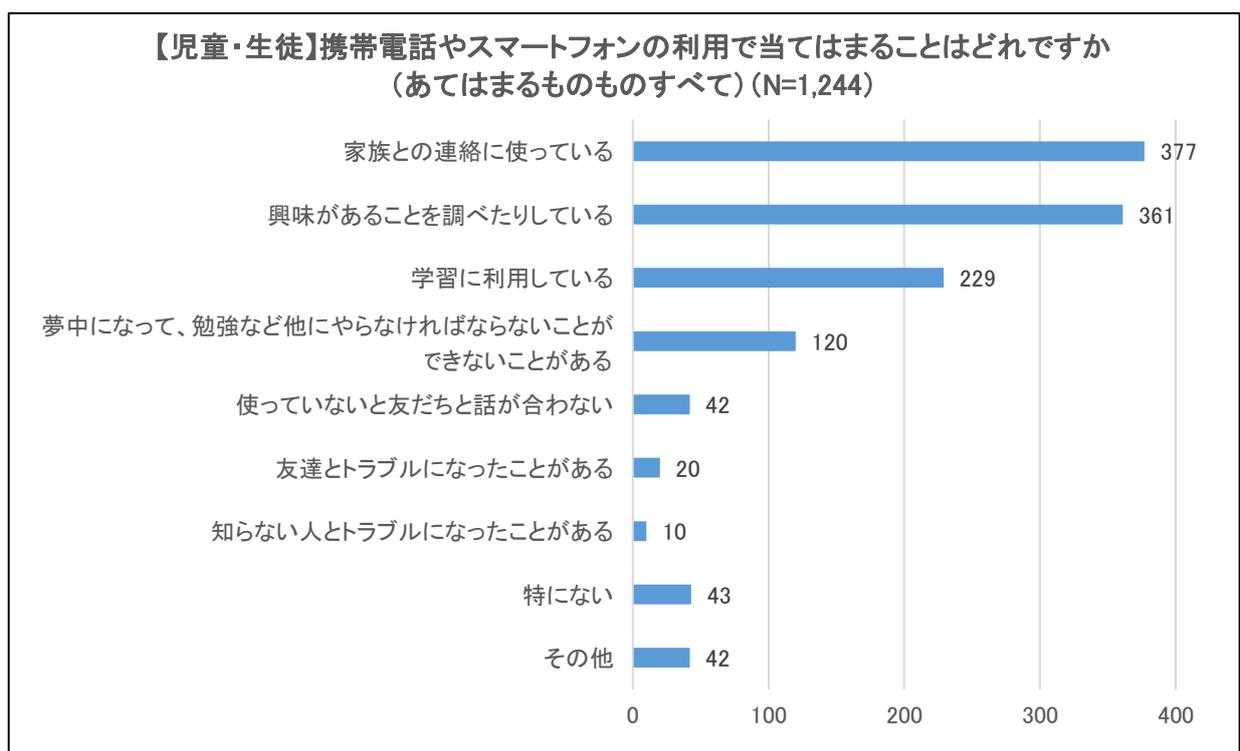
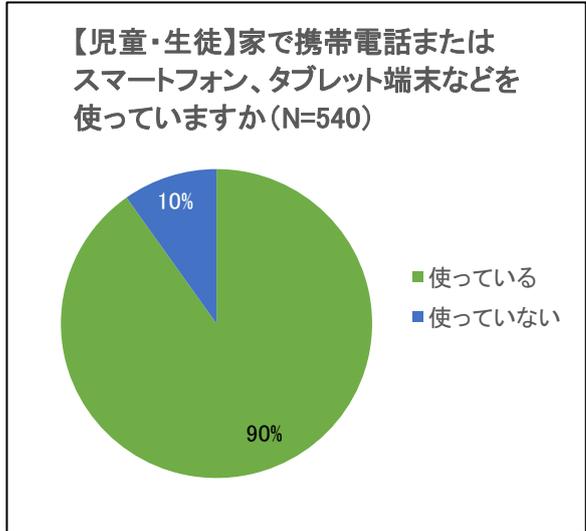
また、コミュニティ・スクールと一体的に推進し、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」が必要です。

「子どもの居場所づくりの推進」については、普天間小学校・大謝名小学校・嘉数小学校の空きスペースを利用して放課後子ども教室を実施し、子どもたちに様々な体験活動や学習の機会を提供しました。

アンケート調査の結果から、「これまで本市の教育として推進してきた取組の中で、今後、特に推進した方がよいと思うものはどれですか」という質問に対して、「放課後子ども教室など、子どもの居場所づくりの推進」と答えた保護者が 16 項目中 5 番目に多く、継続して子どもの居場所づくりに取り組む必要があります。

「青少年支援ネットワークの構築」については、警察や本市の関係部署で構成するはごろもサポートネットワーク(HSN)会議を開催し学校が関係機関に相談しやすい体制を整えました。

しかし、近年、社会問題となっている新たな深夜徘徊として、SNS、YouTube、インターネットを経由したスマホゲーム等に熱中するケースが出ており、年々子どもたちを取り巻く環境が複雑・多様化する中、新たな課題に対応することが求められています。



基本目標4. 教職員の指導力の向上

教職員の指導力の向上のため、第一次計画においては「階層別教職員研修等の充実」「大学と連携した校内研修の充実」「ICTを活用した授業力の向上」「教員の教育研究活動の推進」に取り組みました。

「階層別教職員研修等の充実」については、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修、臨時的任用教諭研修などを実施し、教科及び教職に関する専門的知識や実践的指導力の向上を図ってまいりました。

「大学と連携した校内研修の充実」については、琉球大学教育学部と連携したはごろも教育ネット事業により、大学の先生が小中学校の校内研修に関わることで、授業づくりの質が向上し、学力向上につながりました。沖縄国際大学との連携事業では、学生が児童生徒を指導することで、生徒の学ぶ意欲の向上や学ぶ楽しさを実感することに繋がりました。

「ICTを活用した授業力の向上」については、情報教育研究会において情報モラル教育の授業づくり及び年間カリキュラムの作成に取り組み、児童生徒への情報モラル教育を図りました。情報教育担当者会ではICT機器を活用した授業づくりを推進しました。また、校務支援システム研修等を行い、校務の効率化を図りました。

「教員の教育研究活動の推進」については、幼小中の研究教員が6か月間はごろも学習センターで長期研究教員研修を行い、外部講師の指導を受けながら本市の課題や研究員本人のニーズに応じた課題の解決にむけた研修を実施することができました。また、知能・標準学力検査や総合質問紙調査（i-check）などの諸検査により、児童生徒一人一人に適した支援が図られました。

本市の全国学力・学習状況調査において小学校国語、算数ともに正答率が全国平均を上回り、中学校では、少しずつ全国水準に近づいています。全教職員の研修の充実により授業力が向上し、児童生徒の学力の向上につながっていると考えられます。引き続き研修の充実を図り、学校の教育力の向上に努める必要があります。

基本目標5. 教育環境の充実

子どもたちの教育環境を確保するため、第一次計画においては「学校のICT化の推進」「学校図書館機能の充実」「学校等施設・設備の充実」「子どもの安全・安心の確保」「教職員の労働環境の充実」に取り組みました。

「学校のICT化の推進」については、大型提示装置（電子黒板）の整備により「わかる授業」の展開や情報教育を推進しました。しかし、大型提示装置の導入は小学校の全学級の2分の1しか達成できていないため、今後、更なる整備を検討する必要があります。

また、令和2年度には、GIGAスクール構想を推進するため、GIGAスクール構想推進プロジェクト・チームを立ち上げて学習者用1人1台PC端末と高速ネットワーク環境の整備を図っています。今後はGIGAスクール構想の目的である一人一人の個性に合わせた教育の実現に向けた取り組みを充実させることが必要です。

「学校図書館機能の充実」については、市民図書館と連携して研修を行うことで、学校図書館司書の資質向上などに努めました。今後は市民図書館と資料の共有、活用のためのネットワーク作りなど、学校図書館の機能の充実を図ることが必要です。

「学校等施設・設備の充実」については、志真志小学校（校舎・屋内運動場）、志真志幼稚園（園舎）、大謝名小学校（屋内運動場）などの増改築を進めてきました。新設学校給食センターについては、建設計画の見直しによる遅れはあったものの、平成 29 年度に本格的に運用開始することができました。

また、市立小中学校校舎等の耐震化率については、これまで財源不足等の理由により先送りとなっていた普天間小学校校舎増改築事業を開始したことにより、100%達成する予定となりました。

屋内・屋外施設の整備については、普天間中学校校舎（防音機能復旧・大規模改造）や真志喜中学校（屋外教育環境整備）を実施し、教育環境の改善・向上、施設の延命化を進めてきました。

今後の課題として、学校の屋内・屋外施設の整備については、施設の大規模な修繕に至らないように学校施設を利用する教職員と連携し、施設の状態を的確に把握し、学校施設等長寿命化計画に基づいて計画的に実施していくことが必要です。

「子どもの安全・安心の確保」については、学校の危機管理マニュアルを基に、各学校の実情に合わせた避難訓練を行い、幼児児童生徒の危機回避能力の育成に努めています。また、各小学校校区において通学路の点検を行うほか、小学校 1 年生を対象とした交通安全教室の実施や、学校・保護者・地域が連携して登下校時の交通安全指導、見守り活動を行ってきました。

児童生徒へのアンケート調査では、「防犯や安全のために家族と行っていること」という質問に対して、「学校からまっすぐ帰る」「夜遅い時間に外に出ない」「出かけるときはどこへ誰と行くのか話をする」という回答が多くみられました。

子どもたちが安全に日々を送れるよう、継続して幼児児童生徒に危機回避能力を身につけさせるための交通安全・防犯・防災教育を行うとともに、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを見守っていくことが必要です。

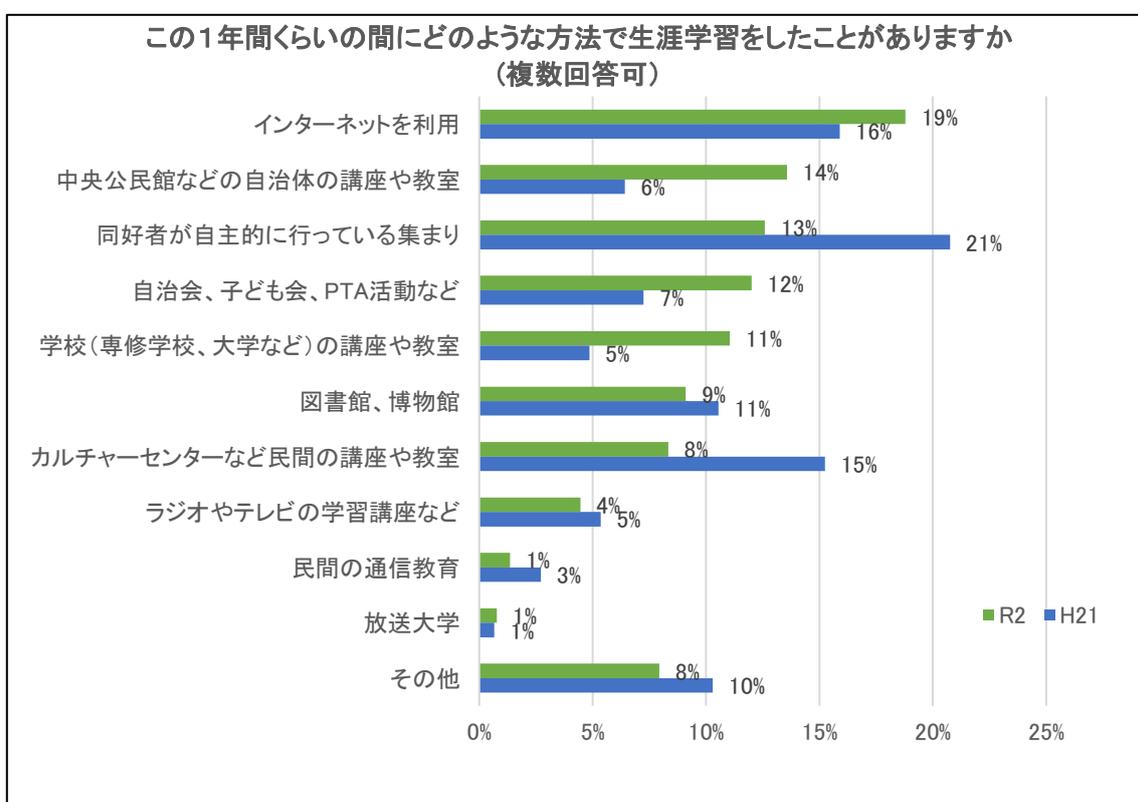
「教職員の労働環境の充実」については、適正な学校運営に繋がるメンタルヘルス対策を計画的に行うことができ、ストレスチェック集団分析結果において高ストレス者の割合が目標値の 10%以下を達成しました。また、学校における働き方改革の一環として、平成 30 年 7 月から IC カードによる出退勤システムを整備し、時間外労働の実態把握をすることにより職場環境を改善できるよう取り組んでいます。教職員に行ったアンケート調査において、「これまで本市の教育として推進してきた取り組みの中で、今後も推進したほうがよい取り組み」という質問に対し、「教職員の労働環境の充実」という答えた教職員が最も多く、「この 1 年間に多忙感を感じたか」という問いに対しては 95%の教職員が多忙感を感じていると回答しており、負担感の軽減、多忙解消などの取り組みを継続していくことが必要です。

基本目標 6. 生涯をととした学びの推進

国の第 3 次教育振興基本計画では、2030 年以降の社会を展望した教育政策の重点事項として、「教育を通じて、生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組む」と示しており、人生 100 年時代を見据え、生涯学習の重要性が高まっています。第一次計画においては、市民一人一人が豊かな人生を過ごし、生涯をととして自ら学び深めていくため、「中央公民館を拠点とした学習支援の推進」「市民図書館を中心とし

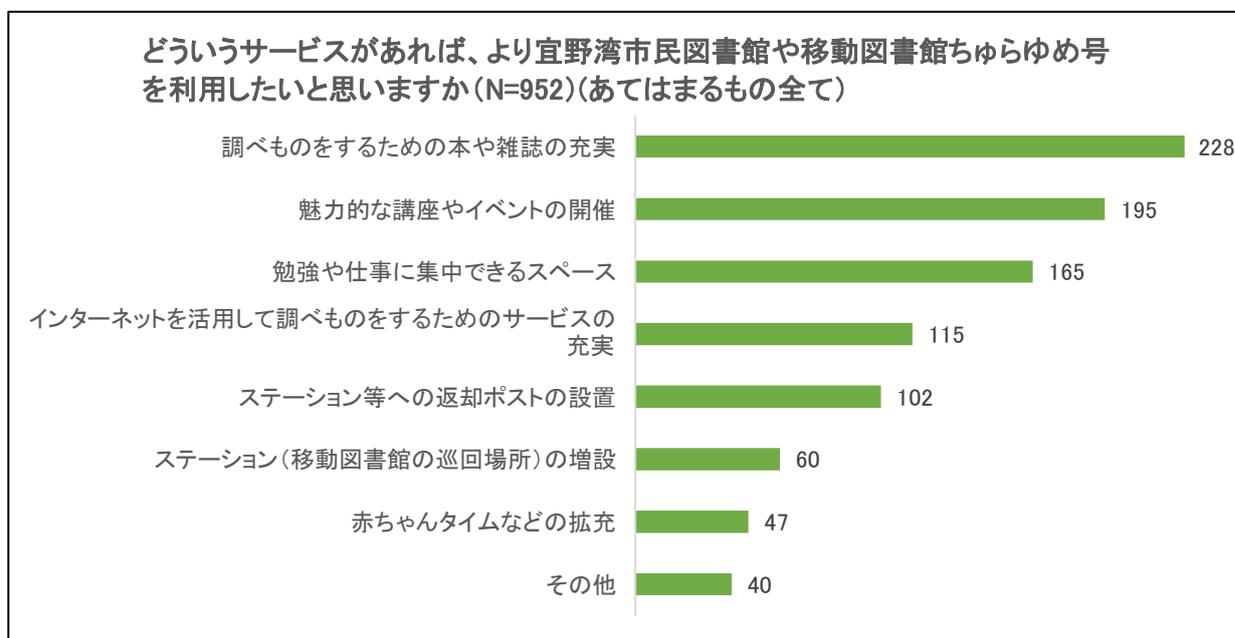
た学習環境の充実と基盤整備」「学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり」「家庭教育支援の充実」「芸術文化活動の推進」「スポーツ・レクリエーション活動の推進」「地域活動団体への支援」「地域を支える人材の育成と基盤整備」に取り組みました。

「中央公民館を拠点とした学習支援の推進」については、公民館講座、各種学級の増加・充実に取り組んできました。アンケート調査では「この1年間くらいの間にはどのような方法で生涯学習をしたことがありますか」という質問に対して、平成21年度の調査では「中央公民館などの自治体の講座や教室」と答えた人の割合が6%だったのに対し、令和2年度の調査では14%と増加しました。また、「どのような方法であれば新たに生涯学習を学びたいと思いますか」という質問に対しては「中央公民館などの自治体の講座や教室」と答えた人が最も多く、今後も中央公民館講座等の取組を充実させていくことが必要です。



「市民図書館を拠点とした学習環境の充実と基盤整備」については、赤ちゃんタイムの設定、移動図書館「ちゅらゆめ号」の巡回ステーションの増設、利用者が多く見込まれる公休日の一部開館を試験的に実施しました。また、令和元年度に貸出点数の増加を行いました。貸出冊数や市民利用者数は減少傾向が続いています。

アンケート調査の結果では、この1年間に市民図書館や移動図書館ちゅらゆめ号を利用した市民は3割となっており、利用しなかった理由で最も多かったのは「利用する時間がないから」、次いで多いのが「宜野湾市民図書館までの交通が不便・自宅から遠い」となっています。また、「どのようなサービスがあれば、より市民図書館や移動図書館ちゅらゆめ号を利用したいと思いますか」という質問については、「調べ物をするための本や雑誌の充実」が最も多く、次いで「魅力的な講座やイベントの開催」となっており、これまでも講演会や講座は好評であったため、継続して実施するとともに、市民の生涯を通じた学びの拠点となるよう市民ニーズへの対応に努めていくことが必要です。



「学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり」については、市民の学習成果の発表の場として生涯学習フェスティバルを開催しており、アンケート調査では3割の方が参加したことがあると答え、「生涯学習フェスティバルに参加して感じたこと」という質問については、「地域の文化祭のようでよかった」という回答が最も多いという結果でした。

生涯学習フェスティバルは多くの団体・来場者が参加し、生涯学習の普及促進という点で充実しており、運営段階から様々な世代が参加できるように計画され、世代間の交流も図られたイベントとして評価を受けています。今後は、地域活動につなぐという視点で事業を見直し、地域自治会と連携した取り組みにすることが必要です。

「家庭教育支援の充実」については、家庭教育学級の実施や沖縄県の「親のまなびあいプログラム」「家～なれ～運動」等の周知に取り組みました。

核家族化、地域におけるつながりの希薄化などにより、家庭の教育力が低下しているといわれています。家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもたちが基本的な生活習慣や規範意

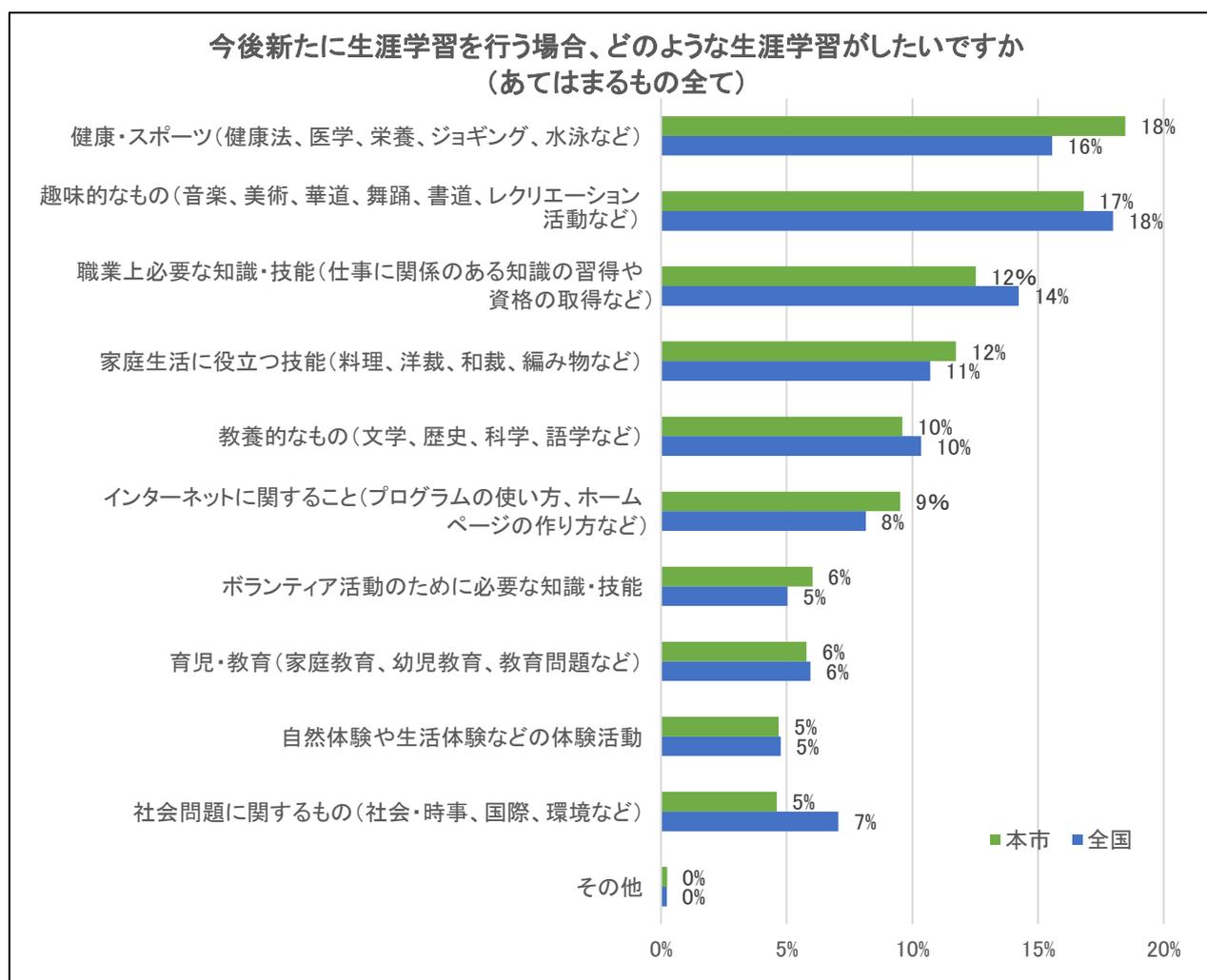
識、自立心を学ぶ重要な役割を果たすものです。地域が家庭を支援し、ともに子どもたちの教育に関わることができる仕組みづくりが必要です。

「芸術文化活動の推進」については、創作市民劇、ミュージックフェスタや文化祭などを実施し、市民一人一人が多様な芸術文化に触れ、親しみ、主体的な活動が展開できるような環境づくりに取り組みました。創作市民劇の公演が平成29年度で終了したため、今後は宜野湾市の地域特性にあった事業について検討していく必要があります。

「スポーツ・レクリエーション活動の推進」については、生涯スポーツフェスティバルの開催や、学校体育施設開放事業により、スポーツの振興を図りました。また、スポーツ推進員を派遣して地域のスポーツ・レクリエーションの指導及びサポートを行ってきました。

本市では、現在、活動を行っている総合型地域スポーツクラブがないため、その育成・支援が必要です。

また、アンケート調査では「今後新たに生涯学習をする場合、どのような生涯学習がしたいですか」という質問に対して、「健康・スポーツ（健康法・医学・栄養・ジョギング・水泳など）」と答えた方が最も多くなっており、生涯学習において市民のスポーツに対する関心が高く、スポーツ・レクリエーション活動を充実させていく必要があります。



「地域活動団体への支援」については、社会教育の充実やリーダーの資質向上のため社会教育関係団体等の関係者を対象とした研修会を開催しました。

「地域を支える人材の育成と基盤整備」については、学習した成果を地域社会や学校教育などに還元するような循環型の人づくりを目指して、市民協働推進課と「ぎのわん地域づくり塾」を共同で実施しました。行政・学校・地域、社会全体の力で総合的な「知」を子どもも大人も形成していく環境づくりのため、社会教育関係団体への支援や地域課題の解決に向けたコミュニティ形成の中核となる人材育成を充実させていくことが必要です。

基本目標 7. 郷土を学びつなぐ環境の充実

郷土を学びつなぐため、第一次計画においては「伝統文化、伝統芸能の継承・発展」「文化財の保存整備等の推進」「歴史を活かしたまちづくりの推進」「博物館を拠点とした歴史・文化の保存活用の充実」「文化関係団体等への活動支援と人材育成」「郷土学習の推進」に取り組みました。

「伝統文化、伝統芸能の継承・発展」については、市の指定文化財である「我如古のスンサーミー」、「大謝名の獅子舞」、「普天間の獅子舞」と「大山の綱引き」、「真志喜の綱引き」、「野嵩のちなひちもうい」、「野嵩マールアシビ」に補助を行い、開催を支援しました。しかし、伝統文化・伝統芸能の継承の中心となっている各自治会の加入者の減少や高齢化により、後継者の育成が大きな課題となっています。

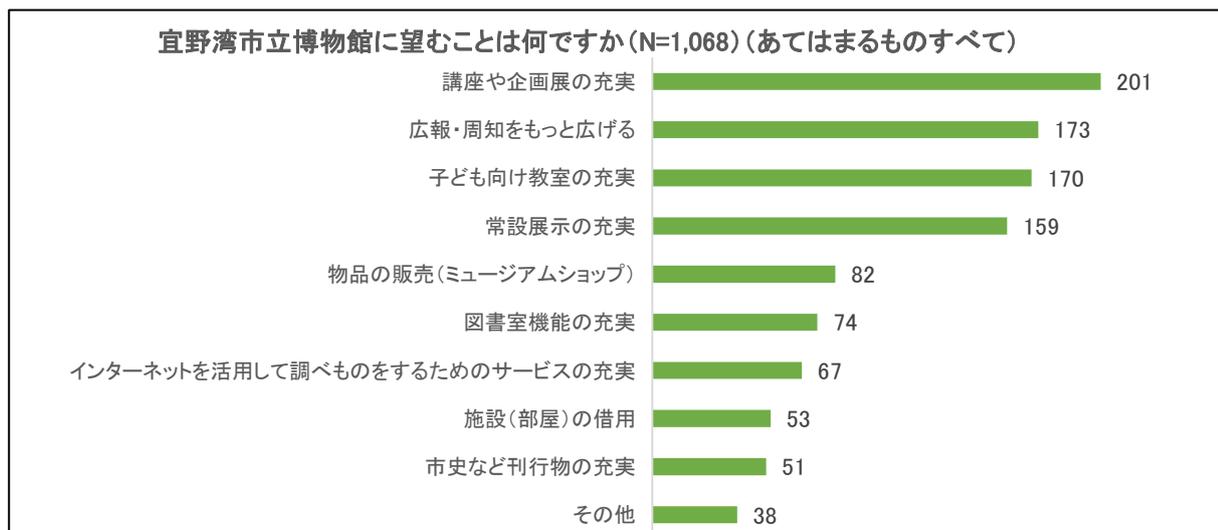
「文化財の保存整備等の推進」については、キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）で発見された「歴史の道」の活用計画の策定や「大謝名メヌカー」、「野嵩クシヌカー」の保存整備・活用を図りました。

「歴史を活かしたまちづくりの推進」については宜野湾間切誕生時から続く 14 字のうち、全域が基地内にある安仁屋区を除く 13 字の自治会事務所等に「地域文化財案内板」の設置をすすめてきました。

新しく移住してきた市民が多くなってきたため、文化財案内板やパンフレットだけでは拝所などの文化財情報が伝わらず、地域の文化財が継承できないおそれがあります。今後も保存整備を行った文化財をまちづくりに活かす取り組みを進めていくことが必要です。

「博物館を拠点とした歴史・文化の保存活用の充実」については、企画展の開催、わらば～体験じゅくの開催、文化財図画作品展などにより博物館事業の充実化を図り、多くの来館者に歴史や文化等の情報を発信することができました。

アンケート調査では、1 年間のあいだに市立博物館を利用した人は 2 割となっており、利用しなかった理由は「利用する時間がないから」に次いで「宜野湾市立博物館で何ができるのかよくわからないから」という回答が多く、市立博物館に望むこととして「講座や企画展の充実」が最も多いため、今後は企画展等の情報について周知を強化していくことが必要です。



「文化関係団体等への活動支援と人材育成」については、イガルー・シマ文化財ガイドの育成と宜野湾市立博物館友の会（以下、博物館友の会）会員向けの展示解説会を開催することで、人材育成を図りました。文化財ガイドが独自で「察度の会」を立ち上げて文化財巡りを企画し、平成31年3月には博物館友の会が独自で企画展を開催するなど、市民参画の郷土学習が推進されており、今後も取組を発展させていくことが必要です。

「郷土学習の推進」については、イガルー・シマ文化財教室の開催、市内小学校3年生への学習支援、博物館市民講座などにより郷土学習の充実を図りました。学習指導要領の改訂により令和2年度から学習支援の対象が従来の3年生に加えて4年生も対象となるため、その周知等を行っていくことが必要です。

・基本方向を支える環境整備

「教育制度の改革と推進体制の強化」については、学校運営協議会を令和2年度までに全校設置してきました。今後は、地域とともにある学校づくりのため、コミュニティ・スクールの取組みを充実させていくことが必要です。

平成27年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正によって、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るために、総合教育会議を設けることが定められました。

本市では、平成27年度は「教育大綱について」、平成29年度には「学校のICT化の推進について」「コミュニティ・スクール導入について」をテーマとして総合教育会議を開催しましたが、平成30年度以降開催できていません。国の第3期教育振興基本計画においても今後の教育政策に関する基本的な方針として「地方公共団体においては教育委員会と他の部局が一体となって取組を進めていくことが必要である」と示されており、本市でも総合教育会議を活用し、市長と宜野湾市の教育の目指すべき姿を共有しながら教育施策を推進していくことが必要です。

また、平成27年度に、11月1日を「ぎのわん教育の日」、11月を教育月間として定め、市民の教育に対する関心を高める取組を推進してきました。今後も教育月間の取組を行うとともに、教育に関する情報を積極的に発信するなど、開かれた教育委員会を目指していくことが必要です。



第3章 計画の基本的な考え方（総論）



第3章 計画の基本的な考え方（総論）

1. 計画の基本理念

「基本理念」とは、令和3年度から令和7年度までの5年間に推進する本市教育の基本的な考え方と目指すべき姿を示したものです。

■基本理念

学び合い、未来を切り拓く人材の育成

国の第3期教育振興基本計画は、今後の社会の方向性として、「自立」「協働」「創造」の三つの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築を第2期教育振興計画より継承しています。

本市においても、第一次である「宜野湾市教育振興基本計画（平成28年度～令和2年度）」に引き続き、「自立」「協働」「創造」を基軸とした教育施策を推進していきます。

本市には3つの高等学校や、近隣を含めた3つの大学、専門学校やコンベンションセンターが立地し、多様な人が行き来する国際性豊かなまちです。第四次宜野湾市総合計画では、将来都市像を「人がつながる 未来へつなげる ねたてのまち宜野湾」と掲げ、活気にあふれ、豊かで住みよいまちを目指しています。

このような多くの高等教育機関を身近に感じ、これらの機関と連携、協力して様々な教育活動を推進していくことのできる教育的優位性を活かしながら、本計画では、子どもたちが自ら学び、自ら考えるなど、知・徳・体の調和のとれた力「生きる力」を基本としつつ、その理念をさらに発展させ、社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力「人間力」を高めていきます。その中で、モデルとなる大人が社会でどのように生き、何が必要とされているのかを見せることによって学ぶことの意義を子どもたちに伝えるような環境づくりが大切です。

学校・家庭・地域が学びや活動をとおして、つながり、支え合いながら成長することにより、「人間力」を高め、夢の実現に向けて未来を切り拓くことのできる人材、そして地域から世界につながり活躍できる人材の育成を目指します。

2. 計画の基本方向

基本理念を踏まえつつ、以下に本計画の3つの基本方向を示します。

■基本方向

(1) 生きる力を育む ”ひとづくり”

- ・ 宜野湾市の教育の中心には子どもたちがいます。未来を生きる子どもたち誰もが自立した一人の人間として夢に向かって力強く生きていくとともに、社会の一員として役割を果たすことができる「未来を担う人間力」を身に付けることは大切です。自らが主体的に課題を解決できる知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成を目指します。

(2) 学校に関わる人たちが活動をとおしてつながる ”学校づくり”

- ・ 子どもたちのまわりには学校があります。子どもたちだけではなく、その成長を支える保護者や地域の人たちも学校を支援しながら、学びや生きがいづくりにつなげていきます。また、全ての教師が教育の専門家として成長できるよう支援し、学校に関わる人たちが交流や活動をとおして連携、協力することにより地域に開かれた魅力ある学校づくりを目指します。

(3) 地域が学びをとおしてつながる ”まちづくり”

- ・ 大人自身も教養や趣味の世界を広げ、豊かな学びと人間性を培えるよう市民へ学習機会の提供をしていくとともに、市民が地域社会とつながるための多様な社会参加の場を創りだし、活動をとおした人材育成を推進し、地域へ還元していく仕組みづくりに取り組みます。大人も子どもも地域を知り、つながり、学び、行動していくこと、そして今を生きる人たちとつながるだけでなく、未来へつながるまちづくりを目指します。

本計画では「学び」と「つながり」を視点に各施策を推進していきます。

3. 計画の基本目標

基本目標1. 確かな学力の向上

子どもたちが社会の様々なことに興味・関心をもって自らすすんで学習に取り組むとともに、学びによって習得した知識・技能を活用する力、他者と協働するためのコミュニケーション力・語学力、異文化に対する理解や日本人としてのアイデンティティを培っていくなど、グローバル化を見通した人材育成は重要な視点です。子どもたちが体験活動をとおして学ぶ楽しさを感じたり、自立心を培うなど、意欲の向上につなげる取組を推進します。

また、子どもたち一人一人が自らの将来について夢や希望を持つことは、学ぶ意義を認識したり、学習意欲の向上、学習習慣の定着につながることから、子どもたちの視野を将来にまで広げ、サポートするため、キャリア教育の充実を図り、生涯にわたって学び続ける姿勢を身につける教育活動を進めます。

基本目標2. 豊かな心・健やかな体の育成

自他の違いを認め、年齢の違う人、障がいのある人、外国人など異なる文化や価値観を持った人たちと共に生きるための豊かな心や、社会の一員としての規範意識など、社会性を育む教育活動に取り組むとともに、いじめや不登校、児童生徒の問題行動の未然防止、早期対応を行うため教育相談体制の充実を図ります。

また、たくましく生きるための健やかな体を育む教育を進めるとともに、学校給食を通して正しい食生活への理解と望ましい食習慣の形成を図るよう食育への取組を推進します。

基本目標3. 地域と連携した教育活動の充実

子どもたちを取り巻く環境は、情報化、価値観の多様化も含めてどんどん変化しており、学校は、これまで以上に様々な課題を抱えていることから、学校が地域とともに学校づくりをしていくことが必要です。また、地域も急激な社会変化の中で支え合いやつながりが希薄化しており、地域住民自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換が必要となっています。学校と地域が相互の連携・協働により、学校づくり、地域づくりを進め、一体となって子どもたちの成長を支えるため、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を推進します。

さらに、地域住民、社会教育関係団体、NPO、大学生など様々な人材を活用しながら、学校や公民館、子どもの身近な場所で体験や交流活動、学習支援を行うなど、地域ぐるみで子どもを育成する体制づくりに取り組むとともに、活動を通して、地域の大人の学びや自己実現、生きがいを目指し、学校と地域、地域と地域をつなぐ取組を推進します。

基本目標 4. 教職員の指導力の向上

学校の教育力とは、教職員の実践的指導力といっても過言ではありません。様々な研修プログラムの設定、近隣大学や地域内外の多様な人々との協働実践を図りながら、校内研修の充実に努めます。

また、大型提示装置（電子黒板）、学習者用1人1台PC端末やデジタル教科書等のICTを活用した授業の活性化を図ることにより、子どもたちへ、より細かな指導と効果的な授業が展開できるよう、教職員のICT活用指導力向上に努め、授業力の向上を図ります。

様々な教育課題については、教職員の研究活動への参加促進を図り、課題解決に向けた意欲的な取組を支援し、成果を広げながら、教職員の人材育成に努めます。

基本目標 5. 教育環境の充実

安全・安心な教育環境を確保することにより、学校の教育力が高められます。子どもたちが事故や犯罪、自然災害などに巻き込まれないよう通学路や施設の安全点検を実施するなど地域、関係機関と連携して子どもの安全確保と見守り活動を推進していきます。

施設などのハード面では、学校施設の耐震化、老朽化対策を進め、学校施設環境の充実に図りながら、地域施設としての学校の役割を考慮し、避難所としての機能の確保に取り組みます。

学校のICT化の推進については、大型提示装置、学習者用1人1台PC端末やデジタル教科書等のICT機器の活用を図り、GIGAスクール構想の目的である一人一人の個性に合わせた教育の推進、「わかる授業」の充実に努めます。

学校図書館については、児童生徒の読書活動の充実と学習支援に向けて学校間や市民図書館との連携・協力体制を強化した取組を進めます。

多忙を極める教職員の労働環境の充実に向けては、週1回の「定時退勤日」の設定、部活動休養日や部活動時間の設定、リフレッシュウィーク及び学校閉庁日の設定の他に、自動音声対応電話機の活用により業務時間外の電話対応業務の軽減などを図ります。また、社会問題となっている教職員の心因性による休職者の増加については、産業医や臨床心理士等、専門家を活用したメンタルヘルス対策に努め、教職員の健康保持、増進に関する取組を推進します。

基本目標 6. 生涯をととした学びの推進

市民一人一人が豊かな人生を過ごしていくためには、生涯をととして自ら学び深めていくことが大切です。豊かな学びを創るため、市民図書館や中央公民館など学びの拠点施設を中心とした学習支援や芸術文化、スポーツ・レクリエーション活動を推進していきます。

また、家庭環境の多様化、地域社会の変化にともない、家庭が抱える様々な課題の解決に向けて、親と子の育ちを支援する学習機会の提供や地域と協力して子どもの望ましい生活習慣の定着を図るなど、家庭の教育力向上に向けた支援体制の充実を図ります。宜野湾市では大人と子どもが共に学び、学びを広げることにより地域のつながりを築いていきます。そして地域の子どもたちを地域に貢献する人材に育てることにより次の世代を育成する世代間循環サイクルを構築していきます。

さらに、学びをととした自己実現の支援とともに学習成果を地域社会や学校教育に還元できる地域のキーパーソンを育成するため、「ぎのわん地域づくり塾」の開催や、社会教育関係団体をはじめとする地域活動団体の育成と活動支援を行っていきます。

基本目標 7. 郷土を学びつなく環境の充実

グローバル化の進展にともない人、モノ、情報が行き交い多様な交流が活発化していく中、郷土に誇りと愛着を持ち、地域とのつながりを大切にしながら国際社会に羽ばたく人材を育成するため、学校の教育課程において郷土学習の実践を進めるなど、郷土の自然、歴史や文化、偉人などに学び親しむ環境づくりを進めるとともに、将来的に貴重となる公文書や地域の歴史、文化に関する地域資料を積極的に収集、保存する取組を推進します。

また、文化財ガイド等の育成に努め、地域資源や人材を活用したまちづくりを推進します。

4. 施策体系



第4章 施策の展開（各論）



第4章 施策の展開（各論）

基本目標1. 確かな学力の向上

1. 確かな学力の向上	①	幼児教育の充実
	②	わかる授業の構築
	③	特別支援教育の充実
	④	外国語教育を含めた国際理解教育の充実
	⑤	キャリア教育の推進
	⑥	体験活動や読書活動の推進

基本施策① 幼児教育の充実
<p>【基本的考え方】</p> <p>幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、幼児教育において育みたい資質・能力の基礎は、その後の学校生活や学習を支える力につながることから、幼稚園において保育の充実を図ることは非常に大切です。</p> <p>すべての幼児施設において良質な保育が提供されるよう施設間の連携を図り、幼児期の育ちをつなぐため、幼稚園が保幼小連携の円滑な接続を推進するための「つなぎめ」となることを目指します。</p>

保幼小の連携強化による切れ目のない支援に取り組みます。（指導課）

- 幼稚園と小学校の連携、幼稚園と保育所の連携体制を構築し、幼児期における学びの基礎力を育むとともに、小学校教育への円滑な接続が図られるよう支援していきます。

2年保育の充実と3年保育の検討をしていきます。（指導課）

- 2年保育において発達段階に合わせた丁寧な保育を行い、幼児期にふさわしい環境を通して、小学校以降の生活や学習の基盤をしっかりと育みます。

多様な子育て支援サービスの充実を図ります。（指導課）

- 保護者の就労や、やむを得ない事由により午後の保育が必要な園児に対し実施している預かり保育について、保育時間延長や対象児の拡充を行います。
- 未就園児の親子へ、幼稚園施設を開放し、子育ての情報交換や交流の場として施設を提供し、教育相談等、地域の子育て支援の充実を図ります。

■成果指標（基本施策① 幼児教育の充実）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
預かり保育の 充実	・預かり保育終了時 間 18 時まで ・4 歳児は短期預か り保育のみ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・預かり保育時間の延長（18 時半まで） ・4 歳児の長期預かり受け入れ実施 </div>				
幼稚園教諭研 修会開催回数	年 1 回	年 2 回				

基本施策② わかる授業の構築

【基本的考え方】

学校教育においては、児童生徒に主体的に学習に参加する態度を育み、基礎的・基本的な知識及び技能の習得及びこれらを活用して課題を見だし、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を身に付けさせることが重要です。また、その能力を支える基盤となる児童生徒の自己肯定感を高める取り組みが不可欠です。そのために、各学校が児童生徒の発達段階や実態を踏まえ、学校の自主創造を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりと、日々の関わりの中で児童生徒の成長を見取り、「承認・勇気づけ」といった肯定的な関わりが推進できるよう支援します。

「確かな学力」を身につけるよう児童生徒の学習を支援します。（指導課）

- 主体的・対話的で深い学びによる学力向上を目指し、「わかる」「できる」「仲間と学び合える」などに支えられた児童生徒の学ぶ意欲を重視した指導方法、学習形態の工夫に取り組みます。
- 学習支援員を小・中学校全校に配置し、学習に遅れをとっている児童生徒に対し学習をサポートしていきます。

自己肯定感を高める教育活動の実践を支援します。（指導課）

- 児童生徒自身が学び・育ちの実感ができるよう、日々の学習や学校生活の中で、机間指導を通じた学習状況の見取り※2、児童生徒の学習活動に対しての肯定的・共感的な声かけ、学習した内容への積極的なコメント書き等による学習の見取りといった教育活動の実践に向けて校長会・教頭会・その他研修において助言を行います。また、道徳教育や特別活動等を充実させ、主体的に学習や学校生活に取り組もうという意欲を高めます。

※2 「見取り」とは、児童生徒にどういった力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉えることです。

宜野湾市学力向上推進計画「宜野湾市学力向上推進プロジェクトⅡ」の推進に取り組みます。

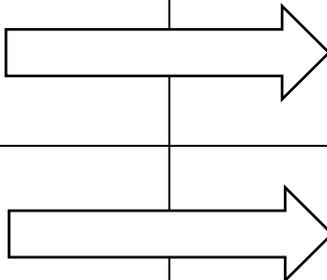
（指導課）

- 「学びのたすき」を重視し、各学年における発達の段階を考慮しながら学力向上を計画的に実践します。
- 幼稚園・小学校・中学校の連携を重点課題に位置付け、学校・家庭・地域が各中学校区で協働体制を構築し、学力の向上に取り組みます。

日本語習熟の対応が必要な児童生徒への指導方法の工夫改善に取り組みます。（指導課）

- 外国籍、両親のいずれかが外国籍など、母語の多様化により日本語習熟などについて支援が必要な児童生徒のため、日本語教室が設置されている学校から日本語教室が設置されていない学校へ資料や指導方法の共有を行うなど、指導方法の工夫改善を図り、児童生徒の学習を支援していきます。

■成果指標（基本施策② わかる授業の構築）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
学習支援員配置等による全国学力・学習状況調査（小学校・算数）正答率の全国との差	+1.4	+2	+2	+3		
学習支援員配置等による全国学力・学習状況調査（中学校・数学）正答率の全国との差	-8.8	-6	-6	-5		

※ 全国学力・学習状況調査は、小学校6年生、中学校3年生で実施されており、それぞれの校種の最終学年での調査結果を成果指標とします。

なお、宜野湾市学力向上推進計画「宜野湾市学力向上推進プロジェクトⅡ」では授業改善を軸とし、小学校では現状維持を、そして中学校においても市の学力を全国平均まで水準を高めていきます。

【参考】『全国学力・学習状況調査結果』から抜粋

小学校正答率

対象/教科	平成30年度				令和元年度	
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語	算数
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	63.8	66.6
沖縄県平均	68	56	66	52	68	68
宜野湾市平均	67	56	68	53	72	68
全国と市との差	-3.7	+1.3	+4.5	+1.5	+8.2	+1.4

中学校正答率

対象/教科	平成30年度				令和元年度	
	国語A	国語B	数学A	数学B	国語	数学
全国平均	76.1	61.2	66.1	46.9	72.8	59.8
沖縄県平均	72	58	59	40	68	53.0
宜野湾市平均	71	57	58	39	68	51.0
全国と市との差	-5.1	-4.2	-8.1	-7.9	-4.8	-8.8

※令和元年度より国語・算数（数学）ともにA・Bの区分がなくなりました。

基本施策③ 特別支援教育の充実

【基本的考え方】

インクルーシブ教育の視点に立ち、特別な支援を必要とする幼児児童生徒一人一人の理解と教育的ニーズを的確に把握することで共に学ぶ機会を保障し、その持てる力を高めさせ、自立や社会参加を目指した学校生活を送れるよう支援体制を充実させます。また、中学校卒業までの一貫した指導・支援が行えるよう幼稚園、小中学校、関係機関と連携した、個に応じた取組を推進します。

特別支援教育支援員を派遣し、適切な支援を行います。（指導課）

- 市立幼稚園、小中学校からの申請に応じて、特別な支援を要する幼児児童生徒の学校生活や学習上の課題を克服するため、各学校に特別支援教育支援員を配置し、適切な支援を行います。
- 特別な支援を要する幼児児童生徒について、個別の支援計画書を作成し、教育的ニーズに合った支援を行います。

組織的な指導及び支援の充実を推進します。（指導課）

- 各学校において、校長を中心に特別支援教育に関する校内委員会を設置、特別支援コーディネーターの位置づけを明確にして校内支援体制を整え、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに合った組織的な取り組みを推進します。
- 中学校区ごとの特別支援教育コーディネーター連絡協議会をとおして、幼稚園、小中学校のスムーズな連携を推進します。
- 特別支援教育推進協議会（特別支援教育プロジェクト会議）を開催し、学校、福祉関係部局等と連携しながら、市特別支援教育の方向性を協議するとともに、取組の評価を行います。
- 特別な支援を要する子どもたちへの理解と適切な対応を図るため、教職員や特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員を対象とした研修会を実施し、資質向上に努めます。
- 医療的ケアを要する幼児児童生徒の受け入れに備え、医療的ケアの実施体制整備を推進します。

■成果指標（基本目標③ 特別支援教育の充実）

指標名	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
特別支援教育支援員派遣事業に対する満足度（満足度調査）	93%	95%	95%	95%	95%	95%

<p>基本施策④ 外国語教育を含めた国際理解教育の充実</p> <p>【基本的考え方】</p> <p>グローバル社会が急速に進展する中、世界を舞台に活躍できる人材を育てていくことが求められています。グローバルな人材に必要な、探究力や自ら課題を解決する能力、異文化理解とコミュニケーション能力、高い英語力を育みます。宜野湾市では平成16年度から英語教育特区の認定を受け、英語教育に力を入れてきました。小学校の段階から国際理解教育と英語力の向上を目指し、小中一貫した系統的な教育を進めます。</p>

小中一貫した英語教育の充実に取り組みます。（指導課）

- 小学校と中学校の連続性を踏まえた授業の充実を図ります。
- 小学校5年生、6年生の全児童を対象に児童英検を実施します。
- 中学生を対象に英語検定試験料の一部助成を実施します。

異文化理解と実践的コミュニケーション能力の向上に取り組みます。（指導課）

- 小学校ではJTE（日本人英語指導員）とALT（外国語指導助手）を、中学校ではALTを配置し、コミュニケーションスキルの向上を図ります。
- 近隣の大学や国際交流関連機関と連携して留学生との交流を行うなど、地域性を生かした国際理解教育に取り組みます。
- 中学生を対象に英語でスピーチを行うストーリーコンテストを開催します。
- ストーリーコンテスト上位入賞者を含めた市内中学校の生徒に短期海外留学の機会提供を継続して取り組みます。

■成果指標（基本施策④ 外国語教育を含めた国際理解教育の充実）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ALT・JTE配置等による「英語が好き」な児童（小5・6）の割合	82.0%	85%	→			
ALT配置等による「英語が好き」な生徒（中3）の割合	57.2%	60%	60%	65%	→	
児童英検の正答率（小学5年生） ブロンズコース	89.4点	90点以上	→			
児童英検の正答率（小学6年生） シルバーコース	83.8点	85点	→		87点	→
英語検定受験率（複数受験含む）	53%	60%	→			

基本施策⑤ キャリア教育の推進

【基本的考え方】

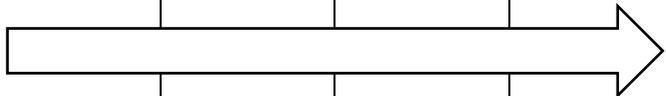
将来にわたる自己実現を目指したキャリア教育では、幼児期・小学校段階では、社会的・職業的自立に係る基盤形成の時期、中学校段階では、現実的探索と暫定的選択の時期ととらえ、幼児児童生徒一人一人に夢や希望を持たせ、学ぶことと社会との接続を意識させることによって、学ぶ意欲の向上を図り、「生きる力」を育成します。

また、キャリア教育の一環として、望ましい勤労観・職業観を育むため職場見学、職場体験学習、就業体験等を実施し幼児児童生徒の発達の段階に応じた体験活動に取り組み、これらを推進する上で、地域・関係機関との連携強化を図っていきます。

キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりを推進します。 (指導課)

- 児童生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としつつ、教育活動全体を通してキャリア教育に取り組みます。
- 幼稚園では、友達と一緒に活動する楽しさ、自分のことは自分でできる取組、ものごとを最後までやり遂げ、そして喜びを感じるような援助の工夫を充実させます。
- 小学校6年生で1日間の職場見学、中学校で、3日間のキャリアスタートウィーク(職場体験学習)を実施し、望ましい職業観、勤労観の育成を図ります。
- 幼稚園・小中学校において地域人材を活用した各種講演会などを通して、夢や希望を持たせる行事等を推進します。
- キャリア教育コーディネーターを活用した学習活動の充実に取り組みます。
- 全県的な取り組みであるキャリアパスポート^{※3}を有効に活用し、自らの学習やキャリア形成等を振り返る機会を与え、主体的に学びに向かう力を育みます。

■成果指標 (基本施策⑤ キャリア教育の推進)

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
キャリアスタートウィーク(職場体験学習)実施回数	各中学校 1回実施	各中学校 1回以上				

※3 「キャリアパスポート」とは、児童生徒が小学校から高等学校までの12年間、キャリア教育に関わる活動において、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことです。

基本施策⑥ 体験活動や読書活動の推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>健やかな青少年を育成するために、学校・家庭・地域社会が連携を図りながら、社会奉仕体験活動や自然体験活動の充実を図り、児童生徒の自己の確立と社会の一員としての成長を支援します。また、豊かな読書活動を推進し、望ましい読書習慣を身に付けていきます。</p>

体験活動の充実を図ります。（指導課）

- 集団宿泊学習を通じて、自主性や自立心、協働等、社会生活上の望ましい態度や実践力を育成します。

子どもの読書活動の充実を図ります。（指導課）

- 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動を充実させるように努めます。
- 沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ、第4次沖縄県子どもの読書活動推進計画に基づき、学校司書、司書教諭と連携し図書館資料を活用したりするなど、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動を展開することで、読書の質の向上を図ります。
- 先生や友達が薦める本のコーナーを設置し読書意欲を高める工夫に努めます。
- 学校の朝の時間等を活用して、保護者や地域のボランティアによる「読み聞かせ」等を行うなど、学校・家庭が連携した読書活動を推進します。

■成果指標（基本施策⑥ 体験活動や読書活動の推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
一人あたりの図書 貸出冊数 (小学校)	110冊	110冊以上	➔			
一人あたりの図書 貸出冊数 (中学校)	40冊	40冊以上	➔			

基本目標2. 豊かな心・健やかな体の育成

2. 豊かな心・ 健やかな体の育成	⑦	人権教育の充実
	⑧	道徳教育の充実
	⑨	健やかな体づくりの推進
	⑩	食育の推進
	⑪	教育相談・支援体制の推進

基本施策⑦ 人権教育の充実

【基本的考え方】

人権教育は、自他の生命・人格を尊重すること、互いの個性を認め合う共生の心や他人を思いやる心、正義感や公正さを重んじる心など、豊かな人間性を育むことを目指して行うことが大切であり、そのため幼稚園や小・中学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について幼児児童生徒に正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的なかかわりの中で、教職員と幼児児童生徒間の信頼関係づくり、幼児児童生徒の相互の人間関係づくりに努め、地域人材の活用も図りながら人権教育を推進します。

幼稚園、小・中学校で人権教育の推進を図ります。（指導課）

- 学校ごとに「人権の日」を設定し、毎月のテーマに沿った人権教育を実施していきます。
- 掲示物の活用等、多様な場・機会を通して人権教育について取り組みます
- 学校教育活動での多様な場において、男女平等意識の普及啓発やLGBTの理解促進に取り組みます。

実践力を身につけられる人権教育を推進します。（指導課）

- 全ての教科や総合的な学習の時間等をとおして人権に関する知識と具体的な態度や行動につながる実践力を身につけるよう育成していきます。
- 人権擁護委員を活用して幼稚園、小・中学校で人権についての授業、人権教育についての講話を行います。

いじめ問題への取組の徹底を図ります。（指導課）

- 宜野湾市いじめ防止基本方針を策定し、いじめ防止等に関する対策協議会や審議会等の円滑な運用に向けた取組を推進します。
- 各学校で定期的な生活実態アンケート（いじめの項目を含む）を実施し、いじめの早期発見に取り組みます。
- いじめによる重大事態が発生した場合の調査機関として、教育委員会に「宜野湾市いじめ問題専門委員会」を設置します。また、再調査が必要な場合には、市長部局（総務課）に「宜野湾市いじめ問題調査委員会」が設置されます。

基本施策⑧ 道徳教育の充実

【基本的考え方】

幼児児童生徒一人一人が豊かな心を育み、望ましい自己実現を果たすため、自他の生命を尊重する心を基盤に、豊かな情操、善悪の判断など規範意識及び公共の精神、健康、安全、規則正しい生活などの基本的生活習慣を育む等、「心の教育」の充実に努めます。

児童生徒が豊かな心を育むため「心の教育」の充実に努めます。（指導課）

- 学校の教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「特別の教科 道徳」を中心に道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成します。
- 本県の歴史を考慮し沖縄戦や世界の紛争問題などをとおして、命の大切さや戦争の悲惨さを学び、平和を愛する心を育むよう児童生徒の発達段階に応じた平和教育を行います。

■成果指標（基本施策⑧ 道徳教育の充実）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全国学力・学習 状況調査「道徳 に関する項目」 （児童・生徒質問 紙）の全国平均差	小学校 -4.2ポイント	小学校 -3ポイント	小学校 -3ポイント	小学校 -1ポイント	小学校 -1ポイント	小学校 ±0ポイント
	中学校 -5.7ポイント	中学校 -4ポイント	中学校 -4ポイント	中学校 -2ポイント	中学校 -2ポイント	中学校 ±0ポイント

基本施策⑨ 健やかな体づくりの推進

【基本的考え方】

幼児児童生徒がたくましく生きるための心身の健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動に親しむ態度の育成や健康で安全な生活を送るための基礎を培う体育・スポーツ、健康教育の充実に努めます。

児童生徒の体力の向上と健康教育の充実に取り組みます。（指導課）

- 小学校4年生全クラスに皆泳指導員を配置し、水泳をとおして体力向上を図ります。
- 健康教育を推進するため、小・中学校で徒歩登校を推奨していきます。

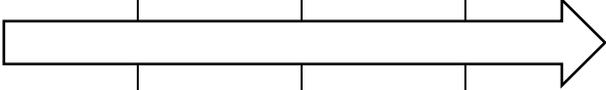
豊かな生涯スポーツの基礎を培うため、部活動等の活性化に取り組みます。（指導課）

- 中学校での部活動入部を推進します。
- 適正な部活動を推進します。（週あたり2日以上以上の休養日を設ける）
- 近隣の大学や専門学校でスポーツを専攻する人材を活用し、部活動の競技力向上を図る取組を推進します。

幼児児童生徒のむし歯予防に取り組みます。（学務課）

- 学校における歯みがきを週日程に位置づけます。
- むし歯予防対策として、フッ化物の応用^{※4}に取り組みます。
※4 フッ化物の応用とは、歯科医によるフッ素塗布、フッ化物洗口、フッ素配合のはみがき剤の使用などです。

■成果指標（基本施策⑨ 健やかな体づくりの推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
泳力 25m以上の達成率（小学校6年） 男子 女子	81% 71%	85% 75%	85% 75%	85% 75%	90% 80%	90% 80%
運動やスポーツが好きな児童生徒の割合 小学校（5年生）男子 女子 中学校（2年生）男子 女子 （全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果）	90.8% 86.9% 89.7% 80.5%	91% 87% 90% 81%				

基本施策⑩ 食育の推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>社会環境や生活環境の変化により、食生活などの生活習慣の乱れが見られます。成長期にある幼児児童生徒が「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得できるよう指導を行うなど、子どもたちの望ましい食習慣の定着と、食事のマナーや食文化を理解し、食を大切にする心を育む食育を推進していきます。</p>

教育活動をとおして食に関する指導の充実を図ります。（指導課）

- 学校での「食に関する指導計画」に沿って、栄養教諭、学校栄養職員、学級担任と連携した食育指導を行っていきます。
- 市食育担当者連絡会を開催し、職員（食育担当者）と給食センター関係者（学校栄養職員）の共通理解を図り、食育指導の充実を図ります。
- 食物アレルギーを持つ児童生徒に十分配慮しながら、一般児童生徒に食物アレルギーの存在を理解させ、指導するとともに、食の重要性を考える食育に取り組みます。

学校給食をとおして食育を推進していきます。（学校給食センター）

- 学校給食に使用する多様な食材をとおして児童生徒に食品の名前、栄養素、働きに関心を持たせることで、自らの食生活に活かせる力が身につくよう努めます。
- 学校給食献立表、給食だよりをとおして、食育の啓発に努めます。
- 給食試食会等を開催し、「家庭での食育」について理解を深める講話を行っていきます。
- 学校給食の食材には地域の安全な食材を積極的に活用し、生産者とのつながりを深めていきます。また、職場体験期間中を利用して、契約農家と連携して児童生徒が農業体験をできるように推進していきます。
- 学校給食の献立には、家庭で調理することが少なくなってきた伝統行事食を増やし、食文化を伝えていきます。

■成果指標（基本施策⑩ 食育の推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
栄養職員と連携した授業や給食週間などの実施率	小学校 100% 中学校 80%	小学校 100% 中学校 85%	小学校 100% 中学校 90%	小学校 100% 中学校 95%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%

基本施策⑪ 教育相談・支援体制の推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>増加傾向にある不登校児童生徒の問題解決に向けて学校及び福祉推進部等の関係機関や関係団体との連携を図りながら、幼児児童生徒や保護者、教職員の相談に努めるとともに、支援体制の充実に取り組みます。</p>

チーム学校での相談体制の充実に取り組みます。（指導課・はごろも学習センター）

- 学校長を中心に開催される職員会議や教育相談部会、校内ケース会議で報告された情報を共有するとともに、支援のための行動や機動性のある取組を行います。
- 小・中学校や関係機関と連携を図り、児童生徒がより良い学校生活を送れるよう必要に応じて学校支援相談会を実施し、スクールソーシャルワーカーの活用や申し送り等についてアドバイスを行うなど学校での相談体制を支援していきます。

専門家を活用した教育相談の充実に取り組みます。（はごろも学習センター）

- 教育に関する問題を抱える児童生徒やその保護者と教職員に対しスクールソーシャルワーカー・臨床心理士等による相談を行い早期発見・早期解決に努めます。
- 定期的に学校を巡回し、学校配置スクールソーシャルワーカーと連携しながら学校や保護者からの相談について支援を行います。

不登校児童生徒の居場所づくりを通して、登校復帰を支援します。（はごろも学習センター）

- 心理的・情緒的不安定による不登校児童生徒を支援する適応指導教室において、学習支援と体験活動を行い、集団適応を促進していきます。
- 怠学や登校しぶり傾向児童生徒に対し、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問、登校支援を行うとともに、スポーツや調理実習等の体験学習や学習支援を行います。

■成果指標（基本施策⑪ 教育相談・支援体制の推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
学校内外において不登校児童生徒が相談・指導を受けている割合（文科省問題行動調査結果）	99.6%	90%以上	➡			

基本目標3. 地域と連携した教育活動の充実

3. 地域と連携した 教育活動の充実	⑫	地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの推進
	⑬	子どもの居場所づくりの推進
	⑭	青少年支援ネットワークの構築

基本施策⑫ 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール ^{※5} の推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>地域で子どもたちを育てるために、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し、地域と一体となって子ども達を育む「地域とともにある学校づくり」とともに、「学校を核とした地域づくり」に向けて、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを推進します。</p>

コミュニティ・スクールの運営の充実を図ります。 (指導課)

- コミュニティ・スクールを活用して、学校と地域住民・保護者が共に学校の運営に取り組むことを推進します。
 - 学校運営協議会の運営が円滑に進められるように、情報の共有、研修などを行い、連携を図ります。
- ※5 学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールといい、学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むための仕組みです。

地域学校協働活動の充実を図ります。 (生涯学習課)

- 学校と地域をつなぐコーディネーターを各小・中学校に配置し、学校が必要とする学習支援員等の学校支援ボランティアの活用について取組みます。
- 学校やコーディネーターに向けて、学校支援ボランティア活用実践事例の周知や、コーディネーターの資質向上を目指した研修会の実施に努めます。
- 地域と学校の連携を目指すとともに、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える仕組みづくりのため、より幅広い地域住民や団体等が参画しやすい緩やかなネットワークの構築に努めます。

地域と学校の連携・協働体制の構築を目指します。 (指導課・生涯学習課)

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動推進事業との連携を目指し、関係部署間での情報共有を図ります。

■成果指標 (基本施策⑫ 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの推進)

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
学校運営協議会 を設置・開催	全小中学校 に設置予定	・各学校ごとに学校運営協議会を開催 (年3回) 				
全小中学校への 地域コーディネ ーターの配置	11校	13校				

基本施策⑬ 子どもの居場所づくりの推進**【基本的考え方】**

各種社会資源・自然資源・人的資源等を活用し、放課後等の居場所づくりの充実、児童の健全育成の場の充実に努めます。共働き世帯やひとり親世帯などの児童に限らず、全ての児童が放課後等における多様な体験・活動を行うことができるよう、行政・学校・家庭・地域連携のもと総合的な子どもの居場所づくりに取り組みます。

放課後子ども教室の充実を図ります。（生涯学習課）

- 学習支援、文化やスポーツ等の体験活動、地域の大人や異年齢の子どもとの交流活動などを充実させるため、放課後子ども教室コーディネーターを中心に多様な活動プログラムを検討していきます。
- 地域住民や大学生、社会教育関係団体など様々な人材が参画できるよう地域協働活動推進事業と連携した人材の確保・活用を図ります。
- 学校等の空きスペースを活用し、放課後や夏休み等の子ども達の遊び、学びの場を提供し、安全・安心な居場所づくりに取り組みます。

放課後児童クラブと連携したプログラムを推進します。（生涯学習課）

- 放課後子ども教室コーディネーターと放課後児童クラブ支援員が共同でプログラムを企画するなど連携強化を図りながら共通プログラムの充実を図ります。

基本施策⑭ 青少年支援ネットワークの構築

【基本的考え方】

子どもを取り巻く環境が複雑化、多様化するなかで、児童生徒の不登校や非行に関する問題が課題となっており、青少年が社会の中で健全に育つよう家庭・学校・地域が連携しながら一人一人を見守る行動が必要であることから、関係者が情報を共有し、連携・協力していくための支援ネットワーク体制の充実を図り、活動を支援していきます。

地域全体で青少年を見守る環境づくりに取り組みます。（指導課・はごろも学習センター）

- 街頭指導員による定期的な巡回指導を行うとともに、毎月第三金曜日の「少年を守る日」には学校・地域と連携・協力した巡回指導を実施し、深夜徘徊防止等の啓発活動に取り組みます。
- 地域や関係機関・団体と連携しながら有害図書や有害情報等から青少年を守る環境浄化活動に取り組みます。
- 「はごろもサポートネットワーク会議（HSN会議）」を開催し、学校と関係部署との情報共有と課題解決に向けた協議を行います。

■成果指標（基本施策⑭ 青少年支援ネットワークの構築）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
街頭指導員による指導巡回	128回	年130回以上	➔			

基本施策⑯ 大学と連携した校内研修の充実
<p>【基本的考え方】</p> <p>高等教育機関である大学との教育活動ネットワークを充実させ、教職員の資質向上と教育課題の解決を図ります。</p>

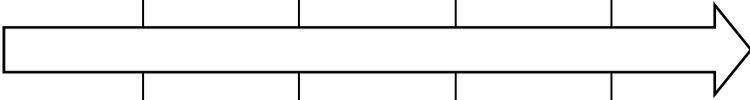
大学との教育活動ネットワークの充実を図ります。 (はごろも学習センター)

- 連携する大学から派遣されるアドバイザースタッフを活用し、授業の指導助言や、講演を通じて教育課題の解決に向け、校内研修の充実を図ります。

大学とのネットワークを活用した教職体験受入を推進します。 (はごろも学習センター)

- 教員を目指す大学生を対象に、教育現場において様々な教育活動を体験する教職体験の受け入れを実施するとともに、学生が教育活動をとおして学校を支援する取組を推進します。

■成果指標 (基本施策⑯ 大学と連携した校内研修の充実)

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
大学との共同研究、校内検証授業等の実施数	50回以上					

基本施策⑰ ICTを活用した授業力の向上
<p>【基本的考え方】</p> <p>ICT機器を授業で活用することで、児童生徒の興味関心が高まったり、理解が深まったりするなど、教育的効果を高める取り組みを進めます。そのためには、全ての教員が日常的に、必要な場合に応じてICT機器の特性を生かした効果的な活用を図り、授業力の向上を図ります。</p>

教職員のICTを活用した授業を推進していきます。 (はごろも学習センター)

- 情報教育研究会・情報担当者研修会等、教職員を対象とした研修会を実施し、ICT機器操作や情報モラル指導など教職員のICT活用指導能力の向上に努めます。

■成果指標（基本施策⑰ ICTを活用した授業力の向上）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
教材研究や教材作成などでICT機器を活用できる割合	小学校 92.3% 中学校 94.1%	95%以上				
大型提示装置や実物投影機などのICT機器を活用した授業ができる割合	小学校 91.2% 中学校 72.2%	95%以上				
情報モラル・情報セキュリティに関する授業実施の割合	小学校 90.1% 中学校 73.5%	95%以上				

基本施策⑱ 教員の教育研究活動の推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>本市や県の抱える教育課題に対し、その解決方策について学校と共に考え研究、支援するとともに、教員の実践的指導力を高めるための研修を実施し、学び続ける教員像の確立を支援します。また、知能・標準学力検査、総合質問紙調査（I-check）などの諸検査の実施を通して学校現場での活用の充実を図り、児童生徒の支援に生かします。</p>

教職員へ研究・研修の機会を提供します。（はごろも学習センター）

- 長期研究員（6か月間）を配置し、本市や県の教育課題や学校のニーズに応じた研究テーマに設定した研究活動を通して、その成果を市内の学校に還元します。
- 学校において、知能・標準学力検査、総合質問紙調査（I-check）などの諸検査を実施し、その結果を学校毎に効果的に活用し、児童生徒の自己肯定感の醸成や集団への適応について支援します。

■成果指標（基本施策⑱ 教員の教育研究活動の推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
知能・標準学力検査の活用度（活用の満足度）	90%以上	90%以上				
総合質問紙調査（I-check）の活用度（活用の満足度）	90%以上	90%以上				

基本目標5. 教育環境の充実

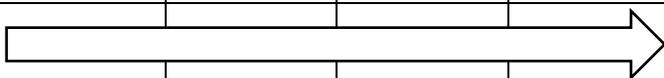
5. 教育環境の充実	⑱	学校のICT化の推進
	⑳	学校図書館機能の充実
	㉑	学校等施設・設備の充実
	㉒	子どもの安全・安心の確保
	㉓	教職員の労働環境の充実

基本施策⑱ 学校のICT化の推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>学校の全ての教科で、全ての教師がコンピュータやインターネットを活用し「わかる授業」の展開や情報教育の推進を図るためICT環境の充実と活用の促進に取り組みます。また、GIGAスクール構想の目的である一人一人の個性に合わせた教育の実現に向けた取り組みを推進していきます。</p>

ICTを活用した学校環境づくりを推進します。（はごろも学習センター）

- ICT機器の整備を図り、児童生徒の情報活用能力の向上に取り組みます。
- ICT機器がいつでも使えるような環境や支援員のサポート体制を整えるなど教職員が日常的に活用できる環境づくりを進めます。

■成果指標（基本施策⑱ 学校のICT化の推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
大型提示装置の整備率（小学校）	全学級の2分の1整備	全学級の2分の1整備	全学級に整備	全学級に整備	全学級に整備	全学級に整備
ICT支援員の配置	2人	4人				

基本施策⑳ 学校図書館機能の充実

【基本的考え方】

学校図書館とは「児童生徒及び教員の利用に供することにより、教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成することを目的」（学校図書館法第2条）としており、児童生徒の読書活動の推進のみならず、主体的、意欲的な学習活動の充実から教員の教育研究の支援までを含んでおり、学校図書館の本来の機能を充実させるため、市民図書館や関係機関と連携した取組を進めます。

市民図書館とのネットワークづくりに取り組みます。（学校図書館・市民図書館）

- 学校図書館と市民図書館間で、資料や情報を共有、活用できる仕組みづくりを進めます。

学習活動を支援するためのレファレンスサービスや資料の充実を図ります。（学校図書館）

- 新聞を活用した学習（NIE）を充実させるため、新聞等資料の充実を図ります。
- 授業で活用するための国語を中心とした教科書掲載の資料の充実を図ります。
- レファレンス事例をデータベース化し、学校間の情報共有を図ることにより授業での活用促進に取り組みます。
- 教職員のニーズに合った資料の整備に取り組みます。

学校図書館司書の研修活動の充実を図ります。（学校図書館）

- 学校図書館、市民図書館と合同で「司書研修会」を実施し、図書館司書の専門性の向上と、連携・協力体制の充実を図ります。
- 県内で開催される司書研究会や講演会・講座・研修会へ積極的に参加し資質向上に努めます。
- 新任司書を対象に研修期間を設定し、指導、支援を行っていきます。

基本施策㉑ 学校等施設・設備の充実

【基本的考え方】

児童生徒の学習及び生活の場として良好な環境を確保すると共に、障がいのある児童生徒にも配慮し、防災性・防犯性など安全性を備えた安心感のある施設環境を形成していきます。

全ての学校施設の耐震化の確保に取り組みます。（施設課）

- 旧耐震基準の市立学校施設の整備を計画的に行っていきます。
- ・ 普天間小学校（校舎）

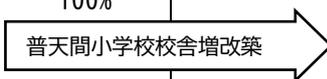
施設・設備の老朽化対策と併せた学習環境等の機能向上を図ります。（施設課）

- 経年劣化による施設・設備の機能低下に対し、宜野湾市教育施設等長寿命化計画等に基づき計画的に改善に取り組みます。
- 学校からの要望に応じた環境整備の充実に取り組みます。

避難所として必要な機能の確保に努めます。 (施設課)

- 地域の避難所となる学校施設の防災機能の整備に当たっては、防災担当部局等の関係部署との間で、役割分担しながら、避難所として必要な機能の確保に努めてまいります。

■成果指標 (基本施策②) 学校等施設・設備の充実)

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市立小中学校・幼稚園施設の耐震化率	94.8%	100%		-	-	-

基本施策② 子どもの安全・安心の確保
<p>【基本的考え方】</p> <p>幼児連れ去り、自然災害や多発する交通事故等、幼児児童生徒を取り巻く危険な環境は絶えません。そのため、幼児児童生徒に危機回避能力を身に付けさせるための交通安全・防犯・防災教育の充実に努めるとともに、学校、家庭、地域、関係機関が連携し、子どもの見守り活動等を推進していきます。</p>

通学路の安全点検、施設の安全点検を実施します。 (指導課)

- 学校独自の危機管理マニュアルを作成し、通学路の安全点検、施設の安全点検を実施します。
- 保護者や地域から交通安全ボランティアを募り、学校・保護者・地域が連携して通学路の安全確保に取り組みます。

幼児児童生徒の危険回避能力の育成を図ります。 (指導課)

- 全ての学校で定期的に避難訓練等を実施し、幼児児童生徒の危険回避能力の育成を図ります。

新小学校1年生や幼稚園児に対しての交通安全指導教室を開催します。 (指導課)

- 宜野湾警察署と連携し、新小学校1年生・幼稚園児に対しての交通安全指導教室を開催します。

基本施策③ 教職員の労働環境の充実
<p>【基本的考え方】</p> <p>生徒指導や保護者の苦情対応等、教職員の日常業務の複雑化、それに伴う時間外勤務の増加等、多忙化が問題となり、学校現場においては心因性による休職者の増加が後を絶ちません。教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、負担感の軽減、時間外勤務の縮減等、多忙化解消に努めていくことは急務となっています。適正な学校運営のため、教職員の健康の保持増進、労働環境の充実を図り、活気ある職場環境づくりに取り組みます。</p>

教職員のメンタルヘルス対策に取り組みます。（指導課）

- 個人向けストレスチェック等を行い、職場環境の現状把握と改善に活用します。
- 産業医や臨床心理士等専門家による学校職員の健康相談体制を整えます。
- 心の健康づくりを推進するため、研修会を実施します。

衛生委員会の活動を推進し、健康障害の防止対策に取り組みます。（指導課）

- 宜野湾市立学校総括安全衛生委員会、学校衛生委員会の活動を推進し、教職員の健康障害の防止対策に取り組みます。
- 教職員の健康の保持増進に関する取組を推進します。
- 職場巡視等の公務災害防止に関する取組を推進します。

学校における働き方改革に取り組みます。（指導課）

- 週1回の「定時退勤日」の設定など、教職員の時間外勤務の縮減と健康保持・増進に関する取組みを推進します。
- 部活動休養日や適切な部活動時間の設定など、部活動の在り方に関する取組みを推進します。
- リフレッシュウィーク及び学校閉庁日を設定し、長期休暇を取得しやすい環境を整備します。
- 自動音声対応電話機を導入し、業務時間外の電話対応業務の負担軽減を図ります。

■成果指標（基本施策③ 教職員の労働環境の充実）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高ストレス者の割合（ストレスチェック集団分析より）	9.4%	10%以下				

※ 労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル（厚生労働省）を参考に10%以下とします。

基本目標 6. 生涯をととした学びの推進

6. 生涯をととした 学びの推進	㉔	多様な学びを支える環境づくりの推進
	㉕	学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり
	㉖	家庭教育支援の充実
	㉗	芸術文化活動の推進
	㉘	スポーツ・レクリエーション活動の推進
	㉙	地域を支える人材の育成と基盤整備

基本施策㉔ 多様な学びを支える環境づくりの推進

【基本的考え方】

市民が生きがいをもってより豊かに生きていくために、生涯にわたり学習活動を継続していける環境を創出します。

ライフステージや社会の変化による市民ニーズに対応するため、中央公民館、市民図書館において、学びの環境や学んだ成果を社会に還元できる場の提供といった社会教育施設として支援の充実に取り組んでいきます。

中央公民館講座の充実に取り組めます。（中央公民館）

- 関係機関等と連携して、語学や自然観察等学術的なものから、レクリエーション・家庭教育・職業知識等、多分野にわたる講座等を実施し、中央公民館講座の充実を図ります。
- 地域学習を支援するため、公民館講座や関係団体研修会等の資料や図書等の充実を図ります。
- 小さな子ども連れの方でも気軽に講座に参加できるように、関係機関と連携し、子どもの一時預かりを行うなど、子育て世代の学習機会を支援していきます。

情報発信の充実に努めます。（中央公民館）

- 社会教育施設で実施している講座や講演会など、生涯学習についての情報を集約し、市報やホームページを活用して市民へ発信します。

市民が利用しやすい図書館機能の充実に取り組めます。（市民図書館）

- 図書館資料等の提供により利用者の生活を豊かにするとともに、市民や地域の課題解決を支援します。
- 市民図書館から遠い地域の市民も利用しやすい環境を提供するため、返却ポストの増設や、移動図書館の「利用時間・巡回方法の見直し」、電子図書導入や分館設置を含めたあらゆる可能性を検討していきます。

他部署と連携し図書館サービスの充実に取り組めます。（市民図書館）

- 市保健相談センター等と連携し、乳児一般検診を受診する親子を対象にブックスタートを実施し、生涯学習の素地となる読書への動機づけを図ります。

- 他部署の実施する事業と連携し、市民の必要とする図書館所蔵資料等を活用した情報提供サービスを実施します。
- 学校図書館と資料や情報の共有・活用できる仕組みづくりを進めるとともに、学校図書館司書との連携や交流を行い、双方の専門性を高める取組みを推進します。

いつでも気軽に必要な情報へアクセスができる環境整備の構築に取り組みます。（市民図書館）

- 必要情報をより多く活用できるよう無線LANの設置等、インターネット環境を整備し情報提供の充実に努めます。
- 蔵書資料の有効活用のため博物館や中央公民館図書室等、市の図書資料取り扱い機関の所蔵情報のデータ化による一元管理の構築に努めます。

■成果指標（基本施策⑳ 多様な学びを支える環境づくりの推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
社会教育学級実施数	58回	60回	61回	62回	63回	64回
市民図書館利用者数	171,776人	175,189人	178,660人	182,202人	185,814人	189,499人

基本施策㉑ 学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり
<p>【基本的考え方】</p> <p>中央公民館を拠点に活動しているサークル団体や各種講座修了者、及び自治公民館を中心とした学習活動などを支援しながら、活動成果を地域学習やボランティア活動へつなげる取組を推進していきます。</p>

学習成果を地域につなぐ仕組みづくりを推進します。（生涯学習課）

- 学習の成果を地域に還元できるように地域自治会において新たな発表の機会を確保します。
- 各サークルの活動をホームページやSNS、市報等で広く市民に広報し、様々な場で、活動成果を活かせる取組を推進します。
- 自治公民館を中心とした学習活動に、地域の人材を活用し、生涯学習に対する意識を高めるとともに、地域の自主的な学習活動を推進します。
- 自治会や学校との連携を図りながら、サークル団体や講座受講修了者等に対し、地域で取り組んでいる活動やボランティア活動などの参加を呼び掛けるなど、学びの習得から、学びを展開させる場への結びつきに取り組みます。
- 地域自ら開設する教室を推進するため、必要に応じて社会教育指導員を派遣し、開設に係るサポートを行います。

■成果指標（基本施策⑳ 学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア活動 実施サークル数	19 団体	20 団体	21 団体	22 団体	23 団体	24 団体

基本施策㉑ 家庭教育支援の充実
<p>【基本的考え方】</p> <p>教育の原点といえる家庭教育は子どもの基本的な生活習慣の確立や規範意識の向上など重要な役割を担っており家庭教育に対する理解を深め、保護者に対する学習機会の提供や相談など、家庭における実践を支援するため学校や地域の活動と連携し、様々な方面から家庭教育を支える環境づくりを推進します。</p>

親の学びを支援する沖縄県「親のまなびあいプログラム」の活用を推進します。（生涯学習課）

- 学校、幼稚園、保育園等へ、子どもの基本的な生活習慣や家庭学習、体験活動など保護者同士が家庭教育について学び合えるワークショップ型「親のまなびあいプログラム」の活用促進を図ります。

家庭教育支援リーダーやアドバイザー等を活用した家庭教育支援の充実に努めます。（生涯学習課）

- 県が養成に取り組んでいる家庭教育支援リーダー（企画・運営・コーディネート・支援アドバイザーの養成・指導助言等）・家庭教育支援アドバイザー（保護者への情報提供や相談、「親の学びあいプログラム」の進行等）等を活用し、家庭教育支援活動の充実に努めます。

家庭教育支援の環境づくりに努めます。（生涯学習課）

- 中央公民館主催の講座や、自治会等の社会教育学級との連携を図りながら家庭教育を推進します。

■成果指標（基本施策㉒ 家庭教育支援の充実）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
沖縄県のプログラムを活用した家庭教育支援に関する学習会の実施回数	2回	2回	3回	→		

基本施策⑳ 芸術文化活動の推進

【基本的考え方】

市民の文化に対する取組は、「心の豊かさ」を求め、より深くなってきています。市民自らが参加し、創造することの大切さを学ぶことで、豊かで潤いのある文化生活をさらに向上させていきます。市民一人一人が多様な文化に触れ、親しみ、主体的に活動が展開できるような環境づくりや諸文化事業を推進し、「文化の自立」を目指していきます。

ミュージックフェスティバルを開催し若手ミュージシャンの発信の場を提供します。（生涯学習課）

- アマチュアミュージシャンやダンサーに、「L I V E G I N O W A N」として大舞台での発表の場を提供し音楽文化の発信を行っていきます。

本市の文化振興の新たな方向性を検討します。（生涯学習課）

- 地域の特性を生かした文化振興の在り方について文化振興検討委員会において検討します。

市民による文化・芸術活動の発表の場と鑑賞の機会を提供します。（生涯学習課）

- 宜野湾市文化協会と共催で、「宜野湾市文化祭」を開催し、文化活動の成果を広く市民に公開し、発表の場と鑑賞の機会を提供します。

基本施策㉑ スポーツ・レクリエーション活動の推進

【基本的考え方】

市民が「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツ・レクリエーションに親しむことのできる機会の提供と、各年代に応じて自主的、継続的にスポーツを取り組めるよう関係機関と連携した生涯スポーツの推進を図るとともに、競技スポーツの振興を目指す市民団体の育成・支援を行っていきます。

市民のスポーツ活動を推進します。（生涯学習課）

- 「生涯スポーツフェスティバル」や各種スポーツ教室を通して子どもから大人まで楽しめるプログラムの充実とスポーツ・レクリエーション活動の啓発に取り組み、各種スポーツイベントを支援していきます。
- ホームページや広報誌を活用し、スポーツイベント情報やニュースポーツ等の紹介を行い市民の関心を高めていきます。

学校体育施設を市民へ開放し、余暇利用を促進します。（生涯学習課）

- 公立小・中学校体育館、プール等の学校体育施設を開放し、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場として活用します。

地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を支援していきます。（生涯学習課）

- 自治会、学校、並びにPTA等にスポーツ推進委員を派遣し、指導やサポートを行い、スポーツの普及に努めます。

地域が主体的に運営するスポーツクラブや団体を育成、支援していきます。（生涯学習課）

- 総合型地域スポーツクラブ^{※6}制度の周知・広報に努め、立ち上げや運営について支援します。
- 市民スポーツの振興や健康増進等の幅広いニーズへの対応と、競技力向上など活動の拡充を図るため、引き続き社会教育関係団体（宜野湾市体育協会^{※7}、スポーツ少年団等）への支援に努めます。

※6 総合型地域スポーツクラブとは子供から高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのことです。

※7 「宜野湾市体育協会」は、令和3年4月1日から「宜野湾市スポーツ協会」に名称を変更します。

障がい者スポーツの普及に努めます。（生涯学習課）

- 障がい者が気軽に健康づくりやスポーツ・レクリエーションを楽しめるよう、関係部署と連携、協力を図りながら、障がい者スポーツを行える環境整備に努めます。

基本施策⑳ 地域を支える人材の育成と基盤整備

【基本的考え方】

市民の自主的・主体的な学習活動を支援しながら市民・教育機関・社会教育関係団体^{※8}・自治会・市民団体・行政などが協働しながら、地域課題の解決に向けたコミュニティ形成の中核となる人材を育成し、学習成果を地域社会や学校教育などに還元するような循環型の人づくりを目指した基盤整備に取り組みます。

地域を支える人材を育成する取組を推進します。（生涯学習課）

- 市長部局の市民協働推進事業と協働した人材育成に努める。
- 社会教育関係団体役員研修会を実施し、人材育成及び団体組織の活性化を支援します。
- 社会教育関係団体と行政の役割を再確認し効率的・効果的な組織運営ができるよう関係者が意見交換できる場づくりに努めます。
- 各団体が行っている取組や市主催事業へ協力する様子などを市報やホームページ等で広く周知し、市民の関心と団体への協力を高めていきます。

※8 社会教育関係団体とは、法人であるか否かを問わず、公の支配に属しない団体で、社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするものをいいます（社会教育法第10条）。PTA、婦人会、青年団、子ども会、老人会等

基本目標7. 郷土を学びつなぐ環境の充実

7. 郷土を学びつなぐ 環境の充実	③⑩	歴史や文化を活かしたまちづくりの推進
	③⑪	博物館を拠点とした歴史及び文化の保存活用の充実
	③⑫	文化関係団体等への活動支援と人材育成
	③⑬	市史を活用した郷土学習の推進

基本施策③⑩ 歴史や文化を活かしたまちづくりの推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>地域住民と共に歴史を活かしたまちづくりを推進するには、まず市民が地元の歴史、文化を知ることが必要です。宜野湾市内に所在する文化財の調査・指定・保存整備等を推進し、貴重な文化遺産を保存・継承するとともに、市史の調査・編集など、市民が文化や歴史に親しみ、関心を持つ取組を推進していきます。</p>

地域の歴史や文化に触れ、親しむ取組を進めます。（文化課）

- 地域に所在する文化財の表示や説明を記した文化財案内板（説明板）を設置し、地域での文化財の保護、活用を推進します。
- 文化財等に関するリーフレットや文化財マップを作成し、自治会配布をとおして周知に努めます。
- 市民が文化財を見学し、親しみ、地元へ愛着を得るため、指定・登録、整備を進め文化財を活用しやすい環境を整えます。

伝統文化・伝統芸能の継承及び発展を推進します。（文化課）

- 市内の伝統芸能等保持団体へ、他自治体等主催の伝統芸能大会の案内や、伝統芸能・文化活動（公演や保存）を助成する団体や法人等の情報提供を行います。

次世代に継承、発展する市史を刊行し、市民へ情報発信を行います。（市立博物館）

- 宜野湾市の歴史、文化、社会等の知識を深め、地域学習等に活用できる市史を刊行し、市民へ情報発信を行います。
- 宜野湾市の歴史資料として重要な公文書である「歴史公文書」の収集・保存・活用を進め、市史の編集や企画展の資料に活用するほか、市民が活用できるよう、公開を進めます。

■成果指標（基本施策③⑩ 歴史や文化を活かしたまちづくりの推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
文化財教室・見学会の参加者数 （他団体含む）	380人	410人	440人	470人	500人	530人
市史の刊行	市史「伊佐浜 ビジュアル 版」の刊行	市史「教育編」 調査・編集	➡	市史 「教育編」 刊行	市史「民俗ビ ジュアル版」 調査・編集 （R8年度刊行）	➡

基本施策③ 博物館を拠点とした歴史及び文化の保存活用の充実

【基本的考え方】

宜野湾市の歴史・文化・自然等の発信拠点として市立博物館の積極的な利活用を図り、文化財への普及啓発並びに地域理解を図っていきます。

博物館企画展、教室等の充実を図ります。 (市立博物館・文化課)

- 地域の歴史や文化への関心と、先人の知恵と工夫を感じてもらうため、宜野湾市の歴史・民俗・自然等をテーマに企画展や講座を開催します。
- 発掘調査で得られた遺跡の出土品を博物館等で保存、企画展などを活用して積極的に市民に公開していきます。

森川公園の環境を活かした体験学習を実施します。 (市立博物館)

- 羽衣伝説の地「森の川」や公園内の自然を活用した自然観測会や民具づくりなど地域に根ざした体験活動の充実を図ります。
- 市内在住の小学校5、6年生を対象にした「わらば～体験じゅく」を実施し、1年をとおして市内の自然や文化について学ぶ機会を提供します。

小中学生が文化財を知り、保護の精神を培う取組を推進します。 (市立博物館)

- 市内小中学生を対象に「市内に残る文化財」を題材とした図画作品展を開催します。

施設や所蔵資料等の利用環境の整備を図ります。 (市立博物館)

- 博物館施設の一部貸出し及び所蔵資料の利活用の推進を図ります。

■成果指標 (基本施策③ 博物館を拠点とした歴史及び文化の保存活用の充実)

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
博物館利用者数	34,743人	34,743人				

基本施策④ 文化関係団体等への活動支援と人材育成

【基本的考え方】

宜野湾市の歴史や文化財について市民や市民団体が主体となった文化財愛護活動を推進していくため「イガルー・シマ文化財ガイド」を中心とする関係団体の人材育成と活動を支援し、地域づくりや学校での郷土学習支援に対する人材の活用につなげていく取組を推進します。

文化財ガイドの育成と博物館友の会の活動を支援し市民参画の仕組みづくりに取り組みます。 (文化課・市立博物館)

- 市内各地域の文化財を説明する「イガルー・シマ文化財ガイド」の育成を図るため講座の充実と活動を支援します。

- 「博物館友の会」会員向けの展示解説会や講演等を開催し地域文化への関心を高めていきます。
- 「博物館友の会」会員の知識と経験を活かした活動の場を設け、博物館事業への協力を図ります。

■成果指標（基本施策③ 文化関係団体等への活動支援と人材育成）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
文化財ガイドを対象とした講演会の開催数	2回	3回	4回			

基本施策③ 市史を活用した郷土学習の推進
<p>【基本的考え方】</p> <p>宜野湾市の歴史・文化・自然など、郷土について学習する機会を提供し、地域を学び理解を深めることにより、地域への誇りと愛着が育まれ、そのことが地域文化を語り、発信することへつながるよう郷土学習活動の充実を図ります。</p>

様々な場を活用して郷土を学ぶ機会を提供します。（文化課・市立博物館）

- 行政区ごとで地元有缘のあるテーマを中心に「イガルー・シマ文化財教室」を開催し、地域の文化学習活動を支援していきます。
- 『宜野湾市史』をテキストに郷土の歴史や偉人を学ぶ取組を推進します。
- 小学校3、4年生の社会科の副読本『わたしたちの宜野湾市』を使った郷土学習の際に、学校の要請に応じて、「昔の道具とくらし」や「市のうつりかわり」をテーマとした授業を支援していきます。
- 中学校からの要請に応じて、平和学習などの地域学習の際に、互いに連携を図り、授業を支援していきます。

■成果指標（基本施策③ 市史を活用した郷土学習の推進）

指標名 指標の説明	現状	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市史の内容をテーマとした講座等の開講数	11回	10回	12回			

基本方向を支える環境整備

基本方向を支える環境整備

③④ 推進体制の強化

基本施策③④ 推進体制の強化

【基本的考え方】

教育委員会の姿勢は、学校のあり方や教育環境に重大な影響を与えます。学校教育現場や社会教育現場の課題も踏まえながら、広く地域住民の意見を拾い、教育に関する施策のあり方について、社会の動向も見極めながら検討を行います。

また、宜野湾市の教育の目標を実現するため、推進体制の強化を図ります。

- 総合教育会議を活用して、本市の教育に関する課題や重点的に講ずべき施策について市長と協議、調整を行っていきます。
- 学校教育と社会教育が連携した施策が展開できるよう関連部署の組織体制を強化します。
- 市報・ホームページ・SNS等の活用により、施策の透明性を確保し、教育への関心を高めるため、教育に関する情報を積極的に発信し開かれた教育委員会にします。
- 11月1日の「ぎのわん教育の日」及び「教育月間」である11月において、市民の教育に対する関心を高め、理解を深めるとともに、本市の教育の充実と発展を図る取り組みを実施します。
- 本市は平成27年(2015年)9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)に共感し、第四次宜野湾市総合計画後期基本計画を推進することでSDGsの目指す17の目標達成に資することを目指しています。本市の教育についても、上位計画である第四次宜野湾市総合計画後期基本計画に沿って、SDGs達成に貢献することを意識した体制整備を図ります。

第5章 計画の推進に向けて



第5章 計画の推進に向けて

1. 宜野湾市の教育を市民みんなで推進していくために

計画の効率的な推進にあたっては、市・学校・家庭・地域・社会教育関係団体等、教育に携わる様々な方が、連携・協力しながら市民ぐるみで取り組むことが不可欠です。

そのため、それぞれの役割を踏まえつつ、おおむね以下のことをみんなで推進していきましょう。

行政の役割

- ・ 教育施策の実施主体として計画を推進するとともに教育環境の充実に努めること。
- ・ 学校の様々な課題に向き合い、個性ある学校づくりが展開できるよう学校を支援していくよう努めること。
- ・ 教員の資質向上に努めること。
- ・ 家庭・地域における子どもの教育と保護者や大人の学習を支援していくよう努めること。
- ・ 多岐にわたる教育課題に対応するため、教育分野以外の関係機関との連携・協力を努めること。

学校の役割

- ・ 子どもたちの心身の発達に応じて、社会で生きていくための基礎となる知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成に努めること。
- ・ 教員は、教育者としての誇りと使命を自覚し、自らを磨いて資質・能力の向上に努めること。
- ・ 教員は子どもたちと向き合い、一人一人に応じたきめ細かな学習指導に努めること。
- ・ 幼児期からの一貫性のある教育を進めるため、校種間の連携を深めること。
- ・ 地域に開かれた信頼される学校づくりに努めること。

家庭の役割

- ・ 家庭は全ての教育の出発点であり、子どもの心の拠り所となるよう愛情豊かな子育てに努め、家族との絆を深めていくこと。
- ・ 子どもに基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを伝えていくこと。
- ・ 子どもの将来の生き方について一緒に考え、サポートできるよう努めること。

地域の役割

- ・ 地域の大人との関わりをとおして社会のルールやコミュニケーション力を身につけるなど、子どもの成長に地域の大人が積極的に関わっていくよう努めること。
- ・ 公民館や社会教育関係団体、NPOなど、大人と子どもが一緒に参加できるような行事や活動機会を多く提供できるよう努めること。
- ・ 地域と学校、社会教育関係団体等が力を合わせ、子どもの学校生活、家庭の子育て、安全・安心な教育環境づくりを支え、地域全体で子どもたちを見守り育てていくよう努めること。
- ・ 一人一人の大人の生き方が子どもたちの成長に影響を与えることを自覚し、大人も子どもと一緒に学び、行動していくよう努めること。

2. 計画の実効性

教育施策を効果的に実施していくためには、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)のPDCAサイクルによるマネジメントシステムにより計画の実効性を確保していきます。

本計画の推進にあたっては、施策の成果や課題等について「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、各事業の実施状況について点検・評価を行い、議会に報告、市民に公表するとともに、その結果を施策の展開に反映させながら、効果的かつ継続的な推進を図ります。

学校においては、学校評価に関する学校教育法・学校教育法施行規則に基づき、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善に努めます。

3. 計画の周知

教育施策の推進にあたって宜野湾市の教育の基本理念や施策の内容などを共有できるようホームページや、様々な機会を捉えて、可能な限り分かりやすく対外的に情報発信を行います。

參考資料



参考資料

1. アンケート調査概要

【調査の目的】

本市の教育の今後の5年間の方向性を示す「第二次宜野湾市教育振興基本計画」を策定するにあたり、その基礎資料を得るため、児童生徒、保護者、教員、一般市民を対象としたアンケート調査を実施しました。

(1) 児童・生徒アンケート

調査期間 令和2年7月9日(木)～令和2年7月22日(水)
調査対象 市内各小学校6年生1クラスの児童、各中学校3年生2クラスの生徒
調査項目 属性・家庭状況・学校生活・学習・運動・自由時間・悩み・将来・進学
・地域活動・体験したいこと・市への要望
回収結果 配布数595件、回答数547件、回収率92%

(2) 保護者アンケート

調査期間 令和2年7月9日(木)～令和2年7月22日(水)
調査対象 アンケート対象の児童・生徒の保護者
調査項目 属性・自身の子どもに関する事項・本市の学校教育に関する事項
・学校・家庭・地域に関する事項・本市の教育施策について
回収結果 配布数595件、回答数409件、回収率69%

(3) 教員アンケート

調査期間 令和2年7月9日(木)～令和2年7月22日(水)
調査対象 市内小中学校の教員
調査項目 属性・時間外の業務について・本市の学校教育に関する事項
・学校・家庭・地域に関する事項・本市の教育施策について
回収結果 配布数519件、回答数375件、回収率72%

(4) 生涯学習アンケート

調査期間 令和2年7月6日(月)～令和2年7月20日(月)
調査対象 無作為抽出による15歳以上の市民1,680人への郵送
各施設への設置、本市ホームページ、Facebook、LINEからの募集
調査項目 属性・生涯学習の現状・今後の意向・施設の利用、イベントの参加
・今後の施策の方向性
回収結果 配布数1,881件(うち、郵送1,680件)、回答数537件(うち、郵送336件)
回収率28.5%

【アンケート調査結果概要】

(1) 児童・生徒アンケート調査結果

1) あなた自身のことについて質問します。

①学校

		小学校	中学校	計	割合
1	普天間小学校	32		32	5.9%
2	普天間第二小学校	25		25	4.5%
3	大山小学校	32		32	5.9%
4	大謝名小学校	32		32	5.9%
5	嘉数小学校	32		32	5.9%
6	志真志小学校	29		29	5.3%
7	宜野湾小学校	29		29	5.3%
8	長田小学校	37		37	6.7%
9	はごろも小学校	30		30	5.5%
10	普天間中学校		74	74	13.5%
11	真志喜中学校		68	68	12.4%
12	嘉数中学校		64	64	11.7%
13	宜野湾中学校		63	63	11.5%
合計		278	269	547	100.0%

②性別

		小学校	中学校	計	割合
1	男性	122	139	261	48.0%
2	女性	143	120	263	48.3%
3	答えたくない	10	10	20	3.7%
合計		275	269	544	100.0%

③同居家族

		小学校	中学校	計	割合
1	両親	15	15	30	5.5%
2	両親; 兄弟姉妹	192	152	344	63.0%
3	両親; 兄弟姉妹; 祖父母	20	25	45	8.2%
4	両親; 兄弟姉妹; その他	1	1	2	0.4%
5	両親; 兄弟姉妹; 祖父母; その他	1	0	1	0.2%
6	両親; 祖父母	0	1	1	0.2%
7	父親または母親	11	17	28	5.1%
8	父親または母親; 祖父母	2	5	7	1.3%
9	父親または母親; 兄弟姉妹	25	37	62	11.3%
10	父親または母親; 兄弟姉妹; 祖父母	6	10	16	2.9%
11	父親または母親; 兄弟姉妹; その他	0	2	2	0.4%
12	兄弟姉妹	0	1	1	0.2%
13	兄弟姉妹; 祖父母	1	0	1	0.2%
14	祖父母	3	1	4	0.7%
15	その他	1	1	2	0.4%
合計		278	268	546	100.0%

④あなたは自分には良いところがあると思いますか。

		小学校	中学校	計	割合
1	あると思う	119	80	199	36.4%
2	どちらかといえばあると思う	105	125	230	42.0%
3	どちらかといえばないと思う	32	44	76	13.9%
4	ないと思う	22	20	42	7.7%
合計		278	269	547	100.0%

2) 家での過ごし方について質問します。

①あなたはいつも何時ごろに起きて、何時ごろに寝ていますか

平日の起床時間		小学校	中学校	計	割合
1	午前4時30分	0	1	1	0.2%
2	午前5時	9	11	20	3.7%
3	午前5時30分	8	11	19	3.5%
4	午前6時	128	97	225	41.6%
5	午前6時30分	53	34	87	16.0%
6	午前7時	75	98	173	32.0%
7	午前7時30分	3	8	11	2.0%
8	午前8時	1	2	3	0.6%
9	午前8時30分	1	0	1	0.2%
10	午前9時	0	1	1	0.2%
合計		278	263	541	100.0%

平日の就寝時間		小学校	中学校	計	割合
1	午後8時	3	0	3	0.6%
2	午後8時30分	1	0	1	0.2%
3	午後9時	53	4	57	10.5%
4	午後9時30分	18	0	18	3.3%
5	午後10時	111	42	153	28.3%
6	午後10時30分	19	10	29	5.4%
7	午後11時	53	116	169	31.3%
8	午後11時30分	4	18	22	4.0%
9	午前0時	9	48	57	10.6%
10	午前0時30分	0	6	6	1.1%
11	午前1時	3	11	14	2.6%
12	午前1時30分	0	1	1	0.2%
13	午前2時	2	4	6	1.1%
14	午前2時30分	0	1	1	0.2%
15	午前3時	0	3	3	0.6%
合計		276	264	540	100.0%

休日の起床時間		小学校	中学校	計	割合
1	午前4時	1	0	1	0.2%
2	午前4時30分	0	0	0	0.0%
3	午前5時	4	6	10	1.8%
4	午前5時30分	7	3	10	1.8%
5	午前6時	35	29	64	11.9%
6	午前6時30分	12	7	19	3.5%
7	午前7時	61	41	102	18.9%
8	午前7時30分	11	5	16	3.0%
9	午前8時	79	59	138	25.6%
10	午前8時30分	2	3	5	0.9%
11	午前9時	31	58	89	16.5%
12	午前9時30分	3	3	6	1.1%
13	午前10時	20	23	43	8.0%
14	午前10時30分	1	0	1	0.2%
15	午前11時	4	11	15	2.8%
16	午前11時30分	1	0	1	0.2%
17	午後0時	2	8	10	1.8%
18	午後0時30分	1	0	1	0.2%
19	午後1時	0	4	4	0.7%
20	午後2時以降	1	4	5	0.9%
合計		276	264	540	100.0%

休日の就寝時間		小学校	中学校	計	割合
1	午後 8 時	4	0	4	0.7%
2	午後 8 時 30 分	1	0	1	0.2%
3	午後 9 時	30	3	33	6.1%
4	午後 9 時 30 分	5	0	5	0.9%
5	午後 10 時	62	32	94	17.5%
6	午後 10 時 30 分	12	8	20	3.7%
7	午後 11 時	76	72	148	27.5%
8	午後 11 時 30 分	7	9	16	3.0%
9	午前 0 時	52	78	130	24.1%
10	午前 0 時 30 分	1	2	3	0.6%
11	午前 1 時	13	23	36	6.7%
12	午前 1 時 30 分	0	3	3	0.6%
13	午前 2 時	5	16	21	3.9%
14	午前 2 時 30 分	1	0	1	0.2%
15	午前 3 時以降	6	17	23	4.3%
合計		275	263	538	100.0%

②あなたは朝ご飯を食べていますか。

	小学校	中学校	計	割合	
1	かならず食べる	214	193	407	74.7%
2	だいたい食べる	45	44	89	16.3%
3	あまり食べない	15	26	41	7.5%
4	食べない	2	6	8	1.5%
合計		276	269	545	100.0%

③あなたはひとりで夕ご飯を食べることがありますか。

	小学校	中学校	計	割合	
1	毎日	10	8	18	3.3%
2	よくある	12	60	72	13.3%
3	あまりない	78	94	172	31.6%
4	ほとんどない	177	105	282	51.8%
合計		277	267	544	100.0%

④あなたは家族とどれくらい話しますか。

	小学校	中学校	計	割合	
1	よく話す	160	133	293	53.7%
2	まあまあ話す	99	113	212	38.8%
3	あまり話さない	15	17	32	5.9%
4	ほとんど話さない	3	6	9	1.6%
合計		277	269	546	100.0%

⑤あなたは家族と話をするとき、どのような話をしますか。(あてはまるものすべて)

	小学校	中学校	計	割合	
1	学校であったこと	221	199	420	25.2%
2	友だちのこと	182	130	312	18.8%
3	進路や将来のこと	49	117	166	10.0%
4	しゅみや部活動のこと	131	144	275	16.5%
5	テレビや新聞で取り上げられていること	108	110	218	13.1%
6	YouTube などインターネットで見たこと	139	101	240	14.4%
7	その他	20	13	33	2.0%
合計		850	814	1,664	100.0%

(その他)

- ・恋バナ
- ・勉強の事
- ・ハリーポッターのこと
- ・推しの話
- ・話さない
- ・テレビの内容のこと
- ・バカな話
- ・習い事のこと

- ・何でも
- ・家族のこと

⑥-1 あなたは家で携帯電話またはスマートフォン、タブレット端末などを使っていますか。

		小学校	中学校	計	割合
1	使っている	230	257	487	90.2%
2	使っていない	42	11	53	9.8%
合計		272	268	540	100.0%

⑥-1 で「①使っている」と答えた方に質問します。

⑥-2 次の中であてはまることはどれですか。（あてはまるものすべて）

		小学校	中学校	計	割合
1	家族との連絡に使っている	165	212	377	30.3%
2	学習に利用している	98	131	229	18.4%
3	興味があることを調べたりしている	154	207	361	29.0%
4	使っていないと友だちと話が合わない	16	26	42	3.4%
5	夢中になって、勉強など他にやらなければならないことができないことがある	35	85	120	9.6%
6	友達とトラブルになったことがある	8	12	20	1.6%
7	知らない人とトラブルになったことがある	5	5	10	0.8%
8	特になし	23	20	43	3.5%
9	その他	36	6	42	3.4%
合計		540	704	1,244	100.0%

⑥-1 で「①使っている」と答えた方に質問します。

⑥-3 携帯電話またはスマートフォン、タブレット端末などを1日のうちでどれくらい使っていますか。

平日の利用時間		小学校	中学校	計	割合
1	1時間未満	80	45	125	26.1%
2	1時間以上2時間未満	59	80	139	29.0%
3	2時間以上3時間未満	49	78	127	26.5%
4	3時間以上4時間未満	14	24	38	7.9%
5	4時間以上5時間未満	10	10	20	4.2%
6	5時間以上	13	17	30	6.3%
合計		225	254	479	100.0%

休日の利用時間		小学校	中学校	計	割合
1	1時間未満	33	9	42	9.1%
2	1時間以上2時間未満	38	16	54	11.7%
3	2時間以上3時間未満	41	42	83	18.0%
4	3時間以上4時間未満	34	53	87	18.8%
5	4時間以上5時間未満	25	35	60	13.0%
6	5時間以上6時間未満	14	36	50	10.8%
7	6時間以上8時間未満	12	29	41	8.9%
8	8時間以上	16	29	45	9.7%
合計		213	249	462	100.0%

⑦あなたは防犯・安全のために家族とどのようなことを行っていますか。（あてはまるものすべて）

		小学校	中学校	計	割合
1	友達と登校・下校するようにしている	113	98	211	12.0%
2	学校からまっすぐ帰る	183	138	321	18.3%
3	出かけるときはどこへ誰と行くのか話をする	169	119	288	16.4%
4	一人で行動しないようにする	60	25	85	4.9%
5	夜遅い時間に外に出ない	173	128	301	17.2%
6	防犯ブザーをもつ	21	1	22	1.3%
7	こども110番のいへの場所を確認している	30	4	34	1.9%
8	地域・近所の人と顔見知りになる・挨拶をする	65	17	82	4.7%
9	「いかのおすし」を心がけている	96	22	118	6.7%
10	不審者情報など犯罪や事件の情報を収集する	69	31	100	5.7%
11	犯罪や事件のニュースの話をする	83	59	142	8.1%
12	何もしていない	16	30	46	2.6%
13	その他	3	1	4	0.2%
合計		1,081	673	1,754	100.0%

3) 学校生活について質問します。

①学校生活は楽しいですか。

		小学校	中学校	計	割合
1	とても楽しい	138	101	239	44.0%
2	どちらかという楽しい	103	116	219	40.3%
3	どちらかという楽しくない	25	29	54	10.0%
4	楽しくない	9	22	31	5.7%
合計		275	268	543	100.0%

②あなたが、先生にのぞむことはどんなことですか。(あてはまるもの3つまで)

		小学校	中学校	計	割合
1	わかりやすい授業をしてくれる	129	151	280	24.3%
2	専門的な知識や社会経験が豊か	31	35	66	5.7%
3	意欲的、熱心である	23	23	46	4.0%
4	明るく、何でも相談できる	90	89	179	15.6%
5	やさしいけど、時には厳しい	106	51	157	13.6%
6	子どもの気持ちを分かってくれる	102	94	196	17.0%
7	子どもの良いところを伸ばしてくれる	65	35	100	8.7%
8	親や地域の人たちと協力してくれる	4	1	5	0.4%
9	いじめがなく、自分の居場所があるクラスづくりをしてくれる	69	27	96	8.3%
10	その他	9	9	18	1.6%
11	特にない	2	7	9	0.8%
合計		630	522	1,152	100.0%

(その他)

- ・話を聞いてほしい
- ・生理の事を分かってくれる
- ・男女の差別がない
- ・面白いけどしっかりしている
- ・一部の子のために大勢の子をしかったり、子どものすることや性格を決めつけない
- ・自分の事を話してくれる(仲良くなるため)
- ・わかりやすく話してほしい(ききやすく)
- ・もう少し大きく字を書いてほしい
- ・愛想がいいこと
- ・子どもが飽きない、授業に興味を持てる
- ・関係ない事を言わないでほしい
- ・無人の先生がきてほしい
- ・可愛い
- ・納得する評価をつけてくれる
- ・授業を楽しくしてほしい

4) 学習について質問します。

①あなたが勉強する目的についておうかがいします。(あてはまるもの3つまで)

		小学校	中学校	計	割合
1	勉強が楽しいから	59	16	75	6.7%
2	受験があるから	59	211	270	24.0%
3	将来めざしている仕事につくために役立つと思うから	166	145	311	27.6%
4	自信がつくから	87	39	126	11.2%
5	ほかの人に負けたくないから	61	58	119	10.6%
6	褒められたいから	40	22	62	5.5%
7	勉強しなさいと言われるから	51	44	95	8.4%
8	考えたことがない	43	18	61	5.4%
9	その他	7	0	7	0.6%
合計		573	553	1,126	100.0%

(その他)

- ・何も出来ないから
- ・大きくなったら勉強しないと働けないから
- ・テストなどが近いから

②-1 学校の授業はわかりやすいですか。

		小学校	中学校	計	割合
1	よくわかる	138	48	186	34.4%
2	どちらかといえばわかる	103	133	236	43.6%
3	半分くらいわかる	17	49	66	12.2%
4	どちらかといえばわからない	16	23	39	7.2%
5	ほとんどわからない	2	12	14	2.6%
合計		276	265	541	100.0%

②-1 「④どちらかといえばわからない」「⑤ほとんどわからない」と答えた方に質問します。

②-2 授業がわからない理由はなんですか。(あてはまるものにすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	授業の進み方が早すぎる	6	15	21	17.5%
2	授業の内容が難しい	8	18	26	21.7%
3	授業の説明がわかりにくい	5	21	26	21.7%
4	予習・復習をしていないから	3	6	9	7.5%
5	勉強が苦手・嫌いだから	8	23	31	25.8%
6	理由はわからない	2	3	5	4.1%
7	その他	1	1	2	1.7%
合計		33	87	120	100.0%

(その他)

・日本語理解ちょっとむずかしい

・眠い

③あなたの家庭学習の内容について教えてください。(あてはまるものすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	宿題をしている	263	199	462	44.2%
2	授業の予習・復習をしている	121	73	194	18.6%
3	学習塾に通っている	72	169	241	23.1%
4	家庭教師に習っている	3	0	3	0.3%
5	通信教育を受けている	9	5	14	1.3%
6	学習ドリルをしている	59	39	98	9.4%
7	何もしていない	8	14	22	2.1%
8	その他	8	2	10	1.0%
合計		543	501	1,044	100.0%

(その他)

・検定試験の勉強

④学校の授業以外に宿題や塾、家庭教師などで1日にどれくらい勉強しますか。

平日の学習時間		小学校	中学校	計	割合
1	3時間以上	17	17	34	6.3%
2	2～3時間	31	96	127	23.7%
3	1～2時間	87	72	159	29.7%
4	30分～1時間	121	54	175	32.6%
5	ほとんどしない	13	28	41	7.7%
合計		269	267	536	100.0%

休日の学習時間		小学校	中学校	計	割合
1	3時間以上	18	29	47	8.9%
2	2～3時間	32	32	64	12.1%
3	1～2時間	79	59	138	26.1%
4	30分～1時間	85	74	159	30.0%
5	ほとんどしない	53	68	121	22.9%
合計		267	262	529	100.0%

5) 運動について質問します。

①学校の体育の授業以外で運動していますか。(部活や習い事、友だちとの遊びも含めます)

		小学校	中学校	計	割合
1	毎日運動する	83	85	168	30.9%
2	週に4日以上運動する	75	94	169	31.0%
3	週に3日以内しか運動しない	62	27	89	16.3%
4	ほとんど運動しない	55	59	114	20.9%
5	その他	3	2	5	0.9%
合計		278	267	545	100.0%

②学校の体育以外でどのように運動をしていますか。(あてはまるものすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	学校の運動部に所属している	62	143	205	28.0%
2	ダンスなど運動系の習い事をしている	63	18	81	11.1%
3	友だちとの遊び	140	92	232	31.6%
4	ランニングなど自主的な運動を行っている	55	53	108	14.7%
5	授業以外で特に運動はしていない	40	41	81	11.1%
6	その他	14	12	26	3.5%
合計		374	359	733	100.0%

(その他)

- ・自転車、スケボー
- ・野球練習
- ・野球をしている

- ・休日に家族と遊ぶ
- ・徒歩での移動

6) 自由時間について質問します。

①部活や勉強以外であなたが1日のうち自由に使える時間がどれくらいありますか。

平日		小学校	中学校	計	割合
1	ほとんどない	12	15	27	5.0%
2	1時間未満	47	54	101	18.6%
3	1時間以上3時間未満	95	107	202	37.2%
4	3時間以上5時間未満	62	54	116	21.3%
5	5時間以上	58	39	97	17.9%
合計		274	269	543	100.0%

休日		小学校	中学校	計	割合
1	ほとんどない	3	5	8	1.6%
2	1時間未満	14	4	18	3.5%
3	1時間以上3時間未満	26	22	48	9.3%
4	3時間以上5時間未満	59	54	113	22.0%
5	5時間以上10時間未満	86	86	172	33.5%
6	10時間以上	73	82	155	30.1%
合計		261	253	514	100.0%

②あなたは1日のうち自由に使える時間をどのようなことをして過ごしていますか。

(あてはまるものすべて)

平日		小学校	中学校	計	割合
1	友だちと遊ぶ	153	106	259	10.8%
2	家族と過ごす	132	98	230	9.6%
3	テレビやDVD、YouTubeをみる	205	213	418	17.5%
4	ゲームをする	164	142	306	12.8%
5	読書をする	51	31	82	3.4%
6	マンガや雑誌を読む	88	66	154	6.4%
7	音楽を聴く	139	176	315	13.2%
8	運動をする	76	64	140	5.9%
9	のんびりしている	131	129	260	10.9%
10	インターネットサイトやSNSをみる	67	138	205	8.6%
11	自由に使える時間はない	1	3	4	0.2%
12	その他	10	7	17	0.7%
合計		1,217	1,173	2,390	100.0%

(その他)

- ・絵を書いている
- ・勉強をする

- ・好きな曲を歌う
- ・寝る

休日		小学校	中学校	計	割合
1	友だちと遊ぶ	166	210	376	12.8%
2	家族と過ごす	168	139	307	10.4%
3	テレビやDVD、YouTube をみる	225	235	460	15.6%
4	ゲームをする	193	173	366	12.4%
5	読書をする	72	34	106	3.6%
6	マンガや雑誌を読む	112	96	208	7.1%
7	音楽を聴く	151	190	341	11.6%
8	運動をする	99	93	192	6.5%
9	のんびりしている	167	182	349	11.8%
10	インターネットサイトや SNS をみる	78	146	224	7.6%
11	自由に使える時間はない	1	0	1	0.0%
12	その他	13	6	19	0.6%
合計		1,445	1,504	2,949	100.0%

(その他)

- ・ 絵を書いている
- ・ 宿題をしている
- ・ 料理 (おかし作りなど)

- ・ 勉強する
- ・ 水泳、教会

7) 悩みについて質問します。

①あなたは今までにどんなことで悩んだことがありますか。(あてはまるものすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	学校生活について	70	86	156	17.0%
2	進路について	38	186	224	24.3%
3	友人関係について	86	76	162	17.6%
4	家族について	31	33	64	7.0%
5	部活動について	37	89	126	13.7%
6	悩んだことはない	98	44	142	15.5%
7	言いたくない	23	12	35	3.8%
8	その他	6	4	10	1.1%
合計		389	530	919	100.0%

(その他)

- ・ いじめ
- ・ 容姿・体型

- ・ 恋愛

②あなたが悩み事を相談できる人は誰ですか。(あてはまるものすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	父親または母親	165	154	319	31.4%
2	兄弟または姉妹	53	52	105	10.4%
3	おじいさんまたはおばあさん	35	10	45	4.4%
4	友だち	157	167	324	31.9%
5	先輩	18	13	31	3.1%
6	学校の先生	65	46	111	10.9%
7	スクールカウンセラー (相談員)	8	4	12	1.2%
8	インターネット(掲示板や交流サイトなど)	2	9	11	1.1%
9	相談できる人はいない	21	26	47	4.6%
10	その他	5	5	10	1.0%
合計		529	486	1,015	100.0%

(その他)

- ・ 親戚
- ・ 自分自身

- ・ 信頼できる人

8) 将来について質問します。

①将来どのような人になりたいですか。(あてはまるもの3つまで)

		小学校	中学校	計	割合
1	みんなを引っばっていく力のある人	39	26	65	5.2%
2	自分の意見をきちんと言える人	80	77	157	12.4%
3	自分の頭で考え、判断し、行動できる人	115	78	193	15.3%
4	夢や目標を持っている人	67	67	134	10.6%
5	いろんなことにチャレンジする人	56	43	99	7.9%
6	優しく思いやりのある人	139	115	254	20.2%
7	相手の立場に立って考えられる人	69	44	113	9.0%
8	社会や人の役に立てる人	41	43	84	6.6%
9	周りを楽しませることが出来る人	61	63	124	9.8%
10	特にない	8	10	18	1.4%
11	わからない	5	10	15	1.2%
12	その他	2	3	5	0.4%
合計		682	579	1,261	100.0%

(その他)

- ・自分ができることをやる人
- ・子どもに尊敬される大人
- ・何事にも努力できる人

②-1 あなたには将来やりたい仕事がありますか。

		小学校	中学校	計	割合
1	ある	187	159	346	64.6%
2	ない	83	107	190	35.4%
合計		270	266	536	100.0%

9) 進学について質問します。

①-1 あなたは進学に関する不安や悩みはありますか。

		小学校	中学校	計	割合
1	ある	96	202	298	55.3%
2	ない	177	64	241	44.7%
合計		273	266	539	100.0%

①-1で「①ある」と回答した方へ質問します。

①-2 どんな不安や悩みか教えてください。(あてはまるものすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	学力面から希望の進学先へ進むことができるか不安がある	59	172	231	50.3%
2	将来の夢を実現するためにどのような進路へ進めばいいかわからない	56	71	127	27.7%
3	進路について家族の協力が得られない	0	8	8	1.7%
4	経済面から希望の進学先に進むことができるか不安がある	20	14	34	7.4%
5	どうすればよいかわからない	20	33	53	11.6%
6	その他	2	4	6	1.3%
合計		157	302	459	100.0%

(その他)

- ・家族に話すことができない、協力してくれるかわからない
- ・勉強ができない
- ・高校の勉強にはついていけないのか
- ・面接に少し不安がある
- ・まだ高校が決まってない

10) 地域の活動について質問します。

①あなたは地域の活動に参加したことはありますか。(あてはまるものすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	地域のお祭りに参加している	173	144	317	51.5%
2	地域の子ども会活動に参加している	41	16	57	9.3%
3	地域清掃やボランティア活動をしている	41	19	60	9.8%
4	その他	17	42	59	9.6%
5	参加したことがない	54	68	122	19.8%
合計		326	289	615	100.0%

②ふだん近所の人とあいさつをしますか。

		小学校	中学校	計	割合
1	自分からあいさつをする	129	123	252	48.8%
2	あいさつされた時は、自分もあいさつをする	104	108	212	41.1%
3	あいさつをすることが恥ずかしいから、あまりあいさつをしない	3	7	10	1.9%
4	あいさつをしたり、されたりする場が少ない(近所の人をほとんど知らない)	19	23	42	8.2%
合計		255	261	516	100.0%

③この一年間に、地域の施設に行ったことはありますか。(あてはまる施設にすべて)

		小学校	中学校	計	割合
1	公民館	163	86	249	27.9%
2	宜野湾市図書館	130	81	211	23.6%
3	移動図書館ちゅらゆめ号	61	18	79	8.9%
4	宜野湾市民会館・宜野湾市立中央公民館	56	48	104	11.6%
5	宜野湾市立博物館	39	11	50	5.6%
6	行ったことがない	61	123	184	20.6%
7	その他	11	5	16	1.8%
合計		521	372	893	100.0%

1 1) やってみたいこと、体験してみたいことについて質問します。

①学校の授業以外で地域のことについて学びたいことはありますか。(あてはまるもの3つまで)

		小学校	中学校	計	割合
1	エイサーや綱引きなど	66	47	113	15.3%
2	地域の歴史・文化・自然	81	38	119	16.2%
3	うちなーぐち	66	70	136	18.5%
4	タイムなどの地域の特産物	39	14	53	7.2%
5	陶芸などのものづくり	52	30	82	11.1%
6	特にない	100	130	230	31.3%
7	その他	2	1	3	0.4%
合計		406	330	736	100.0%

(その他)

・三線

・戦争の怖さ

1 2) 市への要望について質問します。

①みなさんのために宜野湾市にどんなことをしてほしいと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

		小学校	中学校	計	割合
1	お金の心配をすることなく学べる(進学や塾に行ける)ように支援する	133	131	264	25.9%
2	将来のことについて相談できる場を増やす	81	47	128	12.6%
3	放課後や休日に利用できる場所を増やす	142	149	291	28.5%
4	悩みを相談できるところを増やす	52	27	79	7.8%
5	イベントやボランティアなどの活動に積極的にいかかれる機会を増やす	50	47	97	9.5%
6	自分の意見を発表できる場面を増やす	36	16	52	5.1%
7	特にない	34	45	79	7.8%
8	その他	14	15	29	2.8%
合計		542	477	1,019	100.0%

(その他)

・沖縄の文化を伝えるところがほしい
 ・遊ぶ場所を増やす・残してほしい
 ・スポーツができる場所(バスケットコート、野球場、サッカー場、スケボーパークなど)
 ・家族が多い家庭のための支援金
 ・自然を増やしてほしい
 ・グラウンドを大きくしてほしい
 ・学校のクーラーを直してほしい
 ・英検・数検・漢検の支援

・小学校や、中学校などの教師が子どもからどう思われているのかの調査を徹底してほしい。
 ・学校の設備の費用
 ・戦争の恐ろしさを伝える授業
 ・子ども達の居場所を作ってほしい
 ・勉強ができる場所をつくってほしい
 ・防犯対策をもっとしっかりと(街灯や交番などを増やす)
 ・レースサーキットを作ってほしい

その他、ご意見・ご提案等

②学校生活

- ・勉強する意味、その本質をわからせる授業をするべき。教師の教え方に対する意識の統一。教えることについての統一（教師間で意見が食い違うことをなくす）。校則を全児童、全生徒が閲覧できるようにする。
- ・外国語などのクラブを作るのが素晴らしいと思う。
- ・リモート授業をしてほしい。（優先順位を決めて、端末などを配布する）体育館にクーラーをつけてほしい、学校を新しくしてほしい
- ・体育館のトイレが臭い。ドアがあけにくい。
- ・トイレを新しくしてほしい
- ・小学校の窓が開けにくい
- ・学校にテニスコートを作ってほしいです。
- ・自習室を作ってほしい
- ・学校給食が美味しくないなので、美味しくしてほしい。
- ・携帯などの持ち込みを原則OKにして欲しい。学校が終わって、親とかと連絡したいから。
- ・校則。髪、眉のダメな理由がわからん
- ・学校から1人1台タブレットがほしい。それで宿題をしたり、授業をしたりしたいです！
- ・ツブロックがダメな理由。クラス替えを求む。朝読書をやる理由が学校から聞きたい

③支援等

- ・行きたい高校には、バスで行かないといけないので、毎日のバスのお金を考えると、家族に申しわけないと思うので、バス代を少しでも安く、できれば半額にしてほしい。
- ・就学援助を兄弟が多い世帯にもしてほしい。
- ・私達小学生や中学生には選挙権がないので、宜野湾市の小、中学生と宜野湾市の議員が話し合える場を作ってほしいです。
- ・自由参加のボランティア活動がしたい。（行われることを学校等で知らせてほしい）
- ・お金の心配をすることなく学べる（進学や塾に行ける）ように支援をしてほしい。

④その他施設

- ・学校がおわったらそのまま、勉強できる所がほしい
- ・公園がほしい（広くて、ボール遊びが出来るような所）、道路（近道できるような）
- ・バスケットリングがある公園、スケボーパーク
- ・ドーム
- ・歩いて行けるところに、（小学校近くに）図書館をつくってほしい。
- ・スケボーで遊べる場所を作ってほしい。
- ・普天間基地をなくし、大きい図書館や大きい公園・遊園地をつくる。
- ・美術館や博物館がもっとほしい
- ・大きいショッピングセンターがほしい。
- ・公共施設（公園）のトイレをちゃんと掃除してほしい。

⑤その他

- ・もっと明るい町を目指そう！がんばろう。
- ・安心して安全に暮らせて、子どもも楽しめるような場所がある、すてきな宜野湾市にしてほしいです。
- ・コロナ感染者が基地内で急激に増えていて、とても不安です。在沖米軍とも互いに対等に、言いたいことが言えるような環境を一刻でも早く作ってほしいです。

(2) 保護者アンケート調査結果

1) あなた自身のことについてお伺いします

①ご自身についてお伺いいたします。

年齢		計	割合
1	20代	1	0.3%
2	30代	126	30.9%
3	40代	225	55.1%
4	50代	52	12.7%
5	60代	4	1.0%
合計		408	100.0%

続柄		計	割合
1	父親	35	8.6%
2	母親	368	90.7%
3	祖父母	3	0.7%
4	その他	0	0.0%
合計		406	100.0%

同居家族		計	割合
1	配偶者	320	42.2%
2	子ども（1人）	53	7.0%
3	子ども（2人以上）	353	46.5%
4	孫（1人）	4	0.5%
5	孫（2人以上）	0	0.0%
6	自身または配偶者の親	27	3.5%
7	その他	2	0.3%
合計		759	100.0%

②あなたは家族以外でお子さんのことを話せる（相談できる）方がいますか。

		計	割合
1	いる	389	95.1%
2	いない	20	4.9%
合計		409	100.0%

③あなたは子ども会や公民館活動等の地域活動に参加していますか。

		計	割合
1	よく参加している	17	4.2%
2	まあまあ参加している	43	10.5%
3	あまり参加していない	143	35.0%
4	全く参加していない	206	50.3%
合計		409	100.0%

④あなたはどのような学校関連ボランティアに参加したことがありますか。（あてはまるものすべて）

		計	割合
1	PTA 活動(清掃活動、交通安全指導、行事の支援、バザー等)	254	52.5%
2	読み聞かせ活動	65	13.4%
3	授業の支援	16	3.4%
4	部活動指導	26	5.4%
5	地域コーディネーターからの依頼による学校協働活動	5	1.0%
6	放課後子ども教室コーディネーターからの依頼による学校協働活動	4	0.8%
7	参加したことがない	110	22.7%
8	その他	4	0.8%
合計		484	100.0%

(その他)

- ・夜間パトロールなど
- ・部活動の父母会

- ・区の行事
- ・部活の行事

2) あなたのお子さんについてお伺いします。

①あなたのお子さんは基本的な生活習慣が身についていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	137	33.7%
2	ある程度そう思う	227	55.8%
3	あまりそう思わない	31	7.6%
4	そう思わない	7	1.7%
5	どちらともいえない	2	0.5%
6	わからない	3	0.7%
合計		407	100.0%

②あなたのお子さんは放課後は主にどのように過ごしていますか。(主なもの1つ)

		計	割合
1	親や祖父母と家で過ごす	62	16.1%
2	一人で家で過ごす	31	8.0%
3	友達や兄弟と家や公園などで過ごす	65	16.8%
4	学童クラブで過ごす	8	2.1%
5	児童センターや図書館で過ごす	3	0.8%
6	学校で部活動をする	121	31.3%
7	塾やスポーツクラブ、習い事などに通う	90	23.3%
8	その他	6	1.6%
合計		386	100.0%

(その他)

- ・山学校行ったり、友だちの家など
- ・教会
- ・家で姉妹と過ごす
- ・時々友達と遊ぶ又は一人で家にいる
- ・兄弟と家ですごす
- ・家で過ごす(家族だけか1人はいる)

③-1 お子さんに携帯電話やスマートフォン、パソコンを持たせていますか。

		計	割合
1	持たせている	255	63.8%
2	持たせていない	145	36.2%
合計		400	100.0%

③-1で「①持たせている」と答えた方にお伺いします。

③-2 持たせている理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	家族との連絡のため	227	48.1%
2	学習に使用するため	53	11.3%
3	携帯電話の機能を使えるようにするため	13	2.8%
4	(GPSなどで)子どもの居場所を確認するため	52	11.0%
5	子どもの楽しみとして使わせても良いと考えるため	54	11.4%
6	子どもが欲しがるため	29	6.1%
7	子どもの友達が持っているため	28	5.9%
8	特に理由はない	3	0.6%
9	その他	13	2.8%
合計		472	100.0%

(その他)

- ・塾通いの送迎のためその連絡で
- ・LINEなどで友達と連絡が取れるように。授業や学校を休んだ際の連絡手段
- ・部活の連絡網
- ・学校外の部活送迎のため
- ・自宅に固定電話が無い為、ガラケーを置き、子どもが外出時に持たせたりしている
- ・お下がりや余っているから
- ・習い事のグループLINE
- ・部活や友達との連絡手段
- ・周りに持っている子の割合が高いから、周りに合わせている

③-1で「①持たせている」と答えた方にお伺いします。

③-3 お子さんの携帯電話等にフィルタリング機能をつけていますか。

		計	割合
1	付けている	144	57.1%
2	付けていない	61	24.2%
3	わからない	13	5.2%
4	インターネット接続ができない機種を持たせている	34	13.5%
合計		252	100.0%

④あなたはお子さんの学校以外の学習に PC、スマートフォンやタブレット端末等を利用した学習方法を取り入れていますか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	家で PC、スマートフォンやタブレット端末等で自主学習をしている	98	23.7%
2	PC、スマートフォンやタブレット端末等を利用した通信教育を受けている	36	8.7%
3	学習塾などで PC、スマートフォンやタブレット端末を使用している	42	10.2%
4	学習に PC、スマートフォンやタブレット端末を使用していない	194	47.0%
5	PC、スマートフォンやタブレット端末を持っていない	43	10.4%
合計		413	100.0%

3) 本市の学校教育についてお伺いします。

①あなたは、本市の学校教育の現状についてどう思いますか。

		計	割合
1	満足している	32	7.9%
2	ほぼ満足している	192	47.2%
3	やや不満である	54	13.3%
4	不満である	12	2.9%
5	どちらともいえない	74	18.2%
6	わからない	43	10.5%
合計		407	100.0%

②あなたのお子さんは学校教育によって基礎的・基本的な学力が身についていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	79	19.3%
2	ある程度そう思う	237	57.9%
3	あまりそう思わない	56	13.7%
4	そう思わない	13	3.2%
5	どちらともいえない	16	3.9%
6	わからない	8	2.0%
合計		409	100.0%

③あなたのお子さんが通っている学校は幼稚園・小学校・中学校の連携が十分なされていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	54	13.3%
2	ある程度そう思う	189	46.6%
3	あまりそう思わない	61	15.0%
4	そう思わない	15	3.7%
5	どちらともいえない	20	4.9%
6	わからない	67	16.5%
合計		406	100.0%

④あなたのお子さんは教員とのコミュニケーションの時間が十分とられていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	65	15.9%
2	ある程度そう思う	204	49.9%
3	あまりそう思わない	74	18.1%
4	そう思わない	21	5.1%
5	どちらともいえない	14	3.4%
6	わからない	31	7.6%
合計		409	100.0%

⑤あなたのお子さんが通っている学校は進路指導（キャリア教育）が十分なされていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	32	7.8%
2	ある程度そう思う	139	34.0%
3	あまりそう思わない	104	25.4%
4	そう思わない	15	3.7%
5	どちらともいえない	35	8.6%
6	わからない	84	20.5%
合計		409	100.0%

⑥あなたのお子さんが通う学校では不登校・いじめ、非行などの指導・支援が十分なされていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	42	10.3%
2	ある程度そう思う	155	38.1%
3	あまりそう思わない	67	16.4%
4	そう思わない	23	5.7%
5	どちらともいえない	29	7.1%
6	わからない	91	22.4%
合計		407	100.0%

⑦あなたはいじめ等を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの2つまで）

		計	割合
1	学校が子どもたちを注意深く観察し、状況を把握すること	233	31.5%
2	専門の相談員（スクールカウンセラー、臨床心理士等）にいつでも相談できること	77	10.4%
3	家庭で子どもたちに基本的しつけを身につけさせ、見守り育てること	83	11.2%
4	家庭での会話を増やし、子どもが置かれている状況を把握すること	308	41.6%
5	地域で子どもたちを見守るため、地域の教育力を高めること	28	3.8%
6	その他	11	1.5%
合計		740	100.0%

（その他）

- ・学校と地域の連携。地域からの情報提供が匿名でできること。
- ・定期的（月1とか）に子ども達へアンケートや聞き取り等を行い、それから注意深く観る事が大切と思う
- ・先生が、いじめが起きないような雰囲気をつくって下さると良い。
- ・子ども自身の属するグループ（クラス・部活・習い事・その他）を1つでも多く持たせてあげること
- ・いじめ側面にフォーカスすること
- ・学校が隠さない事が一番
- ・子どもたちへ月1回などの頻度でアンケートをとったり、相談箱を設置する。
- ・学校や家庭が努力してもいじめはなくなる
- ・子どもたちと積極的に関わり、親も観察するしかないと思う。
- ・先生と親が気軽に情報提供ができること。
- ・子どもだけではなく、先生から生徒に対してのイジメ（配慮不足）も最重視すべき。大人（先生）への更生は相談できない、しづらい事が多く、解決策がありません。

⑧あなたが、小中学校の先生に望むことはどんなことですか。（あてはまるもの3つまで）

		計	割合
1	わかりやすい授業をしてくれる	211	18.6%
2	専門的な知識や社会経験が豊か	36	3.2%
3	意欲的、熱心である	90	7.9%
4	明るく、何でも相談できる	136	12.0%
5	やさしいけど、時には厳しい	132	11.7%
6	子どもの気持ちを分かってくれる	151	13.3%
7	子どもの良いところを伸ばしてくれる	219	19.3%
8	親や地域の人たちと協力できる	18	1.6%
9	いじめがなく、子どもの居場所があるクラスづくりができる	131	11.6%
10	その他	9	0.8%
合計		1,133	100.0%

(その他)

- ・進路指導をきちんとしてほしい。子ども達が”きちんと”理解できるような方法を。ただ”進路指導”ではダメだと思う。目標が定まっていない子どもにも。”本人の意思”を尊重というが、今の子どもたちはまだまだ幼い。もう少し親と子が将来について一緒に考えられるような進路指導になるような方向性を持たせて欲しい。
- ・家内安全で安定していること(常に)
- ・細かな声かけをしてあげてほしい
- ・先生方の教育授業内容がバラバラでテストの時困ると言っていた。
- ・特別支援と差がある。
- ・先生方もレベルUPできる研修や部活指導を学べる各スポーツ心理、先生と保護者・生徒が方向を一つにして学校という学びの場をよりよくしていこうとする意識をもっていく個々の力が必要です。
- ・教員も一人の人間で子どもの話から不平不満がある
- ・私情にとらわれることなく、平等に評価ができる
- ・臍頂をしない
- ・相談員(教科受け持ち教師)が相談室、保健室登校の生徒を否定したり、教師が生徒の名前を’呼べない’そう読まない”とバカにしない事、侮辱しない事。
- ・しっかりと生徒を見る。いじめに対して、見ないフリ、知らないフリをしない。

4) 学校・家庭・地域についてお伺いします。

①お子さんを育てるにあたって、何を大事にしていますか。(あてはまるもの3つまで)

	計	割合
1 早寝・早起きなどの基本的な生活習慣を身に付けること	160	14.0%
2 規律やマナーを守ることなどを身に付けること	234	20.4%
3 朝ご飯をはじめ食事をしっかり食べること(食育)	104	9.1%
4 やさしさや思いやりの心を育てること	291	25.4%
5 基礎的・基本的な学力を身に付けること	118	10.3%
6 自然体験などの体験活動をさせること	25	2.2%
7 夢や生き方を考え、語り合うこと	90	7.9%
8 心身の健康や体力づくりを行うこと	80	7.0%
9 料理や裁縫などを身に付けること	10	0.9%
10 買い物などをとおして金銭感覚を身に付けること	30	2.6%
11 その他	2	0.2%
合計	1,144	100.0%

(その他)

- ・何でもはなせる環境づくり(はなしやすいように声掛け)

②あなたは、学校・家庭・地域が連携していくために重要だと思うものは何だと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

	計	割合
1 学校、家庭、地域の連携行事を増やす	130	14.6%
2 PTA活動の充実	30	3.3%
3 学校が地域の行事に参加する機会を増やす	106	11.8%
4 地域住民が学校に関わる仕組みを充実させる	96	10.8%
5 学校施設をより一層開放する	70	7.8%
6 学校からの情報提供を充実させる	176	19.7%
7 地域が学校のボランティア教育活動を積極的に受け入れる	82	9.2%
8 地域が放課後子ども教室等の子どもの居場所づくりに参画する	142	15.9%
9 わからない	55	6.2%
10 その他	6	0.7%
合計	893	100.0%

(その他)

- ・その必要性はあまり感じない。
- ・子ども達と一緒にボランティア活動をする
- ・親が子どもとの会話、見守り居場所をつくる
- ・子どもをよく知り、子どもの気持ちを分かる教師を増やしてほしい。学費等、いろんな物に費用がかかりすぎる。
- ・懇談会を増やす！先生が一方的にしゃべらず、親同士交流させる→それがPTA参加につながる。

③お子さんに学校の授業以外で地域のことについて学ばせたいことはありますか。(あてはまるもの3つまで)

		計	割合
1	エイサーや綱引きなど	177	20.6%
2	地域の歴史・文化・自然	254	29.5%
3	うちなーぐち	180	20.9%
4	タイモなどの地域の特産物	76	8.9%
5	陶芸などのものづくり	119	13.8%
6	特にない	50	5.8%
7	その他	4	0.5%
合計		860	100.0%

(その他)

- ・空手、老人とのふれあい
- ・陶芸などのものづくり
- ・課外授業(海、山等、疑似体験)
- ・親以外の方々との交流(やさしさ・心の成長)

5)本市が進めてきた教育の取組についてお伺いします。

①これまで本市の教育として推進してきた取組の中で、今後、特に推進した方がよいと思うものはどれですか。(あてはまるもの5つまで)

		計	割合
1	幼児教育の充実	55	3.2%
2	子どもたちが確かな学力を身につけるための教育内容の充実	207	12.0%
3	特別支援教育の充実	68	3.9%
4	外国語教育の充実	201	11.7%
5	子どもたちの進学、就職等のキャリア教育の充実	136	7.9%
6	道徳教育・人権教育の充実	184	10.7%
7	子どもたちの心身の健康保持や体力向上等の健康教育の充実	134	7.8%
8	子どもたちが望ましい食習慣を身につけるための食育の推進	59	3.4%
9	スクールカウンセラー等専門家を活用した教育相談支援体制の充実	63	3.6%
10	学校教育を支援する地域の体制づくりや学校・家庭・地域の連携	58	3.4%
11	放課後子ども教室など、子どもの居場所づくりの推進	120	7.0%
12	子どもたちの交通安全・防犯・防災教育の充実	131	7.6%
13	教職員の指導力の向上のための仕組みづくり	56	3.2%
14	教職員の労働環境の充実	72	4.2%
15	学校のICT(情報機器)化の推進	112	6.5%
16	学校等の施設の充実	68	3.9%
合計		1,724	100.0%

②変化の激しい環境のなかで、今後、特に力を入れて欲しい支援はどれですか？(あてはまるもの3つまで)

		計	割合
1	自発的な学びの機会の充実	232	23.0%
2	プログラミング教育の充実	133	13.2%
3	オンラインを活用した授業の構築	166	16.5%
4	実践的な英語教育	234	23.2%
5	AIを活用した教育や分析等の推進	51	5.0%
6	SNS等のモラル教育の推進	189	18.8%
7	その他	3	0.3%
合計		1,008	100.0%

(その他)

- ・交通安全指導
- ・個人個人にあった指導のすすめ
- ・金融教育
- ・情報モラル教育は特に必要だと思う

その他、ご意見・ご提案等

①教育方針

- ・個々の個性を伸ばし、臨機応変に何でも対応できる力を身に付ける様な支援をお願いしたいです。将来は、AI がたくさん仕事をこなすと言われており、残りの少なくなった仕事や新しい仕事等、何でもこなせる様な力を身につけてほしいと思います。
- ・時間の变化で機械化されて行く中で、人間味を失わない様に、人間の力を伸ばせる教育を忘れないで欲しいです。
- ・人権・道徳教育は慎重にされてください。多様すぎる世間は全て「OK」ではいけない。
- ・義務教育上、できない子の底上げが大事な事は理解しますが、「道スマイルクラス」の様に、出来る子達が切磋琢磨できる環境があっても良いと思います。週に一コマだけでも良いので試してみたい。
- ・時代のニーズに合った学習に取り組んで欲しい。パソコンのプログラミング。国際社会に適応出来る教育をする（英語力の強化）。
- ・当市は、比較的、教育に関する大人（PTA 等）の意識が低いと思う。誘致をして、他の市町村（都心・県外）からの家族を入れた方がよい。学校に行くだけで OK とする親が多いと感じる。
- ・授業日数を調整し、子ども達が皆、手話や点字など出来るようにした方が、よほど世に出て身になるし、人の役に立つように思います。小学生から義務教育の中で全員が出来たら、もしくはある程度理解できたらと思います。
- ・自分の考えを発表、声にさせる子、自尊心の高さ。自分を大事にし、同じ様に生きとし生けるものを大事にする心をもっている子。道徳の時間などで子どもに話し、ディスカッションする場を与えてほしいです。
- ・家庭でもなかなかふれあうチャンスがない土いじりなど、小さい時からの自然とのふれあいの機会を増やす。地域の作物を小・中でも作る。
- ・教育委員会の職員は、現場の先生方が大変な事も実感して欲しい。
- ・外国人の子どもたちにも、日本語を上達させる機会が増えることを期待しています。
- ・教育レベルが他市町村と比べると、まだまだ低く進学につれて心配です。学力向上が将来の子ども達には必要で将来の宜野湾市に大きく影響すると思います。今後も子ども達の為に支援サポート宜しくをお願いします。
- ・義務教育で学力の差があることがおかしい！分からないところは塾で！！が間違っている！まさに貧困問題です！高校受験も大学受験のように行きたい子が頑張って勉強し点数を稼げば良い。高校卒業認定も取れる専門学校等も充実して欲しい。
- ・那覇、浦添など周辺地区との比較。取り組みの情報共有・公開などあれば沖縄県全体での学力向上、精神衛生面での向上。等、メリットが増えるのでは無いでしょうか。
- ・特別支援などのあり方が、小中学校では連携がなさすぎます。すべての学校とは言いませんが。普通学級の担任の先生は小中共に、障がいのある子どもに対し理解不足。勉強するべき！
- ・福祉サービスの会議相談員さん、療育の事業所さん、先生、親子で行う会議や保育所等訪問支援を先生に提案すると、嫌がられているような気がします。子どものためですので、どうか、先生方や学校に、先生や学校の評価が下がるものではない事、また、先生や学校を攻撃するものではない事を伝えて頂きたいです。学校や先生が、受け入れやすくなるような雰囲気を作って下さると嬉しいですよ。
- ・特別支援学級のように少数派の子どもでも生き生きと通えるような学校を作って頂けたら助かります。学年が変わる時に新しい担任の先生（交流学級の先生も）に特性を伝える時間を学校の方から作って下さるとありがたいです。親の方からは、忙しい先生に時間を作ってほしいと伝えるのにはどうしても遠慮してしまいます。
- ・中学生の身なりについての指導に気になる点があります。決められたルールを守らずに登校した生徒に対して帰宅を命じたり、教室に入れない。親に電話して帰す等、内容は様々ですが、本当にそれが適切なのか疑問に思います。（授業を受ける権利があるのに・・・）
- ・学校の先生だけでなく、教育委員会の方々も積極的に先生方をフォローすれば負担も軽減されませんか。対象児童の保護者や、その地域の子どもの関わっている機関にも連携を密に取り、気になる子を一緒に手助けしていける体制にして下さい。

②給食について

- ・食育に関してですが、給食時間が短い様に思います。ゆっくり噛んで味わうのも大切ではないでしょうか。給食後すぐに掃除時間なので、遅めの子は、急がざるを得ないし、かわいそうです。（昔は、給食後、昼休み後でそうじでした。）授業の時間の確保だけでなく、バランスの良い、時間配分を検討して欲しいです。
- ・学校で牛乳が飲めない子が多く、牛乳が残っていないのか、「もったいない」ということを（食材全て）もっと知ってほしい。和食に牛乳は子どもでも飲みにくいと思います。
- ・給食の野菜等の切り方等、工夫して、食べやすくして頂ければと思います。

③施設について

- ・大山小の給食センターは良い！図書館、美術館、バスケコートなどを増やしてほしい。
- ・毎日水筒を持たせていますが、夏場は足りません。学校には、給水器があれば良いと思います。
- ・学校体育館のカーテンやボール等設備がかなり古い。錆が手につくので確認してほしい。窓のカギが閉まらない、開かない等。朝の交通安全が自治会によって差があり、登校がとても心配。安全面（火災、地震等）のためシューズを室内ではけるようにしてほしい。
- ・登校・下校の時の真栄原十字路の交通安全を強化してほしいです。※子ども達がわたっている時、右から左から車が来る為宜しくお願いします。

④子どもの居場所

- ・各地域の公民館で放課後の子どもの居場所づくりを設けてほしい。学校の授業に担任だけでなくヘルプの先生もいてほしい。(特に算数)担任の説明でわからない子は授業についていけなくなってしまう。

⑤教員

- ・取り組んで頂いた内容が、しっかりと現場の先生や保育者達の中で行えているか、現場の先生たちのケアや充実を十分に行ってあげて欲しいです。
- ・全てを先生や教育・保育の現場に丸投げされてしまい、苦しい状況に立たされている先生や保育士さん達が多いように感じ、見ていて苦しいです。それは、スクールカウンセラーや臨床心理士さんにおいてももちろんです。末端の先生達、保育士さん達に任せっぱなしにするのだけでなく、ちゃんと意見や心のケアをしてあげて欲しいです。
- ・ちゃんと縦の流れが十分に行えるように仕組みの把握をお願い致します。
- ・思春期になり大人の言葉に敏感です「丁寧な言葉づかいをしましょう」と子どもに言いますが、私たち大人はどうでしょうか、子ども相手だからと乱暴な言い方をしていないでしょうか。私たち親も、学校の先生方もほっこりあたたかい「オレンジカード」の心で子ども～大人まで誰に対しても気持ちの良い言葉づかいを目指したいと思います。
- ・特別支援学級の担任の先生の全てがティーチャーズトレーニングを受けて頂けると、子どものためにも先生のためにも良いのではないかと思います。
- ・担任の中には、感情的に怒ったり、子ども達の前で一人の子を長い時間、叱責していたなどと聞きました。又、学校側は知っているのか分かりませんが、いじわるを言われたり、仲間はずれ等もあると、勉強も大切だとは思いますが、この様な事も気にしていただけたらうれしいです。
- ・とても先生らしくメリハリの出来る先生にあたりました。子どもが遅刻しない、早く学校に行きたい、楽しい話をよく私にします。こういう先生がもっと増えてほしいです。
- ・6年間で心に残るような先生がいない。子どもから「大好き」と言われる先生がいない。ベテランの先生に多い気がする。各学校にメールで問い合わせや、匿名でのご意見板があると、伝えにくいことも伝えやすいと思う。
- ・担任の先生の指導力で学力が大きく変わるようです。きちんとご指導下さる先生が担任になると、家で授業の具体的な内容を話すことが増え、テストの点数もグンと上がります。家庭学習ももちろん大切ですが、先生が与える影響はやはり大きいと思います。子どもたちが学ぶ環境はもちろん、先生方の働く環境整備していくことも学力向上につながると思います。
- ・三者面談で先生と仲良く会話していて、日常生活もイライラ感が無くなっているのは担任の影響だと実感しました。
- ・学校・教育委員会に対してとても不満。学校・教員は、子ども達を守ることが仕事だと思っています。しかし、それが全くできていない。事務的な対応、子ども達に対して向き合っていない。色々な問題をかかえていて大変だと思うが、やるべき事をしっかりとやって欲しい。
- ・教員の資質にとっても差がある気がします。技術もではありますが、それ以前に熱意が欲しいです。子どもたちに一生懸命向き合ってくれているかどうかは子どもにも親にも伝わります。
- ・学力(通知表)の評価の仕方等。私情が入った評価である(生徒より)評価に関する為、先生に何も言えない。
- ・教師の生活にゆとりが出ると、子どもたちの教育も充実すると思う。子どもたちへより良い教育を提供してもらうために、教員の仕事内容が精選されることを願います。先生方は普段からとても努力されていると感じます。

⑥いじめ

- ・相談員の先生と兼用しているにもかかわらず、授業で本人を目の前に「朝から教室にこず、給食の時だけ教室に来る人を皆さんはどう思いますか?」って最低な発言だと思います。やっと勇気を出して教室に行ったのに、酷いです。
- ・昔は学校へ行くのはあたり前。今は無理して登校させるな!で、そうすると、学校へ行くタイミングを逃し、何年も登校出来ず、人間関係がつかれない子どもになると思うし。学習支援もどうするのか?不安です。
- ・クラブ活動などで、大人が発言した言葉にショックを受けた子ども達がいる。モラルのない親もいる。注意した親もいじめに合い、その親の子どももクラブ活動が出来なくなった。そう言った意見も聞かない指導者もいる。子ども達が安心してクラブ活動等に参加出来る環境作りをして欲しい。

⑦支援等

- ・受験をするのに学校の授業だけでは不安だと子どもが言うので塾に入れてあげたいのだが、経済的に厳しく未だに入れてあげられない。父子、母子家庭ではないので市の学習支援等は応募できない。経済的に厳しいのは、ひとり親だけではないと思う。子どもは学ぶ意欲はともあるのに、それをさせてあげられない事は親としてとても心が痛い。放課後教室(数人が集まり、大学生の方から授業を受ける)がまた、できたらいいのにと思う。
- ・検定試験の半額補助を英検だけでなく、漢検、数検にも適応出来たら、学習面の充実にもつながって行くのでは。
- ・お知らせプリントが多すぎると思います。学校HPを充実させて、サイトから確認できるようにお願いします。データで管理できるようにして下さい。

⑧コロナ関連

- ・コロナの影響で、夏休みが短すぎると思います。他県は、20日程度はあるようです。第2波の流行に備え、できるうちに授業を進めておきたいのかなと理解していますが、子ども達にストレスがかかると思います。又、昼休み(30分休み)の短縮、校庭での遊びの禁止など、コロナ対策なのは分かりますが、体育以外の時間でも自由に体を動せる時間とルールを作って欲しいと、強く思います。学校に行かせられるだけでもありがたいことだとは思いますが、厳しすぎると感じています。
- ・家にネット環境が無い家庭にも遠隔授業等が受けられるよう、整備してほしいです。

(3) 教員アンケート調査結果

1) あなた自身のことについてお伺いします。

①ご自身についてお伺いいたします。

年齢		計	割合
1	20代	56	15.1%
2	30代	86	23.2%
3	40代	115	31.0%
4	50代	106	28.6%
5	60代	8	2.1%
合計		371	100.0%

性別		計	割合
1	男性	146	39.2%
2	女性	219	58.9%
3	答えたくない	7	1.9%
合計		372	100.0%

教員歴		計	割合
1	～4年	73	19.6%
2	5～9年	69	18.6%
3	10～19年	90	24.2%
4	20年以上	140	37.6%
合計		372	100.0%

勤務校		計	割合
1	小学校	254	68.1%
2	中学校	119	31.9%
合計		373	100.0%

職名		計	割合
1	校長	8	2.2%
2	副校長または教頭	7	1.9%
3	校長・教頭以外の教員	350	94.3%
4	その他	6	1.6%
合計		371	100.0%

2) あなたの業務状況についてお伺いします。

①勤務時間外の業務についてお伺いします。

勤務時間外の業務時間		計	割合
1	～5時間	57	16.0%
2	6時間～10時間	81	22.7%
3	11時間～20時間	133	37.2%
4	21時間以上	86	24.1%
合計		357	100.0%

勤務時間外の業務内容		計	割合
1	教材研究・授業準備	323	20.6%
2	報告書等の作成	163	10.4%
3	提出物や成績の処理	287	18.3%
4	学校行事の準備	104	6.7%
5	校務分掌に係る業務	215	13.7%
6	保護者・PTA対応	137	8.7%
7	生活指導	54	3.5%
8	試験問題の作成及び採点	116	7.4%
9	集金等の事務処理	58	3.7%
10	部活動の指導	84	5.4%
11	課外授業・補習授業	14	0.9%
12	時間外の勤務はしない	2	0.1%
13	その他	10	0.6%
合計		1,567	100.0%

(その他)

- ・ 事務処理、学年の資料の準備
- ・ 宿題プリント作成
- ・ PTA作業、夜間街灯指導
- ・ 消毒、水かけ
- ・ 会議等
- ・ 夜間パトロール
- ・ 学級事務
- ・ 相談業務（ケース会議等）、家庭訪問
- ・ 法定研修の提出物

②-1 この1年間で、多忙感を感じましたか。

		計	割合
1	とても感じた	201	56.1%
2	ある程度感じた	135	37.7%
3	あまり感じなかった	20	5.6%
4	感じなかった	2	0.6%
合計		358	100.0%

②-1で「①とても感じた」、「②ある程度感じた」とお答えした方にお伺いします。

②-2 多忙感を解消するために有効だと思うことは何ですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	校務分掌の見直しなど校務の効率化	176	13.8%
2	ICTなどを活用した業務の効率化	112	8.8%
3	提出書類の軽減	249	19.5%
4	教員間の連携・協力体制の構築	99	7.7%
5	苦情や要望のスムーズな処理	108	8.4%
6	会議の効率化(回数を減らす、時間を短縮するなど)	136	10.6%
7	研修の内容や実施方法の改善	141	11.0%
8	ノー残業デーなどの実施	71	5.5%
9	クラブ・部活動の負担軽減	78	6.1%
10	給食費や教材費などの私費の徴収事務の軽減	98	7.7%
11	わからない	12	0.9%
合計		1,280	100.0%

③日々の職務で、課題だと感じることは何ですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	児童・生徒の基礎学力の低下	165	10.3%
2	児童・生徒の基礎体力の低下	130	8.1%
3	児童・生徒の規範意識や道徳心の低下	192	12.0%
4	児童・生徒の基本的な生活習慣や食生活の乱れ	217	13.5%
5	児童・生徒の問題行動や不登校・いじめなど	192	12.0%
6	教員の指導力や資質の低下	55	3.4%
7	教員間の情報共有等	80	5.0%
8	教員の間関係	75	4.7%
9	家庭の教育力の低下	233	14.5%
10	地域の教育力の低下	78	4.9%
11	家庭と学校の信頼関係の構築	116	7.2%
12	地域と学校の連携	42	2.6%
13	特に感じない	3	0.2%
14	その他	25	1.6%
合計		1,603	100.0%

(その他)

- ・保護者支援。児童の課題の背景に保護者の課題があるという場合がほとんどである。
- ・担任が授業、事務処理、生徒指導などたくさん抱えすぎ
- ・子どもと向き合う時間がない。せわしく日々を過ごしている感じがする。
- ・1学級あたりの(児童の)人数が多い
- ・校外の研修の精選が図られていない
- ・教員の多忙化、残業や休日労働が多い。
- ・支援を要する子が増えている
- ・管理職との連携および信頼関係
- ・子どもたちのインターネット環境、消費社会にどっぷりつかってしまった保護者、子ども
- ・管理職がその他の職員を指導したり、評価すること
- ・事務作業や教材研究のための時間が足りない。

- ・休憩時間があっても休憩できない
- ・調査物、提出物の多さ
- ・家庭の教育力に差がある。(学校に対する意識・協力の差)
- ・勤務時間外で終わらない業務の多さ・アンケートの集計(アンケートの多さ)
- ・職員の少なさ
- ・時間外の対応。部活・PTA活動・夜間巡視・部活・17時以降の保護者対応・連絡の取れない保護者への対応・休憩時間の生徒の管理(教員以外で)。勤務時間内で業務が終わるよう、時数の軽減、職員の数を増やす。指導に応じての生徒への対応
- ・備品や機器、施設の修繕が不十分な為、日々の教育活動に支障

3) 本市の学校教育についてお伺いします。

①あなたは、本市の学校教育の現状についてどう思いますか。

		計	割合
1	満足している	2	0.5%
2	ほぼ満足している	129	34.7%
3	やや不満である	116	31.2%
4	不満である	31	8.3%
5	どちらともいえない	60	16.1%
6	わからない	34	9.2%
合計		372	100.0%

②あなたの勤務している学校は基礎的・基本的な学力が身につけている子どもたちが多いと思いますか。

		計	割合
1	そう思う	14	3.8%
2	ある程度そう思う	155	41.4%
3	あまりそう思わない	140	37.4%
4	そう思わない	20	5.4%
5	どちらともいえない	34	9.1%
6	わからない	11	2.9%
合計		374	100.0%

③あなたの勤務している学校は分かりやすい授業を提供できていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	16	4.3%
2	ある程度そう思う	303	81.0%
3	あまりそう思わない	17	4.5%
4	そう思わない	1	0.3%
5	どちらともいえない	18	4.8%
6	わからない	19	5.1%
合計		374	100.0%

④あなたの勤務している学校は基本的な生活習慣が身につけている子どもたちが多いと思いますか。

		計	割合
1	そう思う	7	1.9%
2	ある程度そう思う	191	51.2%
3	あまりそう思わない	132	35.4%
4	そう思わない	24	6.4%
5	どちらともいえない	17	4.6%
6	わからない	2	0.5%
合計		373	100.0%

⑤あなたの勤務している学校は幼稚園・小学校・中学校の連携が十分なされていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	13	3.4%
2	ある程度そう思う	188	50.1%
3	あまりそう思わない	103	27.5%
4	そう思わない	16	4.3%
5	どちらともいえない	28	7.5%
6	わからない	27	7.2%
合計		375	100.0%

⑥あなたの勤務している学校は子どもたちと教員のコミュニケーションの時間が十分とられていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	9	2.4%
2	ある程度そう思う	160	42.7%
3	あまりそう思わない	128	34.1%
4	そう思わない	44	11.7%
5	どちらともいえない	27	7.2%
6	わからない	7	1.9%
合計		375	100.0%

⑦あなたの勤務している学校では進路指導（キャリア教育）が十分なされていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	12	3.2%
2	ある程度そう思う	230	61.5%
3	あまりそう思わない	73	19.5%
4	そう思わない	7	1.9%
5	どちらともいえない	23	6.1%
6	わからない	29	7.8%
合計		374	100.0%

⑧あなたの勤務している学校では情報モラル教育が十分なされていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	9	2.4%
2	ある程度そう思う	190	50.8%
3	あまりそう思わない	95	25.4%
4	そう思わない	21	5.6%
5	どちらともいえない	32	8.6%
6	わからない	27	7.2%
合計		374	100.0%

⑨あなたの勤務している学校では不登校・いじめ、非行などの指導・支援が十分なされていると思いますか。

		計	割合
1	そう思う	50	13.4%
2	ある程度そう思う	265	71.1%
3	あまりそう思わない	33	8.8%
4	そう思わない	5	1.3%
5	どちらともいえない	14	3.8%
6	わからない	6	1.6%
合計		373	100.0%

⑩あなたはいじめ等を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの2つまで）

		計	割合
1	学校が子どもたちを注意深く観察し、状況を把握すること	259	36.8%
2	専門の相談員（スクールカウンセラー、臨床心理士等）にいつでも相談できること	137	19.4%
3	家庭で子どもたちに基本的しつけを身につけさせ、見守り育てること	110	15.6%
4	家庭での会話を増やし、子どもが置かれている状況を把握すること	155	22.0%
5	地域で子どもたちを見守るため、地域の教育力を高めること	25	3.6%
6	その他	18	2.6%
合計		704	100.0%

（その他）

- ・子ども達への道徳教育
- ・教員が一人一人の子どもたちをきちんと見る心のゆとり、時間をもつこと
- ・生徒指導、特支との連携、指導体制の構築
- ・どのような手立てが有効なのか知りたい
- ・学校、家庭、教育委員会の連携

- ・学校組織を活性化すること
- ・家庭と学校の連携、共有、共通理解
- ・組織体制をしっかりして、学校全体で対応する
- ・日頃から、やっていいこと、悪いことを教師がしっかり伝えることが大切な時代になっている
- ・いじめられた側を守りたいが、現実的には、いじめられる側が強くと、指導で難しいところがある。学校批判に方向が向いたりする。
- ・教員間の共通実践、共通指導
- ・いじめが子どもだけの問題ではなく、保護者も関わってこじれているケースが増えている感じがする。親の指導（親育て）の場が必要ではないか

4) 学校・家庭・地域についてお伺いします。

①あなたは、家庭教育で大切だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つまで)

	計	割合
1 早寝・早起きなどの基本的生活習慣を身に付けること	289	26.4%
2 規律やマナーを守ることなどを身に付けること	250	22.9%
3 朝ご飯をはじめ食事をしっかり食べること（食育）	150	13.7%
4 やさしさや思いやりの心を育てること	166	15.2%
5 基礎的・基本的な学力を身に付けること	61	5.6%
6 自然体験などの体験活動をさせること	38	3.5%
7 夢や生き方を考え、語り合うこと	85	7.8%
8 心身の健康や体力づくりを行うこと	39	3.5%
9 料理や裁縫などを身に付けること	1	0.1%
10 買い物などをとおして金銭感覚を身に付けること	10	0.9%
11 その他	5	0.4%
合計	1,094	100.0%

(その他)

- ・問題解決能力（子どもたち同士での）（保護者はあくまでもそれをサポート、助言する）
- ・一家団らの時間を設けること。
- ・がまんすること
- ・見本となる大人が保護者であること

②あなたは、学校・家庭・地域が連携していくために重要だと思うものは何だと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

	計	割合
1 学校、家庭、地域の連携行事を増やす	76	8.9%
2 PTA 活動の充実	82	9.6%
3 学校が地域の行事に参加する機会を増やす	41	4.8%
4 地域住民が学校に関わる仕組みを充実させる	169	19.8%
5 学校施設をより一層開放する	16	1.9%
6 学校からの情報提供を充実させる	143	16.8%
7 地域が学校のボランティア教育活動を積極的に受け入れる	113	13.2%
8 地域が放課後子ども教室等の子どもの居場所づくりに参画する	162	19.0%
9 わからない	35	4.1%
10 その他	16	1.9%
合計	853	100.0%

(その他)

- ・市の関連機関が連携し、情報共有や取り組みに継続性をもつこと。
- ・授業等での地域人材の活用
- ・学校・家庭・地域の情報連携の場をつくる。第4の機関を設置する。
- ・学級、家庭、地域が理解し合おうとする意識をもつ
- ・地域との連携を図る授業づくり（地域しらべ）
- ・下校時間をしっかり守らせる
- ・地域にいる様々な人材をボランティアや多少給料を払っても活用し、もっと教師の様々な雑務の負担を減らすべき
- ・家庭の教育力の向上、協力
- ・子ども達を育てる思いを互いに強くする。
- ・教育予算ハード面、ソフト面を充実させる事
- ・時間の確保

5) 本市が進めてきた教育の取組についてお伺いします。

①これまで本市の教育として推進してきた取組の中で、今後、特に推進した方がよいと思うものはどれですか。(あてはまるもの5つまで)

		計	割合
1	幼児教育の充実	62	3.7%
2	子どもたちが確かな学力を身につけるための教育内容の充実	153	9.2%
3	特別支援教育の充実	182	11.0%
4	外国語教育の充実	76	4.6%
5	子どもたちの進学、就職等のキャリア教育の充実	88	5.3%
6	道徳教育・人権教育の充実	97	5.8%
7	子どもたちの心身の健康保持や体力向上等の健康教育の充実	44	2.6%
8	子どもたちが望ましい食習慣を身につけるための食育の推進	43	2.6%
9	スクールカウンセラー等専門家を活用した教育相談支援体制の充実	142	8.6%
10	学校教育を支援する地域の体制づくりや学校・家庭・地域の連携	87	5.2%
11	放課後子ども教室など、子どもの居場所づくりの推進	101	6.1%
12	子どもたちの交通安全・防犯・防災教育の充実	36	2.2%
13	教職員の指導力の向上のための仕組みづくり	60	3.6%
14	教職員の労働環境の充実	183	11.0%
15	学校のICT(情報機器)化の推進	172	10.4%
16	学校等の施設の充実	134	8.1%
合計		1,660	100.0%

②変化の激しい環境のなかで、今後、特に力を入れて欲しい支援はどれですか。(あてはまるもの3つまで)

		計	割合
1	自発的な学びの機会の充実	229	25.7%
2	プログラミング教育の充実	94	10.6%
3	オンラインを活用した授業の構築	170	19.1%
4	実践的な英語教育	71	8.0%
5	AIを活用した教育や分析等の推進	69	7.7%
6	SNS等のモラル教育の推進	238	26.7%
7	その他	20	2.2%
合計		891	100.0%

(その他)

- ・ 教員のゆとりと教材研究をする時間
- ・ 家庭教育にゆとりをもって取り組めるよう、保護者、家庭生活の支援
- ・ 学校の職員を増やし、多くの人材が多面的、多角的に取り組める
- ・ まず ICT 機器の各学級配置
- ・ 保護者への対応(クレーム等)。意味の分からないクレームが多く、対応が大変。
- ・ 教員の技術力向上(プログラミング等)の研修や専門家の派遣
- ・ 特別支援教育の充実
- ・ 教育予算の増額
- ・ 中学校教員に部活動を指導させない(しなくてもよい)制度
- ・ 業務内容の見直し(できないことはできないと伝えるべき)
- ・ キャリア教育の充実のための人材派遣
- ・ ICTを活用した調査ものの負担軽減(今回のように調査も集計もICTで)
- ・ 英語の専科化
- ・ 学校行事の充実。コミュニケーションづくり、活動。
- ・ 支援員配置の拡充
- ・ 情報モラル教育は本当は家庭でやってほしい
- ・ 人材の確保。

その他、ご意見・ご提案等

③人材・組織

- ・ 少人数学級にすること、支援に入る大人の増員を望んでいます。
- ・ 多くの人材との関わりの中で、(毎日の)子ども達の豊かな学びが保障されます。現状は人手不足で、学習、安全面の保障は十分とはいえない。
- ・ スクールソーシャルワーカー配置が必要。
- ・ 日々の業務に負われ、子どもたちと十分にコミュニケーションを図る時間もありません。担任一人では、とても大変で、学級崩壊しないか、とても心配です。
- ・ 学年事務、副担任を置く。支援員増員。専科を増やす。
- ・ もっと外部(専門家、心理士、弁護士)との連携・ネットワークを作って対応する必要がある。

- ・教員の数をひやす。中学校の教師の時数を高校なみにする。16h程度。
- ・教職員の人数を増やして、一人当たりの持ち時数の軽減、仕事内容の分業が必要。
- ・質の高い教育を実現するには、もっと、教員が行う雑務をもっと地域の活用できる人材にたくすべきである。子どもたちに何かを教えたい、何か学校に力を貸したいという人は必ずたくさんいるはずである。そういった人材をもっと活用する。
- ・管理者を中心とした、学校組織の活性化を図っていただきたいと考えます。それぞれの課題を一担任の対応に頼っている現状も感じられます。組織で共有し、組織で対応する安心感、信頼感を与えてあげたいです。指示より連携が必要かと。
- ・行政が保護者に目を向ける気持ちはわかるが、職員を守るという意識ももう少しもってほしい。
- ・危機管理体制整備 情報共有連携強化

④多忙感

- ・業務状況においては、1人の担任が受けもつ業務が多いのではないかと。正直、教材研究は、時間外でしかできない状況である。
- ・子どもたちのために教育を充実させることは、大切であるが、それが、かえって教職員の負担になるようなことになってはいけません。これまでも自分のプライベートな時間・お金を使って仕事をするのが多々ありました。
- ・今年度、新型コロナウイルスの件により、さらに教員の多忙化がみられます。毎日の授業をこなしたり、生徒指導など消毒作業、臨休分の授業の精選におわれ、体力的にも精神的にもきついです。
- ・先生方は日々の学習の遅れを取りもどすために、みんな一生懸命です。学テを実施、採点、入力している時間を作るのは厳しい。新学習指導要領で授業時間が増え、4年以上は、ほぼ毎日6校時です。
- ・放課後にゆとりを持ちたい。いかに教職員にゆとりを持たせるかを市教委も考えてほしい。
- ・全国学力調査や県の学びの確かめ、対策にかける時間をなくす、又は、減らす。令和2年度は、新型コロナ感染予防にともなって、通常とは違う学校です。子ども達との関わりを、ゆっくり、丁寧に、時間をかけて、大事にしていきたい、そうしないと不登校や登校しぶりや、学校生活への不安をもつ子が増えそう。教師も学習の遅れをとりもどさなくてはと、追い詰められているように感じる。
- ・タイムカードから見えるアセスメントと今後の方針をそろそろ提示すべきと考えます。
- ・毎日のように遅くまで教材研究や提出物に追われています。
- ・子ども達と、向き合う時間が欲しいです。アンケート、報告書、お金の集金等、業務外の仕事が多いです。もっと、働きやすい環境をつくってほしいです。
- ・取り組みを推進するだけでなく、精選することも必要ではないでしょうか。
- ・本校でも、「残業を減らしましょう」というだけで、コロナの影響や管理職が変わったこともあり、教師の仕事は増えるばかりです。「働き方改革」の取り組みを具体的に示してもらいたいです。
- ・行政と現場の温度差が大きい。業務に関してプラスがとても多く、マイナスがないのはおかしい。
- ・せめて確実に休める日を夏休みではなく平日の午後に何日か振りかえてとれるようにしてほしい。
- ・とにかく教育現場は多忙です。「働き方改革」の推進を宜野湾市が、県の先頭に立って進めて欲しいと思います。「学校の声」を、校長会を通して、積極的に取り上げる方向で進めてもらいたい。他の市町村のより良い取り組みを取り入れる。
- ・研修、会議等が多すぎます。必要なことだとは思いますが、教材研究や児童と向き合う時間がありません。校外へ出る研修をもっと減らしてほしいです。同僚性を築きたくても互いに時間がなく、コミュニケーションがとりづらいのが現実です。現場をもっと理解してほしいです。(消毒、保護者対応、自腹(金銭)を多くきっていること)

⑤教育・指導

- ・家族へのタブレットの配布と同時にネットモラルの徹底が必要。タブレットを使い授業づくりするなら、教職員にも1台ずつタブレットを配り、タブレット使った授業づくりができる環境をととのえて欲しい。
- ・1、2年生の1クラスの人数を30人以下(25~28人)ぐらいにしてほしいです。
- ・1学級の人数が多い。校区再編を、検討して欲しい。
- ・地域のことを知る教育、地域の人と関わる教育、自然とふれ合う教育、ものづくり・体験学習
- ・教科書の内容が難しすぎだと思います。子に応じて進路の判断を小卒ぐらいで行い、学習内容をかえていくと、もっと生きいきと活動でき、将来につながると思います。
- ・地域の実態に応じた教育活動が今後展開されることをのぞみます。
- ・宜野湾市スポーツクラブ(野球、サッカー、バスケ、水泳、剣道…etc.)を作り、地域人材を活用し指導させる(雇用の拡大。)モデル校を県教育庁とタイアップして指定して5~10年ほどデータを取って、継続できないかできるか考えてほしい。
- ・生徒が生き生きと学べる環境づくりをソフトやハードな面から常に考えたい。
- ・本校は外国人の子供が多く、ルビふり対応など職員の苦勞が多い。日本語教室を復活して欲しい。
- ・コミュニティ・スクールの推進を通して、学校と地域が一体となって、地域の子どもは地域で育てる意識を向上させたい。
- ・在日外国人の子どもや日本語の苦手なハーフの子の学習保障について、どう対策しているのか考える必要があると思う。宜野湾市教育委員会と学校現場の連携の必要性について。管理職だけでなく、教員の声を聞く場など。
- ・教員には、教員にしかできないことがあると思います。教材研究や生徒指導など。そういうことに専念したいです!

⑥施設・設備

- ・学校現場から出た要望を軽いフットワークで、学習環境の整備（施設の故障箇所の修繕）を！
- ・備品の修繕をしたいが、修繕費が少なく修繕できない（特に専門業者でないと直せない備品など）新しく備品を購入したくとも次年度にしか実施できないのは困る。（今現在の時点で使用したいのに）
- ・17時にはエアコン切れて仕事で熱中症になりそうです。職員室だけでもつけてほしいです。
- ・各クラスに一台電子黒板を設置して欲しい（質より量を重視して欲しい）
- ・学校の電話は、2回線は欲しいです。
- ・市が取り入れている「校務支援システム」は、非常に仕事をするうえで有効活用させて頂いております。
- ・1～2年生のクラスには、学年の電子黒板しかないので、1クラスに1台あると助かります。あと、給食のおかずやフルーツを増やしていただき、食育の心を育みたいのです。
- ・全学級に、電子黒板とデジタル教科書、指導書等を入れてほしい。（後期）
- ・年に1回業者が、教室のワックスとガラスふきをしてくれると、年度末の仕事軽減になる。
- ・もっとICT化を進め、効率的、効果的な教育活動へつなげられるようにしてほしい。
- ・予算を増やしてほしい。（授業で使う担任用ノートやファイルも自費購入している。）

⑦家庭教育

- ・児童生徒の学力・体力を高めるために最も重要なのは、心の安定である。今、問題行動や心理的ストレス行動で課題を抱える子のほとんどは、家庭に課題がある。しかし、課題のある家庭も、どうにかしたい、どうしてよいかわからないという悩みを抱えていると思う。現在も行っている市の家庭支援を継続するとともに、さらに踏み込んだ政策を取り入れてほしい。
- ・幼少期に家庭で温かく愛情深く育てられたかが多くの課題に関わっていると思う。（課題・・・基礎学力、生活習慣、健康面、精神面）中学校からでは遅い。対処に余計な時間がかかる。特別支援を要する生徒に気づき、保護者と密な相談と適切な対応ができれば、問題を大きくしないですむ。
- ・家庭の指導力が低下している。早婚、離婚、貧困が影響していると思います。子どもが子どもを産み育てる感じが多々あり、そしてまた早婚、離婚、貧困を繰り返す。そして税金はそんな家庭の支援に使われる。子どもを産み育てることの重要性を教えていかなければならない。税金は未来の宜野湾市のために使われなければならない。
- ・学校・家庭・地域の連携強化を目指したくとも、学校側・家庭側に、それだけのゆとりが無いように感じられます。教育活動の充実（学校・家庭どちらにおいても）を図るのであれば、それぞれの生活環境を改善することが近道かつ安全かと思えます。

⑧コロナ関連

- ・子ども達を大切に思うことを第1と考え、テストをやらないという選択もできたのではないかと思う。大事なことを見失っているように思う。
- ・コロナ感染防止のために、いろいろな所で指導しづらくなっていると思います。
- ・地域で決定できることに限りはあると思いますが、コロナ流行下ではできない教育課程の弾力的運用。（調理実習などは家でやってやったことにする、歌やリコーダーは宿題として評価だけ学校で行う等）。薬やワクチンが開発されるまで校内研修の中止。コロナ対策の仕事（検温や机ふき等の消毒）で時間をうばわれているので毎日の授業の質を下げないことが第1に考えるべきことだと思う。学力検査結果の考察は止めてほしい。例年より授業日数が不足（夏休み返上しても5週足りない）しているので正答率が低くなるのは当然で、誰の責任でもないと思われる。子どもたちは休み時間もとれないのに不満を口にする事なく頑張っています。また子どもたちも教員も夏休み返上に何も言いません。子どもたちにねぎらいも必要だと思えます。
- ・先の見えないコロナ対策に子どもたちも教員もつかれが見られます。（基地のクラスターなど）
- ・長期化（薬の開発まで）を念頭に業務のスリム化に図ってほしいと思います。
- ・新型コロナウイルス感染予防に関わる市の取組について
- ・休講中の教科書配布（家庭訪問）について・・・家庭調査票が手元にない中でのこのような指示は理解できない。
- ・1学期の成績処理について・・・短い1学期の中でも児童は、苦手な教科でも頑張って学習に取り組んでいる中で、それを評価しないということは、2学期からの学習意欲の低下につながりかねない。又、「今学期評価をしない教科は2学期と合わせる」という事を聞いたが、それであれば一学期に評価してもよいのではないか。
- ・夏季休業の期間について・・・今年度、夏休み（児童の夏休み）が短くなるのは理解できるが、その期間を8月下旬に持っていけなかったのか。2学期が長期間にすることで児童の疲労感が気になる。
- ・コロナ対策で特別日課、毎日の消毒作業、フリーなコミュニケーションの時間はありません。

(4) 生涯学習アンケート調査結果

1) あなた自身のことについてお伺いします。

①性別

		計	割合
1	男性	173	32.5%
2	女性	357	67.1%
3	答えたくない	2	0.4%
合計		532	100.0%

②年齢

		計	割合
1	10代	42	7.8%
2	20代	61	11.4%
3	30代	96	17.9%
4	40代	98	18.3%
5	50代	60	11.2%
6	60代	93	17.4%
7	70代以上	86	16.0%
合計		536	100.0%

③家族構成

		計	割合
1	一人暮らし	48	9.1%
2	配偶者と2人暮らし	102	19.3%
3	二世帯（配偶者と子ども）	207	39.2%
4	二世帯（配偶者と親世代）	83	15.8%
5	二世帯（子ども、配偶者なし）	34	6.4%
6	三世帯（子どもと親世代）	19	3.6%
7	三世帯（子どもと孫）	17	3.2%
8	三世帯（祖父母世代と親世代）	8	1.5%
9	四世帯	0	0.0%
10	その他	10	1.9%
合計		528	100.0%

④主な職業

		計	割合
1	自営・家族従業	38	7.3%
2	会社・商店・工場・官公庁の勤め	197	38.0%
3	パート・アルバイト	78	15.0%
4	学生	46	8.9%
5	家事専業	66	12.7%
6	無職（退職者を含む）	93	17.9%
7	その他	1	0.2%
合計		519	100.0%

⑤居住地区

	計	割合		計	割合		
1	野嵩1区	35	6.6%	13	大謝名区	37	7.0%
2	野嵩2区	25	4.7%	14	嘉数区	33	6.2%
3	野嵩3区	14	2.6%	15	真栄原区	19	3.6%
4	普天間1区	18	3.4%	16	我如古区	37	7.0%
5	普天間2区	6	1.1%	17	長田区	37	7.0%
6	普天間3区	16	3.0%	18	宜野湾区	41	7.7%
7	新城区	26	4.9%	19	愛知区	21	4.0%
8	喜友名区	22	4.2%	20	中原区	19	3.6%
9	伊佐区	18	3.4%	21	大謝名団地	13	2.5%
10	大山区	29	5.5%	22	嘉数ハイツ	8	1.5%
11	真志喜区	22	4.2%	23	上大謝名	13	2.5%
12	宇地泊区	20	3.8%	24	わからない	0	0.0%
合計					529	100.0%	

⑥あなたの余暇時間を教えてください（あてはまるものすべて）

		計	割合
1	平日の午前	80	5.5%
2	平日の午後	108	7.5%
3	平日の夜間	195	13.5%
4	土曜日の午前	116	8.0%
5	土曜日の午後	154	10.6%
6	土曜日の夜間	166	11.5%
7	日曜・祝日の午前	164	11.3%
8	日曜・祝日の午後	193	13.3%
9	日曜・祝日の夜間	179	12.4%
10	自由になる時間がほとんどない	65	4.5%
11	その他	28	1.9%
合計		1,448	100.0%

2) 生涯学習に対する考え方についてお伺いします。

①生涯学習という言葉を知っていますか。

		計	割合
1	知っている	424	79.4%
2	知らない	110	20.6%
合計		534	100.0%

②-1 生涯学習という言葉の意味をご確認のうえ、あなたにとって生涯学習が必要だと思いますか。

		計	割合
1	必要だと思う	463	88.4%
2	必要ではない	9	1.7%
3	わからない	52	9.9%
合計		524	100.0%

②-1で「①必要だと思う」と答えた方にお聞きします。

②-2 生涯学習はあなたにとって、何のために必要だと思いますか。（あてはまるもの全て）

		計	割合
1	健康・体力づくりのため	314	16.6%
2	生きがいや楽しみを得るため	375	19.8%
3	趣味を豊かにするため	226	12.0%
4	友人を得るため	155	8.2%
5	知識・教養を高めるため	275	14.5%
6	資格を取るため	63	3.3%
7	家庭・日常生活をよりよくするため	212	11.2%
8	高度な専門知識を身につけるため	47	2.5%
9	仕事や転職・就職に役立てるため	85	4.5%
10	地域活動に役立てるため	133	7.0%
11	特に目的はない	4	0.2%
12	その他	3	0.2%
合計		1,892	100.0%

（その他）

- ・社会的貢献
- ・病患がある為リハビリ
- ・自身の知見を広げるため

3) 生涯学習の状況についてお伺いします。

①-1 あなたはこの1年くらいの間に、何かを学んだり、習ったりしたことがありますか。

		計	割合
1	ある	294	58.4%
2	ない	209	41.6%
合計		503	100.0%

①-1で「①ある」と答えた方にお聞きします。

①-2 この1年くらいの間に、学んだり習ったりしたものはなんですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	120	18.9%
2	健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	124	19.5%
3	職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	104	16.4%
4	家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	57	8.9%
5	教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	64	10.1%
6	インターネットに関すること(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	30	4.7%
7	社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	43	6.8%
8	育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	32	5.0%
9	ボランティア活動のために必要な知識・技能	40	6.3%
10	自然体験や生活体験などの体験活動	14	2.2%
11	その他	8	1.2%
合計		636	100.0%

(その他)

- ・紅型やちぎり絵を趣味でやっています。
- ・手話ダンス、薬草(食べれる物、毒のある物)
- ・演技
- ・学生なので、学校で学ぶ事
- ・語学(中国語)
- ・パソコン教室に通った
- ・運転
- ・子育て

①-3 あなたは、この1年くらいの間にどのような方法で生涯学習をしたことがありますか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	中央公民館などの自治体の講座や教室	70	13.6%
2	カルチャーセンターなど民間の講座や教室	43	8.3%
3	学校(専修学校、大学など)の講座や教室	57	11.0%
4	自治会、子ども会、PTA活動など	62	12.0%
5	放送大学	4	0.8%
6	同好者が自主的に行っている集まり	65	12.6%
7	図書館、博物館	47	9.1%
8	ラジオやテレビの学習講座など	23	4.5%
9	インターネットを利用	97	18.8%
10	民間の通信教育	7	1.4%
11	その他	41	7.9%
合計		516	100.0%

(その他)

- ・自習
- ・仕事での研修
- ・婦人会
- ・参考書や専門書を本屋で購入
- ・部活
- ・民間のパソコン教室
- ・有料の健康ジム
- ・家で
- ・個人の教習場
- ・パート仲間と交流
- ・県かりゆしセンターにおいて
- ・老人センター
- ・琉球空手の組織の運営に携って
- ・市立体育館トレーニング室
- ・講演会、資格取得のセミナー
- ・官公庁の講習
- ・琉舞道場

①-4 あなたがこの1年くらいの間には生涯学習に取り組んだ目的はなんですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	健康・体力づくりのため	116	13.8%
2	生きがいや楽しみを得るため	147	17.4%
3	趣味を豊かにするため	110	13.0%
4	友人を得るため	49	5.8%
5	知識・教養を高めるため	136	16.1%
6	資格を取るため	42	5.0%
7	家庭・日常生活をよりよくするため	81	9.6%
8	高度な専門知識を身につけるため	40	4.7%
9	仕事や転職・就職に役立てるため	62	7.4%
10	地域活動に役立てるため	50	5.9%
11	特に目的はない	6	0.7%
12	その他	5	0.6%
合計		844	100.0%

(その他)

- ・子育てのヒント
- ・病気は自分で予防・治癒の方法を伝える為
- ・大学で単位をもらうため
- ・大学にうかるため
- ・自身の知見を広げるため

①-5 あなたは生涯学習で学んだことを日常生活に生かせていると感じていますか。

		計	割合
1	感じている	242	82.9%
2	感じていない	11	3.8%
3	わからない	39	13.3%
合計		292	100.0%

①-5で「①感じている」と回答した方へお伺いします。

①-6 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしていますか(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	指導者・講師として活動している(例:学習・スポーツ・文化活動などの指導)	26	4.9%
2	自分の人生を豊かにしている	151	28.4%
3	地域や社会での活動に生かしている(例:自治会や子ども会・ボランティア活動など)	72	13.6%
4	展示会、発表会等で披露、発表等を行っている	29	5.5%
5	自身の健康の維持・増進に生かしている	98	18.4%
6	仕事や就職の上で生かしている	67	12.6%
7	資格取得に役立てている	31	5.8%
8	地域の学校の教育活動支援等に生かしている	10	1.9%
9	家庭(子育て・子の教育を含む)・日常生活に生かしている	43	8.1%
10	その他	4	0.8%
合計		531	100.0%

(その他)

- ・知り合いに教えている
- ・仲間作り
- ・障がい者をみている
- ・他者との会話に生かしている(知識を持つことで深い話をする機会が増えた)

①-5で「②感じていない」と回答した方へお伺いします。

①-7 あなたは生涯学習で学んだことを日常生活に生かせていないと感じている理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

	計	割合
1 学んだことを生かす場や機会がない	6	35%
2 学んだことを生かす方法が分からない	5	29%
3 仕事が忙しくて生かす時間がない	2	12%
4 家事・育児・介護などが忙しくて生かす時間がない	1	6%
5 学んだことで満足している	3	18%
6 その他	0	0%
合計	17	100%

①-1 で【この1年くらいの間に、何かを学んだり、習ったりしたことが「②ない】】と回答した方へお伺いします。

②あなたが生涯学習を行わない理由を教えてください。(あてはまるもの全て)

	計	割合
1 仕事などが忙しく、時間に余裕がない	107	24.0%
2 家事・育児・介護などが忙しく、時間がない	98	22.0%
3 学習の内容や時間帯が希望に合わない	38	8.5%
4 学習場所が身近にない	24	5.4%
5 自分の興味がある活動が少ない	32	7.2%
6 費用がかかる	45	10.1%
7 生涯学習に関する情報(内容・時間・場所・費用など)が少ない	54	12.1%
8 一緒に学習や活動をする仲間がいない	18	4.0%
9 学習する必要性を特に感じなかったから	23	5.1%
10 その他	7	1.6%
合計	446	100.0%

(その他)

- ・病気治療・通院
- ・仕事の休みが不定日なので習ったり学びたくても月・日と時間が合わないことが多い
- ・チャンス(機会)の問題
- ・高齢になり地域での活動が難しくなった。しかし、家に居て、テレビ、ラジオ、インターネット、読書等自分なりの生涯学習ととらえ時間をつくっている。
- ・心身の体調がよくないのでそのような気持ちになれない
- ・余暇時間、自分の趣味や、友人とのつながりで予定が埋まっている。

4) 今後の意向についてお伺いします。

①-1 今後、新たに生涯学習を行う予定はありますか。

	計	割合
1 今後新たに始める予定である	82	16.5%
2 機会や条件が整えば新たに始めたい	333	67.2%
3 生涯学習を始める予定はない	74	14.9%
4 その他	7	1.4%
合計	496	100.0%

(その他)

- ・グランドゴルフ、ラジオ体操継続したい
- ・日頃の活動が生涯学習
- ・わからない
- ・今実施しており、今後も継続する
- ・やりたくても出来ない

①-1で「①今後新たに始める予定である」、「②機会や条件が整えば新たに始めたい」と回答した方へお伺いします。

①-2 今後新たに生涯学習を行いたいと考えている理由について教えてください。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	健康・体力づくりのため	232	15.4%
2	生きがいや楽しみを得るため	276	18.3%
3	趣味を豊かにするため	201	13.4%
4	友人を得るため	98	6.5%
5	知識・教養を高めるため	218	14.5%
6	資格を取るため	83	5.5%
7	家庭・日常生活をよりよくするため	153	10.2%
8	高度な専門知識を身につけるため	55	3.7%
9	仕事や転職・就職に役立てるため	95	6.3%
10	地域活動に役立てるため	89	5.9%
11	特に目的はない	1	0.1%
12	その他	3	0.2%
合計		1,504	100.0%

(その他)

- ・社会的貢献
- ・知見を広げるため

①-3 今後新たに生涯学習を行う場合、どのような生涯学習がしたいですか。

		計	割合
1	趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	212	16.8%
2	健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	233	18.5%
3	職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	158	12.5%
4	家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	148	11.8%
5	教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	121	9.6%
6	インターネットに関すること(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	120	9.5%
7	社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	58	4.6%
8	育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	73	5.8%
9	ボランティア活動のために必要な知識・技能	76	6.0%
10	自然体験や生活体験などの体験活動	59	4.7%
11	その他	3	0.2%
合計		1,261	100.0%

(その他)

- ・ファイナンシャルプランナーFP
- ・介護
- ・写真

①-4 どのような方法であれば新たに生涯学習を学びたいと思いますか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	中央公民館などの自治体の講座や教室	213	20.7%
2	カルチャーセンターなど民間の講座や教室	144	14.0%
3	学校(専修学校、大学など)の講座や教室	103	10.0%
4	自治会、子ども会、PTA活動など	95	9.2%
5	放送大学	16	1.5%
6	同好者が自主的に行っている集まり	100	9.7%
7	図書館、博物館	107	10.4%
8	ラジオやテレビの学習講座など	43	4.2%
9	インターネットを利用	174	16.9%
10	民間の通信教育	29	2.8%
11	その他	6	0.6%
合計		1,030	100.0%

(その他)

- ・通信制大学院で学ぶ
- ・興味があるもの
- ・学習室
- ・ジムなど
- ・本
- ・オンラインなどで時間と場所が限られないと学びやすい

①-5 もしあなたが今後新たに生涯学習をする場合、学習が可能な時間帯について教えてください。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	平日の午前	78	8.6%
2	平日の午後	77	8.4%
3	平日の夜間	140	15.3%
4	土曜日の午前	97	10.6%
5	土曜日の午後	110	12.1%
6	土曜日の夜間	103	11.3%
7	日曜・祝日の午前	84	9.2%
8	日曜・祝日の午後	94	10.3%
9	日曜・祝日の夜間	92	10.1%
10	自由になる時間がほとんどない	20	2.2%
11	その他	17	1.9%
合計		912	100.0%

(その他)

- ・仕事がシフト勤務なので休みの日
- ・いつでも良い
- ・不定期
- ・殆んどが昼間(9H~17H位まで)の時間帯で行けなかった。
- ・受講曜日も決まっているため毎週決まった曜日を休むことが出来なかった。
- ・午前9時前(5~8)夜間22時以降
- ・タイミングによる
- ・一定時間はとれないが行きたい気持ちはある
- ・今は自由な時間がほとんど無い
- ・平日早朝

①-6 どのような方法で生涯学習に関する情報を得たいですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	市広報誌(市報「ぎのわん」など市からのお知らせ)	310	29.4%
2	新聞・雑誌・フリーペーパー	160	15.2%
3	インターネット	241	22.8%
4	職場や団体の広報誌	46	4.4%
5	知人・友人・同僚・家族からの口コミ	106	10.0%
6	テレビ・ラジオ	76	7.2%
7	公民館などの公共施設での広報や相談	106	10.0%
8	その他	10	1.0%
合計		1,055	100.0%

(その他)

- ・スーパーなど普段立ち寄る場所へのポスター・チラシ貼付
- ・図書館、信用に足る論文や書物
- ・Facebook、LINE を見るのでタイムライン
- ・放送大学

5) 生涯学習施設・関連イベントへの参加についてお伺いします。

宜野湾市民図書館や移動図書館ちゅらゆめ号について

①-1 あなたはこの1年くらいの間に宜野湾市民図書館や移動図書館ちゅらゆめ号を利用したことがありますか。

		計	割合
1	はい	165	31.0%
2	いいえ	368	69.0%
合計		533	100.0%

①-1で「①はい」と回答した方へお伺いします。

①-2 あなたはこの1年くらいの間にどのような目的で宜野湾市民図書館や移動図書館ちゅらゆめ号を利用しましたか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	本やCD等を借りるため	124	47.9%
2	本や新聞を読むため	61	23.6%
3	インターネットを閲覧するため	3	1.2%
4	調べものをするため	38	14.6%
5	勉強や仕事をするため	23	8.9%
6	講座や読み聞かせイベント等に参加するため	6	2.3%
7	その他	4	1.5%
合計		259	100.0%

(その他)

- ・子どもの宿題の材料収集
- ・仕事の都合
- ・子どもの付きそい

①-1で「②いいえ」と回答した方へお伺いします。

①-3 あなたがこの1年くらいの間に宜野湾市民図書館や移動図書館ちゅらゆめ号を利用しなかった理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	利用する時間がないから	150	22.7%
2	宜野湾市民図書館までの交通が不便・自宅から遠いから	93	14.1%
3	開館日・開館時間が自分の都合に合わないから	60	9.1%
4	移動図書館ちゅらゆめ号が近くにこないから	23	3.5%
5	移動図書館ちゅらゆめ号の時間があわないから	28	4.2%
6	宜野湾市民図書館の場所がわからないから	8	1.2%
7	移動図書館ちゅらゆめ号の巡回場所がわからないから	46	7.0%
8	利用の仕方がわからないから	30	4.4%
9	本を返すのが面倒だから	47	7.1%
10	本や雑誌はあまり読まないから	38	5.7%
11	本や雑誌は自分で買うようにしているから	60	9.1%
12	読みたい本や雑誌が図書館にはないから	9	1.4%
13	特に興味がないから	48	7.3%
14	その他	21	3.2%
合計		661	100.0%

(その他)

- ・駐車場(数、距離)問題
- ・友達からかりて読むことにしている
- ・ちゅらゆめ号のことは知らなかった
- ・弱視になったため
- ・本を探すのに大変でした
- ・電子書籍利用
- ・英語版があるのか等、情報がない為
- ・図書館があまり居心地の良い居場所でない
- ・仕事で忙しく心のゆとりなし
- ・利用する機会がない
- ・学校の図書館を利用
- ・借りても読む時間がとれない
- ・調べ物はインターネットで大体解決してしまう
- ・子どもの絵本は定期で届くから

② どういうサービスがあれば、より宜野湾市民図書館や移動図書館ちゅらゆめ号を利用したいと思いますか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	調べものをするための本や雑誌の充実	228	24.0%
2	勉強や仕事に集中できるスペース	165	17.3%
3	魅力的な講座やイベントの開催	195	20.5%
4	赤ちゃんタイムなどの拡充	47	4.9%
5	インターネットを活用して調べものをするためのサービスの充実	115	12.1%
6	ステーション(移動図書館の巡回場所)の増設	60	6.3%
7	ステーション等への返却ポストの設置	102	10.7%
8	その他	40	4.2%
合計		952	100.0%

(その他)

- ・開館時間の延長、交代制勤務等で火曜日も開館
- ・資料系の本が充実しているなら利用してみたい。
- ・デイサービスの近くに月1~2回でも移動図書館が巡回してもらったらいいと思う。高齢者でも読める大きな文字や宜野湾市の写真集など、ビデオもあれば喜ぶと思う。
- ・利用時間の拡大。スペースの拡大
- ・飲食ができる。工作・調理ができる設備や器具の貸し出し
- ・専門資料（論文や過去の新聞記事等）へアクセス可能なネット環境の整備、cafe 併設
- ・図書館のウラ側を見たい。どのようにして、いつも借りている本が”借せる状態”になったのか、その方法と経緯や、保存の仕方などが知りたい。
- ・個別配達・回収
- ・もっと長い時間図書館で勉強したい。
- ・Wi-Fi
- ・座る場所に寝ている人が多く近くに座れなかつたりする。
- ・カフェのような雰囲気の居心地にしては
- ・規模が小さくてもよいので、本が読める、借りられる、学習コーナーがある、気軽に行ける図書館が利用しやすい場所に増えて欲しい
- ・心よいBGMがあると良い。
- ・返却場所の増設(郵便局やATM、コンビニ)
- ・高校にも来るようにする
- ・電子書籍 出向かなくても借りられて、返却出来るシステム構築希望
- ・図書館で開催されるイベントは、これからの子育て世代にとって重要だと思う。図書館を身近に感じてもらえて、利用に繋げることができる！乳児検診でやっている絵本プレゼントはとてもいいと思う！あの企画をきっかけに図書館を知ることができる。今後はあの企画にプラスして、郵送でカードが作成できるようにすれば、もう少し踏み込んで利用を促進する事が出来るのではないかな

宜野湾市立博物館について

③-1 あなたはこの1年くらいの間に宜野湾市立博物館を利用したことがありますか。

		計	割合
1	はい	117	22.0%
2	いいえ	415	78.0%
合計		532	100.0%

③-1で「①はい」と回答した方へお伺いします。

③-2 あなたがこの1年くらいの間にどのような目的で宜野湾市立博物館を利用しましたか。

(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	郷土学習のため(宜野湾市史等)	52	28.1%
2	見聞を広げるため(地域のことを知るため)	42	22.7%
3	子どもの教育のため	37	20.0%
4	企画展等に参加	35	18.9%
5	市民講座を受講	8	4.3%
6	その他	11	6.0%
合計		185	100.0%

(その他)

- ・学校の宿題
- ・マンモスの骨 この企画 good!
- ・医学関係
- ・自治会の研修
- ・子どもの絵の展示があった
- ・自習
- ・楽しそうだから

③-1で「②いいえ」と回答した方へお伺いします。

③-3 あなたがこの1年くらいの間に宜野湾市立博物館を利用しなかった理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	利用する時間がないから	131	21.4%
2	宜野湾市立博物館までの交通が不便・自宅が遠いから	64	10.4%
3	開館日・開館時間が自分の都合に合わないから	47	7.7%
4	宜野湾市立博物館の場所がわからないから	38	6.2%
5	希望に合う企画展等がないから	81	13.2%
6	宜野湾市立博物館で何ができるのかよくわからないから	122	19.9%
7	特に興味がないから	107	17.5%
8	その他	23	3.7%
合計		613	100.0%

(その他)

- ・ どのような企画展をやっているのか分からないため。
- ・ 特に必要性がなかったから
- ・ 交通不便だし、博物館の催しはあまり知らない。
- ・ 企画展などに行こうと思うが、つい行きそびれる
- ・ 郷土歴史は大切だと思いますが、“地味”で魅力の薄い印象が強すぎる。
- ・ 興味はあるが、たまたま行きたい企画がなかった為、きっかけがあれば行きたい。
- ・ 何があるかわからない。市報で紹介してほしい。エリアごとでもいい。
- ・ 大体知っているから、常設展は見たことある
- ・ 行きたいが、一緒に行く人に楽しさが伝えられない

④あなたが、宜野湾市立博物館に望むことは何ですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	常設展示の充実	159	14.9%
2	講座や企画展の充実	201	18.8%
3	子ども向け教室の充実	170	15.9%
4	図書室機能の充実	74	6.9%
5	市史など刊行物の充実	51	4.8%
6	物品の販売(ミュージアムショップ)	82	7.7%
7	広報・周知をもっと広げる	173	16.2%
8	施設(部屋)の借用	53	5.0%
9	インターネットを活用して調べものをするためのサービスの充実	67	6.3%
10	その他	38	3.5%
合計		1,068	100.0%

(その他)

- ・ 立地の再検討。何より交通の利便性(マイカーではなく公共バスの)が大事
- ・ 市役所の分所役割を復活させてほしい。
- ・ いろいろな年齢に合わせた、興味をひく説明する人が居た方が良い。受付のフロアは、もっと気楽に休憩できる様にして少し休んで又ゆっくり見学出来る様にしたいと思う。庭園を少し休める様にしたらもっと利用できるのでは。
- ・ 身近に感じない。興味がない
- ・ 自由に入場出来る雰囲気
- ・ 多くの人(子ども~若者含)へ興味関心を抱いてもらえるような、視点を変えた方向からの郷土歴史へのアプローチの仕方を!!
- ・ 宜野湾市の戦跡地について、市民が分かりやすい方法でまとめた冊子がほしい。
- ・ 定期的刊行物「ぎのわん」等で現在の内容紹介など毎号、行きたくなるような企画の紹介などを取り上げて欲しい。
- ・ 今までに得た知識情報の発進(発表)場所の提供
- ・ 火曜日が休館日となっているが、年に1~2回は企画展の際に見学させたい。休館日を企画展のその時だけ振替していただくと活用しやすい
- ・ 「山田真山」のことについて知りたい。
- ・ 今のところはない。利用する時間がないから
- ・ 今後気になるイベント等あれば足を運ぶ。
- ・ 今昔の写真、アニメなどで昔の宜野湾再現
- ・ 地域コミュニティとしての場提供
- ・ プラネタリウム等の施設
- ・ 30~40代向けの講座などもあるといい
- ・ コンセプトのあるイベント等(小さい博物館なのでニッチなテーマを取り上げ、特色を出しては)
- ・ 住民票などの発行する機械をまた設置してほしい。
- ・ 何をやっているのか告知をもっと広げて欲しい
- ・ 勉強スペース

宜野湾市立中央公民館について

⑤-1 あなたはこの1年くらいの間に宜野湾市立中央公民館を利用したことはありますか。

		計	割合
1	はい	100	19.0%
2	いいえ	426	81.0%
合計		526	100.0%

⑤-1で「①はい」と回答した方へお伺いします。

⑤-2 あなたはこの1年くらいの間にどのような目的で宜野湾市立中央公民館を利用しましたか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	宜野湾市立中央公民館講座を受講した	16	14.4%
2	サークル活動	25	22.5%
3	宜野湾市立中央公民館内にある図書室の利用	25	22.5%
4	ボランティア等	16	14.4%
5	その他	29	26.2%
合計		111	100.0%

(その他)

- ・ 定例会、年間行事への参加、生涯学習フェスティバルへの参加
- ・ イベント
- ・ 孫の発表会
- ・ 医学書
- ・ 講習会
- ・ 宜野湾市民の日
- ・ 文化協会の作品展
- ・ 文化財「イガルー・シマ文化財教室 野嵩」
- ・ 婦人会 70周年式典
- ・ 会合など
- ・ 保育園の学芸会
- ・ 個人主催のパン教室に参加
- ・ 子どものおゆうぎ会
- ・ 成人式

⑤-1で「②いいえ」と回答した方へお伺いします。

⑤-3 あなたがこの1年くらいの間に宜野湾市立中央公民館を利用しなかった理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	利用する時間がないから	137	21.4%
2	宜野湾市立公民館までの交通が不便・自宅が遠いから	42	6.6%
3	宜野湾市立公民館の場所がわからないから	52	8.1%
4	開館日・開館時間が自分の都合に合わないから	40	6.2%
5	宜野湾市立公民館で何ができるかよくわからないから	170	26.5%
6	希望に合う講座・サークル等がないから	80	12.5%
7	特に興味がないから	108	16.8%
8	その他	12	1.9%
合計		641	100.0%

(その他)

- ・ 必要性がなかったから
- ・ 毎年利用しようと思っているのですが気づいた時には募集が終了。申し込んでも人数が多く抽選で落ちたり。
- ・ 宜野湾市立中央公民館があることを知らなかった。
- ・ 利用するのに制限が多すぎる。もっと自由に市民に開放すべき
- ・ 車がとめにくい
- ・ 利用する機会がない
- ・ 参加したいサークルが人数に達してないため、中央公民館で活動できなくなった為
- ・ どこにあるかわからない
- ・ 体調不良のため

⑥あなたが、宜野湾市立中央公民館に望むことは何ですか。ご自由にご記入ください。

○交通

- ・アクセスが不便なので、外部との調節が必要です。
- ・駐車スペースが、少ない。
- ・中央公民館でなく、各自治会にも講座やサークル等があれば良い。高齢者には不便。
- ・市のバスがあったら行きたいと思います。

○講座・サークル・催し

- ・短期間でも広く多くの方が受講できるよう配慮をお願いします。
- ・子ども主体となるような、体験学習をたくさんやってほしいです。学校ではなかなかできない体験を増やしてほしい。何かを作る！（工作・科学等）ではなく、子どもが考える、話し合う、解く等のSDGs活動等をして子ども達の目を世界に広げてほしい。
- ・市民の声を回収し、講座やサークル活動の拡大をしてほしい。
- ・受講できる年齢制限の緩和をしてほしい。
- ・30、40代の好むようなサークルを始めてほしい。サルサやジャザサイズなど。
- ・健康に関する事、例えば体操、コーラス等が充実していたら良いなあと思います。
- ・仕事に関連する電子、電気の専用の先生の講座があったらなあと思います。
- ・多忙のため、サークルを責任もって、続けることができなかつたため自然にひとりひとりやめていて、サークル活動ができなくなりました。
- ・子ども同士が交流し学ぶことができるクラブ活動の設置
- ・サークル活動会（者）の方たちの公共福祉へのボランティア（例えば介護施設への慰問等）
- ・園芸や盆栽等のサークルがほしい。
- ・季節感のある様な講座があればやってみたいと思う。
- ・沖縄の歴史を勉強したい
- ・出張講座なども取り入れ、公民館から遠い場所の人や高齢者にももっと利用しやすくなると良い。
- ・希望講座に受講できない方の受皿を増やしてほしい。
- ・インターネット関連の学習会（高齢者向け）
- ・老後を元気に過ごしていくための講座を開催してほしい。（認知防止・老後資金・体力作り）
- ・市民向けの健康や食べ物・水の問題（安全性の確認基地との関わり等）講演会や講座をしてほしい。
- ・政治に関する基礎を教える（基本的なこと等）
- ・無料または少額で利用できるサークル
- ・ストレス発散、癒し、マインドフルネス、アロマなどの講座
- ・子どもむけの映画を上映して欲しい。
- ・子どもや老人達の居場所・若い方々の活動の場づくり、公民館で人を集める、フリマ
- ・地域が活性化する活動をすること
- ・大人、老人の方々の為に劇や芝居。あったら良いと思う。
- ・幅広い年齢の人たちと関わる場所として、沖縄の伝統文化である三線や舞踊とかボランティア活動とかを定期的で開催してほしい。他より魅力的になるように、若い人を増やして、若者を中心となるようにしたほうがいい。学生とのコラボをもっと大胆にしてほしい。
- ・クラフト Fair（南城市のような）とか物産市（宜野湾市で作られている）、音楽 Fes（高校生・大学生・一般）など若者も興味関心を抱き集まるような何か。
- ・公民館主体の健康づくり教室、ギネス記録に挑戦、昔のあそびなどの経験を通して子どもとお年寄りの交流、映画鑑賞会、市民運動会、昔のごはんを作ってみる、学童、お悩み相談会、市内の清掃、生活に役立つ講座、犬・猫の譲渡会、家庭の不要なものを集めて譲渡したりするリサイクル会など。
- ・オーケストラが見たいです
- ・三線においても古典音楽はよくステージでみるが、民謡の発表も取り入れて欲しい。
- ・子どもに勉強・交流を教える、子どもに同意の取り方、本の読み方を教える
- ・サークルを立ち上げるとき人数について定められていることがあるようですがその人数について知りたいです。公民館主事による学習相談（サークルの立ち上げ方など！）
- ・子どもと親と一緒に楽しめる講座（リトミック、料理教室、夏休み工作講座など）
- ・年齢（子）に合わせた読み聞かせだと身軽に参加でき楽しめるかと思います。
- ・家族みんなで、又は、子どもが利用しやすいイベントや講習等をたくさん企画して欲しい。（アンケートをとるなどして）
- ・様々な能力のある人とのマッチング。

○広報

- ・「小学生向け、幼児、乳幼児向け」等限定して声かけして頂けたら参加しやすいのかなぁーと思いました。
- ・公民館で何をしているのか、何ができるのか分からないから行ってみようと思ったことがないですが、今後にかしらのニュースや広告などで自分が興味のあることをしていると知れば時間を作って利用しに行くと思います。
- ・市の広報紙に「中央公民館」の活動状況やサークルなどについて随時のせていただくと利用しやすいです。
- ・FB等に中央公民館で行った行事やサークルについての発表を載せる
- ・LINEで行なっているサークルやイベントを教えて欲しいです。

○施設

- ・子ども達が快適に過ごせる環境を維持する。
- ・調理実習室との間のロビーですが、小規模で良いので、小中学校児童生徒の作品や一般市民の作品等、2週間～3週間単位で、展示の復活を望みます。(市役所本庁舎ロビー以外も検討願います) 絵画、写真、書写、○×△□をテーマにした工作物等
- ・具体的には挙げられないが、せっかくスペースがあるので、学校帰りの子ども、仕事帰りの大人、市民が思わず立ち寄りたくなる交流の場になればと。
- ・自習室の開放時間を延ばして欲しい。
- ・みんなで楽しめるイベント(お祭りとか)、オープンな環境、利用時間の拡大。
- ・子ども達、小学生や保育園などの市内にある子達の発表会をたくさんあっても良いと思う
- ・図書室をよく利用しています。NHKの今日の料理ビギナーズやソーイングの雑誌を置いてほしいです。
- ・資料を使用して勉強をするスペースを広くしてほしい。
- ・趣味でハンドメイドを行っているため本を多くしてほしい。
- ・借りる費用や利用するのに色々の制約が多すぎて手続きが複雑である。もっと自由に市民開放すべきだと思う。
- ・新しいものを取り入れていくコミュニティスペース
- ・静かで落ち着ける感もあるが、人気がなく暗いイメージ。コンパクトでも明るく使いやすい場所であってほしい。
- ・誰でも自由に利用できる学習スペース(ジューブカフェ、沖縄県立図書館みたいな場所)をもっと増やしてほしい。
- ・時間の件、図書室の時間延長を望む。せめて18:00までとなればゆとりをもって調べ物ができる
- ・飲食を提供するカフェコーナーの設置、Wi-Fi環境
- ・雨の日に子どもと遊べるスペース
- ・子ども達をもっと身近になるような場所・気軽に集い仲間づくりが行える場所作り
- ・トイレを綺麗にして欲しい、オムツ替えコーナー
- ・少人数で使用できるお部屋の貸し出し
- ・せっかくあんなに立派な施設があるので、常に市民が出入りできるような親しみのもてる場所にして欲しい。

⑦あなたは宜野湾市が開催する生涯学習フェスティバルに参加したことがありますか。また「参加したことがある」場合は感じたこと、「参加したことがない」場合はその理由を教えてください。

■参加の経験について

		計	割合
1	参加したことがある	161	31.2%
2	参加したことがない	355	68.8%
合計		516	100.0%

⑧「①参加したことがある」と回答した方へお伺いします。

生涯学習フェスティバルに参加して生涯学習フェスティバルに対して感じたことを教えてください。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	地域の文化祭のようで良かった	106	25.8%
2	様々な体験ができて良かった	71	17.3%
3	自分や家族、友人の発表が見られるので良かった	80	19.5%
4	興味のある講話が聞けて良かった	23	5.6%
5	様々なスポーツの技術的なことを紹介して欲しい	12	2.9%
6	就職や仕事に生きる知識や技術を紹介して欲しい	12	2.9%
7	宜野湾市の歴史・文化を紹介して欲しい	33	8.0%
8	地域活動へ参加する人材を育成するようなプログラムを紹介して欲しい	32	7.8%
9	生涯学習に関する情報を共有する機能が必要	22	5.4%
10	大学等や専門学校、企業と連携した生涯学習のプログラムが必要	15	3.6%
11	その他	5	1.2%
合計		411	100.0%

(その他)

- ・青少協メンバーとして、市民会館屋外テントでキャップ太鼓、PP トンボを子ども達を作る手伝いをしていて、手作り玩具を通じた遊びにふれあう事は、良いと思う。また、市子連の綿菓子作りも行列をつくるくらい盛況で良かった。植物を利用した工作も目をみはるものがあった。
- ・フェスティバルが中央公民館講座利用者や家族だけの様な感じがした。もっと地域の人が来られるような、フェスティバルにして欲しい。毎年、同じ様な感じがする。
- ・豊の部屋なども活用して、赤ちゃん～幼児向けのイベントもあるともっと良い。食事は、他にも参加企業を募れば充実するのではないか。幼児～子ども～中高生と、どの世代も楽しめる講座や体験などがあればもっと参加者は増えると考ええる。市民広場も同時活用したら良い。
- ・子どもも楽しめたようで良かった

⑨「②参加したことがない」と回答した方へお伺いします。

生涯学習フェスティバルに参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

		計	割合
1	参加する時間がないため	118	26.2%
2	生涯学習フェスティバルのプログラムに興味がないため	23	5.1%
3	生涯学習に興味がないため	4	0.9%
4	生涯学習フェスティバル自体を知らなかったため	173	38.4%
5	会場が遠いため	17	3.8%
6	駐車場や施設が混雑するため	25	5.5%
7	特に興味がないため	71	15.7%
8	その他	20	4.4%
	合計	451	100.0%

(その他)

- ・内容がよく分からないため。
- ・フェスティバルがあることを知らなかった
- ・毎年同じようなイベントが多い気がします。
- ・内容を事前に知る機会が無い(少ない)
- ・開催時期の告知を見ることがなかったため
- ・行こうという気持ちはあるが、つい忘れてしまう
- ・参加する機会がなかった
- ・知り合いもあまりいないので、自分1人(家族)でいく勇気がない
- ・参加予定だったが、急遽いけなくなった
- ・日時がわからなかった
- ・車がないので遠いところと行けない
- ・興味はあったがタイミングが合わなかった。

6) 今後の取り組みについてお伺いします。

- ①生涯学習を通じて身に着けた知識・技術を地域活動に活用していくために望むことは何ですか。ご自由にご記入ください。

○活用の場

- ・英語を学んでいますが、外国人の方と交流する機会が無いので交流できる場があれば語学もアップしますし、もっと学びたい気になります。
- ・スキルを身につけても、生かせる活動がない。もしくは、時間が合わない。
- ・市営のサークルやクラブ活動など開いて交流の場を用意できると面白いかもしれない。琉大や沖国の教員にも協力依頼できると充実すると思われる。
- ・地元が魅力的に感じるような活動、地域の人々とのつながりができる場
- ・生涯学習の入口だけではなく、例えば就労支援や得な知識・技術を活かせるような場といった出口とも結びつけて欲しい。
- ・その知識などを交換したり、披露できるイベントや掲示板。
- ・活動できる場所をふやす。つながりをもてる場にして欲しい。
- ・様々なボランティア活動（読み聞かせ、病院ボランティア、ビーチクリアップ、スポーツイベントボランティアなど）の企画・運営
- ・各公民館のミニデイサービス等に年に数回でもフラダンスや舞踊や三味線、書道、絵画など出張ボランティアしてはどうかと思う。
- ・自治会の公民館など住民に身近な施設の活用して小規模でも良いから学んだ技術や知識が地域の人々と共有できるようなミニ研修会、講座、フェスティバルなど継続的に地域の自治体主体でも実施できるように行政がバックアップして（経費、予算、生涯学習で学んだ人を講師に）企画してやったら良いと思う。
- ・地域活動に活用するには、開催場所が手軽に借用できる事。
- ・自治会に加え、地域のサポーターの活性化
- ・自分自身の生きがいづくりが地域の活動と連動すれば、充実感と地域コミュニケーション共に得られると思う。
- ・身に着けた知識・技術や経験を地域活動に活用したいと考える人を増やすための活動が必要。生涯学習の延長に地域活動があるという認識であればそこまで宣伝や啓蒙が必要だと思う。
- ・小中学校との連携。ミシンや舞踊、三味線など、学校が講師として必要としている人材は誰なのか、またいつ必要なのかを、あらかじめ年度当初に把握しておけば、地域活動が活発になると思う。

○生涯学習について

- ・地域の全ての方々の知識、技術の向上。学ぶ意識の向上。
- ・自治会を通して、”地域の子どもは地域で育てる”ことを意識した活動ができればいいですね。
- ・教える側としてのボランティア活動の募集などを広めてみてはいかがでしょうか。
- ・自治会に加入しないと自治会の活動に参加できない。自治会費が負担で加入しないという意見も。
- ・もっと生涯学習の種類を増やしたり深く学習すれば地域活動にもっと活用していけると思う。
- ・生涯学習に取り組むハードルを下げるのが大切かもしれません。テレビ、ラジオ、紙媒体で始められたらいいかもしれません（若者ならスマホとか）。また、生涯学習を地域に還元するには、まずはより多くの人に参加してもらうことと、還元できる内容にすること、このように還元してほしい、活用してほしい！という具体案をそのまま伝えるのではなく、その方向へ持っていくような講座のしめ方（終え方？）をしてほしい。例：ぜひ今日学んだことを〇〇区の活動に生かしてほしい！とか、アウトプットさせたりとか。
- ・資格を取得し職場で活かしたい。
- ・市民創作劇で各地域が一致団結をして、劇の成功をなし遂げたことをもう一度、市民劇再現の映像を見せてもらいたい。13自治会創作劇の映写会を見たい。
- ・地域の人がつながりがもてるような気軽に参加できるイベントや場所が充実することで生涯学習を通して身に着けた知識・技術や経験を地域活動に活用がいかされると思う。興味はあるが、魅力を感じる内容が少ない。オープンな感じがしないため、参加しにくい。子どもも一緒にできる内容だと参加しやすい。
- ・宜野湾市に人材バンクがあったらと思うので最近聞かなくなった人材バンクの活用をお願いしたい。
- ・地域に独居のご老人など多いと思うのですが、育休中の1年や半年の間で地域のためにできることとかあればいいなと思います。（仕事が始まるので、長期間の民生員などは難しく、もう少し気楽に地域のためにできる形のかあればいいなと思う）
- ・地域活動に活用するためには、若い人、女性、障がいのある人など、マイノリティ（社会的弱者）に発言する場をもうける必要がある。成人した男性というマジョリティだけの視点からは、問題など無いように見える。色々な意見を取り上げないと、地域活動（という時間のある人がやること）はあまり進まないと思う。
- ・身につけた知識・技術を地域でリーダー的役割で広めることができたらいいですね。特に小中学生たちにも興味をもってもらえる工夫などして子どもたちの情操教育になるものを提供できたらいいですね。あと引きこもりの方々に情報提供できたらと思います。
- ・「続くこと」の公的サービス
- ・1人でも参加しやすい雰囲気づくり

- ・複数回の講座ではなく、体験回のように気軽に参加できる単発の講座
- ・リアル対面での活動も大事だが、オンラインでできるようになれば、たくさんの方が気軽に生涯学習にのぞめるようになる
- ・講座資格になるような、継続して活用できる内容
- ・宜野湾市内には色々な知識・技術、経験・才能（仕事、趣味や音楽、写真、芸術、遊び、生活や福祉、収集品、等）を持っている方が居住されていることと思います。その方たちを発掘すること、講師として協力してくれる方の人材データを作成し、講師としての協力体制を強化していくことが大事だと思います。
- ・個人の趣味は多種多様ですので、同じ趣味の人たちをつなげることができれば、地域活動につながるといいますので、つなげることを望みます。

○広報

- ・現在のあり方を広く市全体へアピールしていく事と浸透し活性化させていくこと。
- ・はごろも祭り等でのブース開設等、気軽に参加できる手立てと工夫。
- ・健やかな町作りを SNS などで発信
- ・地域の自治会の活動が全く感じられないので、未だに加入に至ってない。小さい子どもも居るので、大変興味はあるが、近所で声かけも活動も触れられたことが無いので一歩踏み出せない。その窓口となる（地域）のあり方（周知）と受皿づくりがなければ活用はとぼしくなると考える。
- ・地域でどのような活動をしているか等、情報をもっと広げてほしい。
- ・せっかく地域参加型で活動していても、活動している事が知られていなかったら本当に意味がないから、もっともっと PR してほしい。
- ・本土からの情報をもっと欲しい。現状、情報が遅いような気がするので...
- ・中央公民館などで行った講座の様子などをチラシなど自治会などに配布してもらったら、自治会講座などでもやってみたいなど思うのでは。
- ・生涯学習フェスティバルなどが開催されていることを知らなかったの、もっと多くの人が知れる様に情報を拡散してほしい。
- ・地域活動が出来る場所の情報公開
- ・生涯学習を受講する一連の流れがわかる情報発信の仕方等、市民が漏れなく知り得る環境作りをお願いします。

○施設・施策について

- ・企業による会社の説明、作品の出版
- ・市立中央公民館や老人センター等、車を使用しないと行けない場所ではなく、歩いて行ける場所（地域の公民館等）を使った習い事が、もっと充実したら良いと思います。
- ・地域には色々な技術を持ちかつボランティア活動で力を発揮している方が多いのでその方々を見習い、友人を誘い、活動して行きたいので、今は、車を運転して活動できますが、将来は市内線を充実させるとか方法を考えて欲しいです。
- ・予約なしですぐ参加できるシステム
- ・防疫、防災、防犯等に特化した講座

その他、ご意見・ご提案等

○生涯学習

- ・真栄原に語学センターを作ってほしい。
- ・文化的な意欲を向上させることは、地域全体の発展につながるといいます。その為にも、休館日をなくすこと、利用時間をのばすことで、より利用しやすい施設になるように願います。
- ・年齢別でターゲットをしばった生涯学習を企画してみてもどうか!!
- ・ネットを活用して多くの人が参加できる講座やイベント等も企画してみてもどうか!!
- ・現在、母の介護をしている。介護をレクチャー講座とかあれば参加したい。20代~30代子育て住宅ローンやアドバイス、大学までの貯蓄アドバイス、40代~50代親を介護する時期にそなえて学ぶ事、介護手当給付金の流れ等
- ・生涯学習の場の広がり、老人ホームや各自治体（公民館）との連携・保育園、幼稚園とのつながり
- ・生涯学習フェスティバルは、一年の活動の成果を美（見）せる場として、サークル活動紹介の位置付け。市内の小学生、中学生、高校生によるクイズ又はゲームの対抗戦、対抗競技は、いかがでしょうか？簡単な算数や社会知識等。
- ・災害時をテーマにした講座希望・人名救助講座・感染予防講座
- ・生涯学習で学んだ事を地域に活用する為には、まず地域が何を求めているのかがわからないと活用するのは難しいと思います。
- ・色々な健康法、スポーツがあると思いますがそれぞれの年令と体調におうじたスポーツ教室が近所にあると良いと思います。
- ・仕事が忙しく、なかなか生涯学習などの講座に参加したことはないですが、育児など落ちついたら、自分の生きがいなどの為に、ぜひ、参加したい気持ちがあります。今後も市民の意見などを聞いて、イベント等をやっていてほしいです。

- ・講習時の参加者の質問について、親切、丁寧な対応をして頂ける講師を講じて頂きたい
- ・長寿大学に通った方々がたくさんの人達が地域でボランティア活動してほしいです。
- ・はごろも長寿大学の時間数が短い(約半年か1年)ので内容も考えて頂きたい(弁当自参等もいいのでは) 県のかりゆし大学を参考にしてみてはどうですか！先生の人選もよく考えて頂きたい。
- ・沖縄料理や陶芸・昔ながらのかご作り等をしてみたいです。
- ・文化・芸術(映画館、演劇、音楽の為の場所、美術)の為の講座や体験・経験できる何か(公演、施設など)の充実。
- ・これからも子ども達の為にも教育や絵の展示会とか力を入れて下さい。
- ・生涯学習を充実させた教室などをひらいてほしい時間設定も何パターンか用意してほしい。例えば花、草木が好きでガーデニングや、写真が好きで銀塩写真の現像をクラブでやれるとか撮影会を企画するとかカメラ人口は多いと思うので盛り上げていく企画は参加者全員が考えられると思う。強制されるものではないので、楽しめる勉強会として構成・演出できる企画かがポイントとは思う。行きたくなる学習会に!!
- ・環境美化を推進する教育が不足していると思われる。海、浜を美しく保つ教育が欠けている。
- ・生涯学習は人にとって必要なものと思っています。その人の成長、生きがい、やりがいにも通じるものがあります。新企画も少しずつ加えながら開催されるよう願っています。
- ・生涯学習を小さな子ども達から高齢者まで続けていく事で「ゆいまーる」の心を育てる事が出来る。とても良い事業だと思います。夏休みの講座等で、両親が居て参加できる子ども達は良いのですが、不登校の子ども達や親が子育てに無感な状況の中にいる児童・生徒達が参加しやすい企画の講座があるといい継がりがつくってほしいと思う！
- ・地元の有志山田真山ことについて興味があります。
- ・分散している生涯学習施設の情報を一括して紹介する窓口サービスや、紹介するサポーターの育成、魅力的なコンテンツを作成する民間力の活用が必要かと思えます。参加してみたいけどあと一歩が踏み出せない人をステージに上げるための一押しやメニュー開発を通して参加人口を増やすこと。
- ・zoomなどを通したオンライン講座をどんどん普及させてほしい。行政のオンラインの取組は遅いと思う。
- ・県外から移住してきた人に沖縄のことを伝える、また知り合いや友人が増やせる場所があったらいいと思った。
- ・これからは市民が出向いていく講座や体験などと並行してインターネットを利用した学習、講座も充実させていくことが大事なことだと思います。ハードでは中央公民館、図書館、博物館を利用できるので3か所のネットワークをさらに強化させて、そこに、インターネット環境を充実させ3つの館へ足を運んでも、家にいても学習ができる環境を整えたらよいと思います。
- ・子どもたちは学校以外の学習(あそび)は、あまり活発でないと思います。子どもたちが今、何をしたいのか、何が 필요한のか、それを見極める必要があると思います。そのためには、発信者である行政の担当者の方々の世界の中から情報を探し出していく目や耳も大事だと思います。
- ・宜野湾市には、沖縄国際大学、隣には琉球大学があります。専門知識をたくさん持っている大学の先生方、生徒の皆さんとも、ぜひ、ネットワークを強化、連携して頂き、宜野湾市の生涯学習活動を盛り上げてくれたらと思います。
- ・子ども向けの体験、申し込んでも定員オーバー。働いていたら平日に申し込みは厳しい。定員や申込みの方法を工夫して欲しい。

○施設・施策について

- ・図書館の蔵書数をもっと充実させてもらいたいです。
- ・中央公民館には用事がないと入りにくいと感じる。見学に行くと何に？って感じでみられた。そうでないかも知れないが、私の思い込みかも。
- ・公報紙や新聞に講座のお知らせを見て利用しているが、若い人達の中には、広報紙はあまり見ない新聞とってない...という人が多いです。スーパーやリウボウ等、告知板にも中央公民館講座の活動や利用など告示した方が市民に広まるのだと思います。
- ・学習スペース、利用時間の拡大。
- ・清潔なスペース、イートスペース・大人の交流の場として使えるようにする
- ・体育館やビーチなどで安い料金で参加できる(1時間500円とか...) ヨガ教室があると良い
- ・宜野湾市民図書館は開館時間が遅く、閉館時間が早いです。これでは長時間の勉強ができません。一日10時間勉強したいです。なので、開館を10時から、閉館を22時までして欲しいです。
- ・インターネットを活用して調べものをするためのサービスの充実。
- ・いつも駐車場が車がとめられるか気になる。車の時代だから駐車場が広い方がいい
- ・大謝名近隣に中央公民館の様に皆が気軽に利用できる様な施設を作ってほしい
- ・図書館や安全に利用できる公園は、増やして欲しい。
- ・宜野湾にも、もっと勉強できる施設やWi-Fiの整ったカフェみたいな施設を増やしてほしい。
- ・老人福祉センターで陶芸サークルに参加し、作品作りを楽しんでいる者です。同センターは市が民間に管理委託で運営しているようで、教育委員会がその内実をどの程度まで把握しているか分かりませんが、陶芸窯は何十年前の設置で時々不都合、不具合の中、窯を熟知した先生が居て何とか利用できている状況です。いつ、利用できないことになるかも知れません。このような状況を改善し、老人センター利用者の健康管理、生きがい、楽しみを支援願います。もちろん作品づくりのための粘土、釉薬、小道具などは各自の負担で行っております。
- ・市民図書館は話題作が借りられる事は良いのですが、市民会館の図書館はもう少し差別化しても良いと思います。絶版の本や予算はあると思いますが高額な資料本など専門にするなど。
- ・気軽に入れるスペースが少ない気がします。カフェのようにふらりと入れたり、長時間いたいと思わせる場所がない。

コンベンション近くにそういう場所があるけどもっとそういう場所を作ってほしいです。

- ・宜野湾にも市民プールなどがあれば嬉しいです！浦添市のプールのような市民割引があるような…
- ・市民会館、中央公民館を新設する
- ・真栄原からだ、中央公民館や体育館など少し遠いので近場で学習できる機会があれば嬉しいです。
- ・高齢者の方は集まる所に行くまでの交通手段がかなり少ないと思います。
- ・家族の介護に追われて自分自身の自由な時間も場所も得られないで生きている女性があります。ただ一人で休みたい、一人の時間が欲しい体がたくた、そういう事をクリアしてからの生涯学習への意欲は出てくると思います。日々の生活に追われている人の支援がどこかでしっかりとられることを望みます。

○広報

- ・市役所のホームページに、生涯学習の紹介をしたり、皆が、目に止まるようなポスター作成をするなどしたらどうか。
- ・学生さんたちとともっとまきこんで、地域活性化について若者が年配の方から知識を身につける機会を増やしたほうがいいのか、学校とかへのPRを積極的に取りくんでほしい。
- ・見える形で情報発信がきちんとされていますが、講座など生涯学習については今いち情報が分かりにくい。広報の中に、様々な情報が1つになっているのは良いのですが、いまいち他の情報との差異化がされていないような気がします。巻末に(絵)このように大き目に見だしなどして、最後の1～2ページは生涯学習や学習できる場所のことに(博物館や図書館の情報など)という風にできればいいのかなと思っています。
- ・大学・高校への広報のチラシ・ポスターを提供し、周知してほしい。
- ・以前サークル活動していたけど、オマハカルチャースクールに通っている。中央公民講座は会費等安いけどカルチャースクールと違ってしぼりがある感があり不自由な感じがした。
- ・それぞれが活動している状況をもっと広く知らしめる工夫が欲しい。
- ・期間のある講座だと毎週の参加がむずかしいことがあります。別の日で同内容の受講ができたり一回で集中して終了できたりすると不規則時間で仕事している身にはうれしいです。
- ・LINEで日常で必要な情報も流してくれると助かります。今0歳児の子育てをしているので、なかなか外に出ることもできないので、子育てに関する情報(〇〇の申請開始、親子学級のお知らせ etc.)などを流してくれると助かります。
- ・紙媒体だけでなく、LINEやTwitterなど学生さんにも親しめるような広報があればいいなと思います。年配の方だけをターゲットにしていると廃れていくだけだし、もったいないです。

○提案

- ・宜野湾市でスイミングスクールの実施。普天間が近い場所なので、地域活性化にもつながり良いのではないかと考えます。
- ・外国人の多い地域であるにもかかわらず、案内物やチラシなど英語での表現が少ないように思います。もっと国際都市を意識し活動のばをを広げてもよいかと思います(宜野湾市全てのセクションにおいて)アンケートに何度か答えています。結果を目にする機会がありません。せっかく予算を投じているのだから、もっと広く結果を周知して、市民の意識向上をはかっても良いのかなと思います。
- ・大きな本屋さん(絵本から専門書もある)を誘致してほしいです。学校も多くあるのに本屋さんが少なすぎると思います。子どもの頃から本に触れる、本が身近にある環境は教育の面からも大切な事だと思うのです。(図書館の運営へも同じ事が当てはまると思うのですけども…)
- ・もっと市民にとって食べ物や栄養のもとに触れる機会があっても良いのかなと思っています。専門的な知識を持った職の人々は結構いると思うので、それを活かした事業があると楽しそうです。
- ・宜野湾市が人材を育てることができるとよいかと思います。宜野湾市が必要な技術や知識を習得できる講習会等を企画して、その後、宜野湾市が必要なときに活躍の場を提供できれば地域活動につながっていくのでは？
- ・中央公民館や博物館など若者が集まる催しを開いて興味づけしてほしい。ゲームやユーチューバー、K-Pop 関連など。そこから世界の若者のIT事情を知ってもらい、まずはパソコンや携帯などのIT活用の促し。同時に成人向けの身近なIT活用術などの催し等を開催してほしい。地域の専門学校や企業なども一緒に参加してもらってはいかがでしょうか。
- ・もっと市民の声に耳を傾けたら面白い事が沢山できるし、参加型の市を築いていけるのではないかな？小中高大学生などへのアンケートも、市として価値のある物が得られると思う。若い人達が参加して初めて活性化していくのではないかな。
- ・公園にゴミが平気で捨てられていることが気になる。地域の方と小中学生が一緒になって、清掃活動するのはどうか。

○その他

- ・小・中学校でのいじめ問題に大人(教師)が無教養なのが目立ちます！その影響で子ども達に負担が増し、多くのいじめに繋がっている。
- ・当たり前の事が、大人が出来ていない、(挨拶)など子ども達に指導する立場の大人自身が出来ていない！教師、保護者の教育が必要！
- ・宜野湾市に限らず沖縄全域的に、科学、技術、工学、数学力が弱い。宜野湾市は琉大があるのだから彼らに協力を願うしてはどうか？
- ・小学校(大山小)での教育活動に、先生方の指導に日々感謝しています。休校の際には、休日にもかかわらず、資料・課題の配布もして頂きました。webでの情報提供(学習面)においても、様々な工夫があり、先生方の子達に対する熱意がたくさん伝わりました。

- ・小学生の部活について…週1（平日）の休みでは、体にも厳しい、学校の学習との両立ができません。部活を休むとコーチ指導者の機嫌が悪くなる。土日は5時間部活にしばられ、大会も土日終日、もちろん親もつきそい…家庭の時間はありません。地域の生涯学習が充実しても、この現状では、参加（子と一緒に学ぶ）等は無理です。小学生の部活について急速に対応して頂きたいです。
- ・「市史」について…編纂、編集、取材、原稿作成、印刷、校正、印刷、製本、正誤表を添付、そして配本、という流れで作成されると思いますが、いくつかの市史の中から「ぎのわんの地名、内陸部編 本文」をみて固有名詞の誤表記が少なからずあり、それも正誤表がないのは大きな問題と思います。後世、市史の表記が正統とされ、民間伝承の表記がまちがいとみられるからです。誤表記が発生したのは地域を、また地域の方々を訪ね取材し原稿書きの段階か、あるいは活字化した時にうっかり変換ミスとなり、校正者の検証不足でパスした、とみられる。そこで提案、全自治会に本文、資料を全てチェックしてもらい正誤表を作成、提出してもらい、いちらん表にして、関係先あるいは希望者（既購買者含む）に配布してもらいたい。
- ・今回のように市民の意見を広く求めてそれを今後の取り組みで生かしてほしいと思う。ただアリバイづくりのために役所仕事（何もしないポーズだけの仕事）はしないで市民・住民の目線で企画立案してからさまざまな政策を進めてほしい。期待しています。私がこのアンケートに協力したことを無駄にしないで下さい
- ・教育委員会が何をやっているのか、詳しくはよく分からないが、子どもたちの体操服をひざだけにするべきだと思う。短い体操服には一つもメリットがない。だが、デメリットはたくさんある。肌にコンプレクスを抱えていたりする人は、自尊心がけずられていくと思う。また、子どもたちに様々な視点を持たせるためにも、講演会などを開くべきだと思う。他にも貧しい親元にいる子どもたちの相談センター等があればいいと思う。
- ・電子アンケート回答しやすくしていいですね！今後も是非この形式で沢山アンケートを行なって欲しいです。メール等で都度お知らせいただければ、回答いたします。
- ・市民からのこのアンケートが宜野湾市民の為にすぐさま繁栄される事を期待しています。
- ・アンケートに協力したいと思いつつもなかなか書けずにいたので、インターネットでの回答方法があつて良かったです。また、SNSで回答期限延長の周知を流していただいたのも、期限を忘れていたので良かったです。担当の方の工夫が伝わりました。
- ・勉強させて世に貢献出来るような人をうみたいなら、子ども達に力を入れるべき。子どもだけじゃなくて、子どもと親が一緒になって学ぶべき。例えば言語だったら、定番のりんご。りんごのカードを作ってこれは何??とか聞いてりんごって答えられたら褒めて、りんごはどの仲間??とかで、フルーツなのか野菜なのかとかそこからまたクイズみたいに出して、子どもにどう教えていけば良いのかわからない親にもヒントになるだろうし、子どもも一対一の、役所の人とママと自分だけで、リラックスして出来ると思う。親にも子にも良い刺激になると思うし、そんな時間が2ヶ月に1回でもあれば、楽しいと思う。次に向けて学んだり。希望する家庭にだけ、家に訪問したら??それか、ちゃんとコロナ対策のとれた場所で希望する家庭だけでやるか。他の家庭もまとめてじゃなくて、1家庭のみで行う。15分から30分くらいだけで良いと思う。内容は、年齢によって変えて。レベルの高い子にはレベル段階を上げてやってみたり。

2. 団体ヒアリング概要

○宜野湾市青年連合会

1) 活動について

- ・ 警察からの依頼で月 1 回、夜間パトロールを実施し主に参加している。警察の意向は年齢が近い人からの指導であれば指導を受ける側も受け入れやすいということであり、青年会としても青年会への勧誘ができる。
- ・ 小中学校のエイサー指導（運動会に向けて）や卒業式の警備をしている。
- ・ 地元の青年会に入っている人は、お年寄り等とも顔見知りでコミュニケーションが取れるため、災害時にも役に立つかもしれない。

2) 活動における課題等について

- ・ 最も課題だと感じているのは、年々入会者が減少していることである。入会者が少なくて消滅してしまった青年会もある。
- ・ 青年会は地域の働き手となっているため、会員が減ってしまうと、地域活動（清掃やパトロール）や地域の行事に対するひとりひとりの負担が大きくなる。その負担によって退会者が出てしまう等、悪循環になる。

○宜野湾市体育協会

（「宜野湾市体育協会」は、令和 3 年 4 月 1 日から「宜野湾市スポーツ協会」に名称を変更します。）

1) 活動について

- ・ 体育協会は生涯学習としてのスポーツ推進を担っており、スポーツを通じて各自治会の活発な運営を支援する活動をしている。主な事業としては宜野湾市支部対抗陸上競技大会と県民体育大会の 2 つの行事である。
- ・ 宜野湾市支部対抗陸上競技大会は長年続けてきていたが、出場選手が少ない状況等があり、再度盛り上げるため、平成 29 年に年齢や障がいの有無にかかわらず、すべての市民が参加できるよう、スポーツ少年団や小中学校へ働きかけ、1,000 名程度の参加があった。
- ・ 体育協会のスローガンである「いつでも」「どこでも」「だれでも」になぞらえ、70 回の記念大会には、選手を集めて障がい者スポーツ「車いす陸上」のデモンストレーションを実施した。
- ・ 子どもの頃に体育大会に参加した記憶を残し、10 年後の宜野湾市のスポーツ人口を維持、増加させるため、スポーツ少年団に宜野湾市支部対抗陸上競技大会への参加を促した。

2) 活動における課題等について

- ・ 課題としては、支部対抗陸上競技大会は自治会対抗となっていることから自治会が選手を集めることが難しいことがあげられる。体協としては大会については自治会に加入してなくても登録させれば、今後の自治会の会員増加につながるのではないかと考えているが、現時点では各自治会の会員になっていなければ自治会の登録選手にはなれない状況がある。
- ・ 体育協会の常任理事会には自治会長会の会長に入ってもらって、2 か月に 1 回の会議を行っており、また、体育協会での取組について月 1 回実施される自治会長会で協力依頼をする等、連携をとっている。
- ・ 支部対抗の大会を通して、自治会員を増やし、スポーツを通じて地域を盛り上げることを自治会と行政と連携してやっていきたい。

○婦人連合会

1) 活動について

- ・ 学校教育については、地域コーディネーターを通じて学校ボランティアに参加している。地域コーディネーターから婦人会を通じて呼びかける場合や個人に声がかかる場合もある。
- ・ 学校ボランティアとして参加しているのは、小学校が主で、絵本の読み聞かせやミシンボランティア、1年生の給食配膳の補助等である。
- ・ 婦人連合会としては新1年生に交通安全母の会として毎年手作りのお守りを各小学校へ贈呈している。
- ・ ボランティアが数名入ることによって素直になれない子どもに対して粘り強く接することで素直になってくれる等、先生1人で多くの生徒を相手にすることは違って、子ども1人1人に対して細かく配慮してあげられるとともに、子どもたちは先生と立場の違った地域の「〇〇さんのおばあちゃん」がフォローするのは素直に聞ける場合があると感じている。
- ・ 毎週月曜日、あいさつ運動で学校に行っている。前はダラダラと登校する子もいたが、今は全員が8時までに登校しているように感じる。子どもたちの言葉遣いもしっかりしてきていると感じている。ほとんどの子があいさつもきちんとしている。
- ・ 若いお母さんたちの頑張りが子どもたちを通してよく見える。
- ・ 昔よりも地域が子どもたちの教育を押し上げていることは間違いないと思う。地域が学校へ関わるが増え、ボランティアで毎朝、旗を持って交通安全運動をしたり、あいさつ運動をしたりということも効果だと思う。
- ・ 学校においても、登校した後のカリキュラムがしっかりしている。家庭教育、地域の教育、学校教育の相乗効果だと思う。

2) 課題について

- ・ 将来、地域を支えるのは子どもたちであり、子どもが良くなれば地域がよくなると考えている。子どもたちのために学校側が大いに地域を利用してほしい。
- ・ 公民館に行けば、誰かがいてお茶を飲みながらの会話の中から、地域のことやこれからやりたい事等が出てくる。そのため、日常的に学校の校長先生や担任の先生等にも公民館に来てもらって情報交換してほしいと思う。
- ・ 婦人会の会員は少なくなっているが、学校ボランティア等に関しては出来るときに参加しているため、負担には感じていないし、もっと子どもとの関わりを増やしていきたい。
- ・ 近年は、自治会に加入する人が少なくなり、地域のことを支える婦人会も少なくなっている。また、家族が自治会に加入すれば、若いお母さんと婦人会との関わりが出てくるため、子どもを地域で育てることができるが、それも難しくなっている状況である。なかには子どものためにと自治会に加入しに来る人もいる。
- ・ 現在は自治会が地域を把握しておらず、自治会への勧誘もできていない。役所が転入者に対して自治会の案内もした方がよい。

○宜野湾市文化協会

1) 活動について

- ・ 昭和 57 年に宜野湾市民会館が建てられ、施設を利用し宜野湾市の文化を発展させる母体として昭和 59 年に文化協会が発足した。
- ・ 現在、20 の専門部があり、会員は 850 名である。毎年、文化祭と芸能祭を実施している。その他には県外や離島との交流事業を実施している。
- ・ 文化協会の会員が参加できる文化祭と芸能祭を開催しており、芸能祭は各教室の先生（教師、師範等）の発表の場として設けられており、芸能祭をやっているため、古典部については他の市町村に比べて層が厚い。
- ・ 文化協会の活動として一般市民に向けた活動はしていないが、会員の発表の場を設けることで、各団体や教室の活性化につながり、市内における文化の活性化につながっている。
- ・ 学校教育へは学校からの依頼があれば講師派遣などの協力は可能であるが、学校と講師のマッチング等はまだ実施していない。

2) 活動における課題等について

- ・ 文化協会としての課題は、会員数の減少と高齢化がある。そのため、市内各教室の高齢化も考えられ、若い世代の文化活動が減少している可能性がある。
- ・ 展示に関しても発表の場となる会場が狭いこともあり組織的にも弱い。若い人たちがなかなか入らないことから、毎年同じ人が出ている印象もある。
- ・ ちなあぐち部については、各教室という団体では動いておらず、その組織づくりも難しい。
- ・ 芸能祭と隔年で実施するなどの工夫をして、古典部以外のレク部やハワイアンカルチャー部等の新しい文化についても活性化のための発表の場を設けたい。
- ・ うるま市でやられているような、子どもたちに舞台（組踊等）を継続的に経験させられる組織づくりをしたい。

○地域コーディネーター

1) 活動について

- ・ 地域コーディネーターの仕事としては、ボランティアや専門家等と学校をつなぐ役割。
- ・ 常に一定数のボランティアの方がおり、今年は 20 名程度である。ボランティアに入る方は、仕事をしていても、していなくても、深く学校と関わりたいと思っている方で、その方々が別の方をボランティアに誘うという流れがある。
- ・ ボランティアや専門家、大学生等とのネットワークづくりは、常に色々な場所でボランティアをするようにしており、そこで知り合った方々や大学生を子どもたちに繋げている。また、常に自治会に参加して婦人会の活動や地域の行事にも参加してネットワークを作っている。
- ・ 幼小中連携の施策もあることから、中学校の地域コーディネーターとは多くやり取りをしている。中学校では PTA よりも地域の方がボランティアに入ることが多い。
- ・ 地域コーディネーターも自ら現場に入り、授業のサポート等を行っている。先生方から子どもたちに体験させたい事等を相談されることも多く、先生に対して情報提供をしている。できるだけ先生方の負担にならないように授業のコマ数に入る体験等を提供するようにしている。

- ・ 放課後子ども教室は、子どもたちの心のよりどころにもなっており、需要は高いと感じている。

2) 活動を通して感じていることについて

- ・ 学校教育のボランティアをしている中で、先生たちにも得意なこと苦手なことがあり、先生たちのフォローが必要なことが見えてきた。また、先生たちはお手伝いが必要でありながらも、誰に頼んでよいのかわからない状況があることが分かった。
- ・ 子どもたちも先生でもなく親でもない大人との関わりで子どもたちが成長でき、学校が良い方向に向かうことを感じている。
- ・ 子どもたちとのやり取りの中で、子どもとのコミュニケーションに迷ったときに専門家からアドバイスを受けることができ、自分自身の成長にもつながっている。
- ・ 先生方もアンダーコントロール等をしっかり研修で身に付けていて、教科書とは違うクラスのレベルに応じた授業をする技が深くなっていると感じている。
- ・ 先生や地域コーディネーター、ボランティア、スクールカウンセラー等の大人が子どもたちのためにどうした方がよいのかを伝え合うことができ、次につながられていることで、学校がよくなってきていると感じている。

3) 活動を通して見える課題について

- ・ 先生とは違う目線で子どもたちを見ていて感じることは、幼稚園の子どもたちが、あいさつが上手になっていたり、笑顔が増えていたり人懐っこくなっているが、集中力がなく座ってられない子どもが増えていていると感じる。
- ・ 子どもたちが大人に時間を決められて、自分の集中する時間があっても中断して次のことをしなければならないということが小さな頃からある。子どもたちは常に誰かの指示を待っており、集中力がなくなっているのではないかと思う。常に指示を待っているため、自分の欲求をつかめておらず、何の指示もなくなった時に何もできなくなると思う。
- ・ 子どもたちの経験値を上げるため、子どもたちには色々な体験をさせたいと思い、ボランティアで専門家の人を学校に呼んで子どもたちに関わってもらっている。子どもたちの経験値を上げることで、考える力の向上や自分が何をやりたいのか考えるときに視野を広げてあげられると思う。

4) 活動における課題や改善点について

- ・ 改善してもらいたい点は、地域コーディネーターのためのスペースの確保である。授業等以外の時間帯で待機でき、資料を保管する場所があれば、活動の幅は広がると思う。先生方とのコミュニケーションはとても大切で、ダイレクトに話をする方がよい。地域コーディネーターの居場所があれば、先生方も声をかけやすくなる。今は先生とのやり取りはPTA 事務を通さなければならない状況がある。
- ・ 学校の中で地域コーディネーターがどういう立場なのか、制度を明確に周知して、きちんと認知してほしい。学校を良くしていくためのチームの一員だと思って関わっているのに、先生方等に立場を理解されていないと地域コーディネーターのモチベーションが下がってしまう。保護者の中での認知度も低いと思う。
- ・ 体育の授業にボランティアを入れるなど、先生の不得意とする部分をボランティアで補えるようにした

い。実際に大山小学校では妊娠中の先生に代わって大学生のボランティアが体育の授業に入って指導をしていた。

- ・ 中学校では親が中学生になってまではボランティアを必要としていないと考えて線を引き、ボランティアに参加しないことが課題である。
- ・ ボランティアで入る人は多くいるが、地域コーディネーターや放課後子ども教室のコーディネーターは地域の方との調整や責任等があるため、負担に思う方が多く担い手は少ない。
- ・ 自治会活動の中で抜けている年代が小学生のお母さんたちの年代である。そのため、小学校のボランティアを学校の中から探せば、ボランティアの方々を地域に発信することができ、いつか地域が活性化され、将来の自治会が支えられると考えている。
- ・ 子どもたちは地域で育つので、若いお母さん方が PTA 活動や地域の活動に参加しやすいようにできるだけ配慮しているが、自治会や婦人会の活動に参加する方が少ない。自治会や婦人会に入ると若いお母さんたちが助かるということをもっとアピールした方がよいと思うし、実際に大山では学校と地域が連携して親子で参加できる取組（つなひき等）を行っている。

3. 策定の経緯

月日	内容等
令和2年6月5日	第1回宜野湾市教育振興基本計画策定委員会 議題 委嘱状交付 委員長・副委員長の選任 計画の概要説明
令和2年7月9日 ～7月22日	アンケート調査実施 ・学校教育に関する児童生徒・保護者・教員アンケート ・生涯学習実態調査（無作為抽出による市民アンケート）
令和2年7月15日 ～7月28日	社会教育関係団体及び地域コーディネーターのヒアリングの実施
令和2年11月24日	第2回宜野湾市教育振興基本計画策定委員会 議題 第二次宜野湾市教育振興基本計画（素案）について
令和2年12月25日	第3回宜野湾市教育振興基本計画策定委員会 議題 第二次宜野湾市教育振興基本計画（素案）について
令和3年1月13日 ～1月28日	第二次宜野湾市教育振興基本計画（素案）に関する市民意見募集 （パブリックコメント）
令和3年2月10日	第4回宜野湾市教育振興基本計画策定委員会 議題 第二次宜野湾市教育振興基本計画（案）について
令和3年2月22日	第二次宜野湾市教育振興基本計画 教育委員会議決

4. 宜野湾市教育振興基本計画策定委員会規則

平成 26 年 5 月 16 日

教育委員会規則第 6 号

改正 令和 2 年 5 月 21 日教委規則第 10 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、宜野湾市附属機関設置条例(昭和 55 年宜野湾市条例第 9 号)第 3 条の規定に基づき、宜野湾市教育振興基本計画策定委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会の任務は、次に掲げる事項とする。

- (1) 本市教育の理念及び将来的にあるべき教育の目標に関すること
- (2) 基本計画に関すること。
- (3) 重点施策に関すること。
- (4) 前各号に定めるもののほか、策定に関して必要なこと。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 15 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者をもって組織し、教育委員会が委嘱又は任命する。

- (1) 社会教育関係者
- (2) 学校長関係者
- (3) PTA 関係者
- (4) 学識経験者
- (5) 市の職員
- (6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年以内とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の規定にかかわらず、委員が委嘱又は任命された時における当該身分を失った場合は、委員の職を失うものとする。

3 委員の再任は妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選でこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会において必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(部会)

第7条 委員会は一定の事項を調査及び協議させるため、必要に応じ部会を置くことができる。

- 2 部会に属すべき委員は、会議の議を経て委員長が指名する。
- 3 部会に部会長及び副部会長を置き、部会の委員の互選でこれを定める。
- 4 部会長は、部会の会務を掌理する。
- 5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 6 前各項に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が委員長の同意を得て定める。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育部総務課において処理する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則による最初の委員会の会議は、第6条第1項の規定に関わらず、教育長が招集する。

附 則(令和2年5月21日教委告示第10号)

この規則は、公布の日から施行する。

5. 宜野湾市教育振興基本計画策定委員会委員名簿

委嘱又は任命期間 令和2年6月5日～令和3年3月31日

NO	氏名	所属団体の名称・役職		選出区分	備考
1	たわだ みのる 多和田 実	琉球大学 大学院教育学研究科 高度教職実践専攻（教職大学院）	准教授	学識経験者	委員長
2	せと ひろふみ 背戸 博史	琉球大学 地域連携推進機構	教授	学識経験者	副委員長
3	たわた ふみこ 多和田 文子	宜野湾市社会教育委員	議長	社会教育 関係者	
4	なかむら むねお 仲村 宗男	宜野湾市青少年健全育成協議会	会長	社会教育 関係者	
5	ともよせ たつろく 友寄 辰六	宜野湾市スポーツ推進委員	副会長	社会教育 関係者	
6	なかち まゆみ 仲地 真由美	宜野湾市 PTA 連合会	会長	PTA 関係者	
7	まつまえ ひでゆき 松前 英行	公募委員		教育委員会が 必要と認める者	
8	ねろめ つよし 根路銘 敢	宜野湾市立 真志喜中学校	校長	学校長 関係者	
9	みやひら いくこ 宮平 育子	宜野湾市立 長田小学校	校長	学校長 関係者	
10	か で な たかこ 嘉手納 貴子	宜野湾市教育委員会	教育部長	市の職員	
11	またよし なおまさ 又吉 直正	宜野湾市教育委員会	指導部長	市の職員	

第二次宜野湾市教育振興基本計画
令和3年3月発刊

発行：宜野湾市教育委員会 総務課

住所 〒901-2203 宜野湾市字野嵩 730 番地

TEL 098-892-8280

FAX 098-892-0116

HP <https://www.city.ginowan.lg.jp>

